

新保田中村前遺跡Ⅱ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

住居・竪穴状遺構の調査

《遺物観察表編》

1992

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

しん ぼ た なかむらまえ
新保田中村前遺跡Ⅱ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

住居・竪穴状遺構の調査

《遺物観察表編》

1992

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

例言・凡例

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊「新保田中村前遺跡Ⅱ」《遺物観察表編》である。

2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に、記載している。遺物の種類ごとに表の書式は異なっている。遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。

①器種 《石器》 UF=Used Flake(使用痕のある剥片)、RF=Retouched Flake(加工痕のある剥片)

②法量 《土器・石器》 口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大直径

石器の厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。

なお、計測値に () を付したものは復元値である。

《木器》 単位：cm + α : 測定値が残存値であることを示す ϕ : 芯持ち材の直径

③色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。

④樹種 《木器》 観察表中の樹種の同定は高橋利彦氏の以下のような26科37分類群(Taxa)の設定に拠る。

イチイ科	カヤ(<i>Torreya nucifera</i>)
イヌガヤ科	イヌガヤ(<i>Chephalotaxus harringtonia</i>)
マツ科	モミ属(<i>Abies</i> sp.) マツ属複雑管束亜属(<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> sp.)
スギ科	スギ(<i>Cryptomeria japonica</i>)
ヒノキ科	ヒノキ属(<i>Chamaecyparis</i> sp.)
ヤナギ科	ヤナギ属(<i>Salix</i> sp.)
クルミ科	オニグルミ(<i>Juglans ailanthifolia</i>)
カバノキ科	カバノキ属(<i>Betula</i> sp.) ハンノキ属(<i>Alnus</i> sp.)
ブナ科	ブナ属(<i>Fagus</i> sp.) コナラ属アカガシ亜属(<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> sp.) コナラ属コナラ亜属コナラ節(<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i> sect. <i>Prinus</i> sp.) コナラ属コナラ亜属クスギ節(<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i> sect. <i>Cerris</i> sp.)
ニレ科	クリ(<i>Castanea crenata</i>) ニレ属(<i>Ulmus</i> sp.) ケヤキ(<i>Zelkova serrata</i>) エノキ属(<i>Celtis</i> sp.) ムクノキ(<i>Aphananthe aspera</i>)
クワ科	ヤマグワ(<i>Morus bombycis</i>)
カツラ科	カツラ(<i>Cercidiphyllum japonicum</i>)
バラ科	サクラ属(<i>Prunus</i> sp.)
ミカン科	コクスギ(<i>Orixa japonica</i>)
トウダイグサ科	シラキ(<i>Sapium japonicum</i>)
ウルシ科	ヌルデ(<i>Rhus javanica</i>)
カエデ科	カエデ属(<i>Acer</i> sp.)
トチノキ科	トチノキ(<i>Aesculus turbinata</i>)
ムクロジ科	ムクロジ(<i>Sapindus mukorosii</i>)
クロウメモドキ科	ケンボナシ(<i>Hovenia dulcis</i>)
ツバキ科	ヤブツバキ(<i>Camellia japonica</i>) サカキ(<i>Cleyera japonica</i>) ヒサカキ類似種(cf. <i>Eurya japonica</i>)
ウコギ科	ウコギ属(<i>Acanthopanax</i> sp.)
エゴノキ科	エゴノキ属(<i>Styrax</i> sp.)
モクセイ科	トネリコ属(<i>Fraxinus</i> sp.)
ゴマノハグサ科	キリ(<i>Paulownia tomentosa</i>)
スイカズラ科	ニワトコ(<i>Sambucus sieboldiana</i>)

目 次

1. 村前地区のカマド付設住居	3
2. 下り柳地区のカマド付設住居	53
3. 炉付設住居	54
住居出土獣骨一覧表	103
4. 竪穴状遺構	104

1. 村前地区のカマド付設住居

30号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図4

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
910	土師器 杯	口縁部破片 口 (10.2cm)	埋没土中	①微細砂・白色鉾物細粒を含む。②硬質。 ③明赤褐2.5YR5/8	内外面横まで。	
912 115	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 11.6cm 高 3.8cm	南東 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面篋まで。口縁部内外面横まで。	
913 115	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (13.0cm)	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り後、などで調整。内面などで調整。口縁部内外面横まで。	
915 115	須恵器 高杯	脚部残存 底 16.4cm	北西 床面上10.5cm	①微細砂・白色鉾物細粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰10Y5/1	いわゆる長脚二段の透し孔をもつ高杯脚部。相対する一对の細長い孔が、器表面から切りとられている。内外面回転まで。脚裾部に一条、中位に二条の凹線が施される。	
914 115	土師器 甕	口縁部～体部上 位破片 口 (22.0cm) 高 (8.2cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部外面縦方向篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横まで。	
911 115	須恵器 鍋	口縁部～体部 4/5残存 口 (25.2cm)	南東 床面上2.0cm	①微細砂・黒色鉾物細粒を含む。②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	体部外面は平行叩き板、内面のあて具は同心円状のものを使用し、叩き整形を行っている。口縁部内外面横まで。把手はなでつけて、貼付している。	体部には刻書「寺」
917 115	須恵器 長頸壺	口縁部残存 口 8.7cm	南東 床面直上	①細砂粒・黒色鉾物細粒を多く含む。 ②硬質。③灰7.5Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。中位やや上に、凹線が二条施されている。	
916 115	須恵器 甌	体部残存 胴 10.0cm	中央 床面上2.5cm	①細砂・白色鉾物細粒を含む。②硬質。 ③灰7.5Y6/1	粘土紐づくり。体部外面下半横方向篋削り。頸部接合部内面に指などで痕が明瞭に残る。内外面回転まで。頸部中位、体部中位にそれぞれ一条、二条の凹線が施されている。	

31号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図6・8

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
920 115	土師器 杯	口縁部～体部下 位破片 口 (11.6cm)	北西 床面上7.0cm	①細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部横まで。口縁端部は細くつままれ、内湾する。	
921 115	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.8cm)	北西 床面上11.0cm	①砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部横まで。口縁部は大きく外反する。	
922 115	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.4cm)	埋没土中	①微細砂・砂粒を多く含む。②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横まで。	
923 115	土製品 支脚	基部欠損 現存長 14.2cm 現存最大径 8.3cm	貯蔵穴内 底面上1.8cm	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	粘土塊を七角錘状に削り出している。	
918 115	土師器 甕	口縁部～体部下 位2/3残存 口 (24.2cm)	南東 床面上2.2cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐10YR5/3	体部外面縦方向篋削り。内面上半横方向篋まで、下半斜方向篋まで。口縁部内外面横まで。口縁端部は大きく外反し、最大径19.4cm。	
919 115	土師器 甕	口縁部～体部上 位残存 口 (18.6cm)	貯蔵穴内 底面上4.8cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋まで。口縁部内外面横などで調整。口縁部下位から頸部外面の横までは篋状工具で施されている。	

35号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図9・10

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
928 115	土師器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (18.0cm) 高 6.0cm	カマド内 灰面上7.0cm	①細砂・微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。	
930 115	須恵器 高台付椀	底部破片 底 (7.2cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉾物細粒・ 白色鉾物細粒を含む。 ②硬質。③灰白7.5Y7/1	底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。	
929 115	瓦 女瓦	厚 2.0cm	埋没土中	①白色粒子含 ②焼締 ③灰10Y6/1	表面に寄木条痕があり桶巻作。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文あり。側部に面取1回あり。	吉井・藤岡。

35号住居出土遺物観察表《石器》 図10

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S382 116	切石	18.6・16.0 15.0	未固結凝灰岩 4010.0	カマド内 使用面直上	表面に深い線状痕が認められる。	
S383 116	敲石	11.0・4.7 4.3	粗粒安山岩 298.1	カマド煙道部 確認面直上	一端を欠損している。裏面を磨り面として利用している。	

63号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図11

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1041 116	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (11.8cm)	埋没土中	①微細砂・白色鉾物細 粒を少量含む。②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。口縁端部は丸く内湾する。	
1042 116	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.0cm)	カマド内 灰面上10.0cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。	
1043 116	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.8cm) 高 3.8cm	カマド内 灰面上2.5cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
1044 116	土師器 杯	ほぼ完形 口 10.8cm 高 3.8cm	北東 床面上1.5cm	①細砂・白色鉾物細粒 を含む。②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。	
1045 116	土師器 甕	口縁部～体部最 下部残存 口 23.2cm 高 (34.0cm)	カマド左袖芯 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部内外面横なで。体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。	
1049	須恵器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	カマド内 埋没土中	①シルト質。白色鉾物 細粒を含む。②硬質。 ③灰7.5Y5/1	内外面回転なで調整。極めて薄く仕上げられている。	
1046 116	土師器 甕	口縁部～底部 4/5残存 口 20.7cm 底 2.5cm 高 32.0cm	カマド右袖芯 床面上8.5cm	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。口縁部内外面横なで。	
1047	土師器 甕	体部下半1/2残 存	カマド前 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。	
1048 116	土師器 甕	体部中位～底部 1/4残存 底 9.0cm	カマド前 床面直上	①微細砂・白色鉾物・ 小礫を多量に含む。 ②硬質? ③にぶい黄橙10YR7/3	体部斜方向篋削り。内面斜方向篋削り。底部外面篋削り。	

64号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図13

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1051 116	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口(11.7cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
1123 116	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4残存 口(13.8cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。②やや硬質。 ③橙5YR7/6	体部外面横方向斲削り。上半横方向などで。内面などで調 整。口縁部内外面横などで調整。	
1050 116	須恵器 蓋	完形 口 12.5cm 高 5.1cm	北東 床面直上	①細砂・砂・白色鉱物 細粒を含む。 ②やや軟質。③灰5Y6/1	右回転口クロ整形。体部内外面回転などで調整。天井部 回転斲削り。	
1052	須恵器 埴	口縁部破片 口(7.9cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	内外面回転などで調整。	内外面に自然 釉。

64号住居出土遺物観察表《石器》 図14・15・16

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S399 117	こも編石	13.6・5.1 4.0	石英閃緑岩 414.8	北東 床面上8.9cm	裏面が磨り面として利用されている。	
S400 117	こも編石	6.6・3.9 3.9	粗粒安山岩 377.1	北東 床面直上	一端に微細な敲打痕を残す。	
S401 117	こも編石	13.7・7.1 4.5	変質安山岩 568.8	南東 床面直上	明瞭な痕跡は認められない。	
S402 117	こも編石	12.8・5.5 3.7	砂岩 394.6	南東 床面直上	一端に磨り面が認められる。	
S403 117	こも編石	12.9・6.3 4.6	粗粒安山岩 545.5	南東 床面直上	両端と一側縁、表面と裏面が磨り面として利用されている。	
S404 117	こも編石	13.0・4.8 3.7	粗粒安山岩 464.5	南西 床面上8.1cm	両端に敲打痕を残す。	
S405 117	こも編石	13.9・6.9 4.0	石英閃緑岩 520.4	南西 床面下5cm	全体に被熱による剥がれが認められる。	
S406 117	こも編石	15.0・5.0 3.5	変質安山岩 332.5	南西 床面直上	被熱による礫表面の剥落が顕著である。	
S407 117	こも編石	14.9・6.4 5.2	粗粒安山岩 766.7	南西 床面直上	一端に敲打痕を残す。一側面を磨り面に利用している。	
S408 117	こも編石	13.0・6.6 5.0	粗粒安山岩 686.7	南西 床面直上	一側面が磨り面として利用されている。	
S409 117	こも編石	13.4・7.3 4.1	粗粒安山岩 627.7	南西 床面直上	一端に敲打痕を残す。	
S410 117	こも編石	13.4・7.0 4.6	粗粒安山岩 520.3	南西 床面上4cm	裏面と一側面に磨り痕が認められる。	
S411 117	こも編石	11.3・6.6 3.9	ひん岩 517.1	南西 床面上3.4cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S412 117	こも編石	11.5・6.3 4.5	石英閃緑岩 492.8	南西 床面上5.4cm	表面の一部が風化し、一端の一部が剥落している。	
S413 117	こも編石	12.9・5.7 3.7	粗粒安山岩 402.2	南西 床面上7.3cm	被熱による礫表面の剥落が顕著である。	
S414 117	こも編石	11.2・5.0 4.2	粗粒安山岩 399.0	南西 床面上3.7cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S415 118	こも編石	12.2・5.7 4.5	変質安山岩 435.2	南西 床面上9cm	一端に敲打痕を残す。	
S416 118	こも編石	12.3・6.2 4.7	粗粒安山岩 476.0	南西 床面上6.8cm	表裏両面と一側面に磨り痕が認められる。	
S417 118	こも編石	14.1・7.4 3.4	流紋岩 544.0	南西 床面上7.7cm	表面に酸化鉄が付着している。明瞭な痕跡は認められない。	
S418 118	こも編石	12.1・7.0 4.0	粗粒安山岩 495.2	南西 床面上4.1cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S419 118	こも編石	14.1・5.9 3.4	黒色片岩 464.1	南西 床面直上	明瞭な痕跡は認められない。	

64号住居出土遺物観察表《石器》 図16

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S420 118	こも編石	13.5・5.5 3.2	変質安山岩 381.4	北西 床面上17cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S421 118	こも編石	14.0・4.8 4.0	粗粒安山岩 416.6	北西 床面上8cm	一端に敲打痕を残す。裏面と一側面が磨り面として利用されている	
S422 118	こも編石	13.6・5.7 4.0	粗粒安山岩 408.6	北西 床面上1.5cm	裏面と一側面に磨り痕が認められる。	

66号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図19

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1057	土師器 杯	口縁部破片 口 (10.2cm)	南東 床面上3.2cm	①微細砂を含むが、シルト質の精選された胎土である。②硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横まで。	
1058 118	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 (11.6cm) 高 3.6cm	北東 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横まで。	
1059 118	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (16.0cm) 高 (5.4cm)	南西 床面直上	①砂粒を含む。②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	体部から底部横方向篋削り。内面丁寧な調整。口縁部横まで。	

36号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
931 118	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.4cm) 高 (3.7cm)	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物細粒を含む。②やや硬質。 ③橙7.5YR6/8	底部外面篋削り後、などで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横まで。	
932	土師器 杯	口縁部破片 口 (18.1cm)	埋没土中	①微細砂を含むが、シルト質の精選された胎土である。②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り後、などで調整。削りの単位等、詳細は不明。内面丁寧な調整。口縁部内外面横まで。	
933	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/4残存 口 (18.4cm)	カマド内	①微細砂を多量に含む。②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/3	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋まで。口縁部内外面横まで。	
934	土師器 甕	口縁部破片 口 (14.6cm)	埋没土中	①小礫・砂粒を多く含む。②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	体部外面横方向篋削り。内面横方向などで。口縁部内外面横まで。	
935	土師器 甕	口縁部～頸部 破片 口 (17.6cm)	掘り方 南西 床面上25.0cm	①微細砂を多量に含む。②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/4	体部外面斜方向篋削り。内面横方向篋まで。口縁部内外面横まで。	

39号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図24

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
938	土師器 杯	口縁部破片 端部欠損	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物細粒を含む。②やや硬質。 ③橙5YR7/8	底部外面篋削り後、などで。内面丁寧な調整。	

39号住居出土遺物観察表《石器》 図24

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S384 118	敲石	12.5・7.0 4.2	粗粒安山岩 577.8	北東壁際 床面直上	裏面に磨り痕が認められる。	

37号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図25

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
937	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	南東 床面上8.0cm	①微細砂を含む。 ②硬質。③橙5YR6/8	底部外面篋削り。口縁部内外面横なで。	
936	土師器 高杯	脚部破片 底 (16.0cm)	南東 床面上17.0cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。脚部内外面横なで。	

55号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図30

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1022 118	土師器 杯	完形 口 11.1cm 高 3.2cm	北西 床面上15.0cm	①微細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/6	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	

56号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図31

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1026	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 高 (3.6cm)	南東壁際 床面上6.2cm	①ごく少量の細砂を含むが、精選された胎土である。②ごく硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。	
1027	土師器 杯	口縁部破片 口 (14.6cm)	北東 床面上32.2cm	①微細砂を含む。 ②硬質。③橙7.5YR7/6	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
1028	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (9.6cm) 高 3.4cm	北西 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
1029 118	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.0cm) 高 (3.2cm)	埋没土中	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	体部外面横方向篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。	
1030 118	土師器 甕	口縁部～体部上 半残存 口 (22.6cm)	南東 床面下5.4cm	①細砂・白色鉱物粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。口縁部内外面横なで調整。	

56号住居出土遺物観察表《石器》 図31

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S396 118	白玉	1.8・1.65 0.9	滑石 4.2	北西 床面上3.9cm	やや厚みがあり、調整も雑である。穿孔は片抉である。	
S397 118	白玉	1.65・1.6 9.0	滑石 4.1	北西 床面下13cm	やや厚みがあり、調整も雑である。穿孔は片抉である。	
S398 118	白玉	9.0・2.0 1.2	滑石 7.4	北東 床面直上	やや厚みがあり、調整も雑である。穿孔は片抉である。	

57号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1032	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.0cm)	掘り方 埋没土中	①微細砂を少量含むが、精選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/8	内外面とも丁寧なで調整。	
1033	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	掘り方 埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。③橙5YR7/8	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部横なで。	
1031	土師器 甕	口縁部破片 口 (22.0cm)	北東 床面上11.4cm	①微細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部内外面横なで調整。端部はやや外反する。	
1023 118	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.3cm) 高 (3.4cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	

57号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図34

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1024	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面斲削り。内面なで調整。	
1025	灰釉陶器 皿	底部残存 底 7.7cm	埋没土中	①少量の砂を含むが、 シルト質の精選された 胎土である。②硬質。 ③灰白10Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内 外面とも回転なで調整。底部内面には一条の沈線が全 周している。	

143号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図38

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1304 119	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/5残存 口 (17.6cm)	南東隅 床面直上	①礫・細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体 部内外面回転なで調整。	
1305 119	灰釉陶器 皿	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.0cm) 底 (7.2cm) 高 3.0cm	北東隅 床面上2.5cm	①粗砂をごく少量含む。 ②硬質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。内外面回転なで調整。	
1303 119	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/5残存 口 (13.2cm) 底 (6.2cm) 高 4.7cm	カマド前	①細砂・粗砂を含む。 ②軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体 部内外面回転なで調整。	
1301 119	須恵器 杯	口縁部3/4残存 口 (11.7cm) 底 5.9cm 高 4.2cm	南東隅 床面直上	①粗砂・細砂を多く含 む。②やや軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内 外面回転なで調整。口縁部内外面横なで調整。	
1319	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.0cm) 底 (7.3cm) 高 (4.8cm)	北東部 床面上5.5cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。 体部内外面回転なで調整。	
1318 119	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (17.8cm)	カマド左袖 掘り方埋没土 中	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	粘土紐づくり。内外面回転なで調整。	
1299 119	須恵器 羽釜	口縁部1/4残存 口 (20.0cm)	カマド内 埋没土中	①粗砂と多量の細砂 を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙10YR7/3	内外面回転なで調整。口縁部横なで調整。	
1300 119	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位1/6残存 口 (19.0cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③灰白10Y7/1	粘土紐づくり。内外面回転なで調整。体部中位より下 方縦方向斲削り。	
1317 119	須恵器 羽釜	口縁部1/4残存 口 (20.2cm)	カマド内 埋没土中	①礫・粗砂を含む。 ②酸化焰焼成。硬質。 ③灰褐7.5YR6/2	粘土紐づくり。体部内外面なで調整。	
1297 119	須恵器 羽釜	口縁部～底部 1/4残存 口 (21.8cm) 底 (7.2cm) 高 26.2cm	南壁際 床面上15.5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	体部内外面ロクロ整形。体部外面下半縦方向斲削りなで。 口縁部内外面横なで調整。	
1298 119	須恵器 羽釜	口縁部～体部中 位1/5残存 口 (20.4cm)	カマド袖脇	①細砂・粗砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転なで調整。	
1308	須恵器 羽釜	底部1/2残存 底 7.0cm	南東隅 床面直上	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白5Y8/1	体部下位外面縦方向斲削り。底部外面斲削り。内面な で調整。	

143号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図38

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1302 119	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.0cm) 底 3.3cm 高 3.7cm	北東 床面上19cm	①小礫・細砂を含む。 ②軟質。 ③黄灰2.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部・口縁部内外面回転などで調整。	
1307	須恵器 高台付碗	高台部残存 底 9.2cm	カマド左袖脇	①粗砂・細砂を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③灰褐5YR6/2	いわゆる「足高高台」と呼ばれる器高のある高台部である。内外面などで調整。	
1306 119	須恵器 甕	頸部～体部 破片	埋没土中	①小礫・粗砂を多量に含む。②やや軟質。 ③灰7.5Y6/1	粘土紐づくり。体部外面平行叩き整形。内面刷毛状工具によるなどで調整。	

143号住居出土遺物観察表《石器》 図38

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S465 119	砥石	6.0・3.2 2.4	砥沢石 43.8	北東部 床面直上	五面を研ぎ面としている。一部を欠損している。	
S471 119	切り石	11.0・5.0 3.5	未固結凝灰岩 179.7	南東隅 床面上3.7cm	カマドの構築材の破片である。面を削り出している。被熱により赤く変色している。	

145号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図39

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1314	須恵器 高台付碗	体部1/2欠損 口 (11.9cm) 底 7.0cm 高 4.6cm	カマド前 床面上6cm	①礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。内外面回転などで調整。	
1313 119	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 1/4残存 口 (13.4cm) 底 7.3cm 高 6.7cm	南壁際 床面上8.1cm	①細砂を多量に含むが 赤色鉱物細粒・白色鉱 物細粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。	
1315 119	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位1/5残存 口 (21.6cm)	南西 床面上2.2cm	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	粘土紐づくり。内外面などで調整。	
1312 119	土師器 甕	底部～体部下位 1/4残存 底 7.3cm	カマド右袖脇 灰面上8.9cm	①粗砂と多量の細砂を 含む。②やや軟質。 ③橙5YR7/6	底部外面篋削り。体部外面斜方向篋削り。内面横方向などで調整。	
1316 119	須恵器 甕	口縁部破片 口 (22.7cm)	北東壁際 床面上22.3cm	①細砂を少量含む。 ②酸化焰焼成。硬質。 ③橙7.5YR6/6	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。口縁端部内面は丸く肥厚する。	

68号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図46

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1062 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.2cm) 高 4.0cm	北東 床面直上	①微細砂を含むが、シ ルト質の精選された胎 土である。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面篋削り。内面などで調整。	
1061 120	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 12.0cm 高 3.8cm	西壁際 床面上4.5cm	①細砂を含む。赤色鉱 物粒を含む。 ②やや軟質 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1070	土師器 甕	口縁部～頸部 破片 口 (22.0cm)	カマド右前 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁部内面端部には凹線が施されている。	

68号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図46

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1068 120	土師器 甕	体部下位～底部 1/4残存 底 3.3cm	カマド内 灰面上8cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部外面斜方向斲削り。内面斜方向・横方向斲削り。	底部外面に木 葉痕が残る。
1069 120	土師器 甕	体部中位～底部 1/2残存 底 (4.4cm)	カマド前 床面直上	①微細砂・粗砂を多量 に含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5Y6/4	体部外面縦方向、最下部斜方向斲削り。内面横方向・ 斜方向斲削りなどで調整。	
1063 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (10.9cm) 高 3.0cm	埋没土中	①小礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
1064 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.8cm) 高 3.7cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面丁寧などで調整。	
1065 119	土師器 広口壺	口縁部～体部上 位1/3残存 口 (12.0cm)	南西 床面下3.5cm	①微細砂を含むが、シ ルト質の胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	体部内外面丁寧などで調整。口縁部横などで。	
1067	土師器 甕	口縁部～体部 破片 口 (12.4cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③黒褐5YR2/1	体部外面横方向斲削り。摩耗が著しいため、単位は不 明である。内面斜方向斲削り。口縁部内外面横などで。 口縁部内面端部には凹線が施されている。	
1066	土師器 甕	口縁部～体部 1/4残存 口 (12.0cm)	埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲削り。口縁部内 外面横などで。	

68号住居出土遺物観察表《石器》 図45・46

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S425 120	支脚	20.5・10.3 7.5	粗粒安山岩 2030.0	カマド	楕円盤の形状を利用している。頭部から一側縁にかけて煤が付着し ている。両側縁を磨り面として利用している。	
S423 120	こも縄石	12.3・7.3 4.3	粗粒安山岩 589.3	P 2 内 床面上4.5cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S424 120	敲石	8.6・8.6 4.0	粗粒安山岩 410.5	南西 床面上2.5cm	一端を欠損している。一端に僅かに敲打痕を残す。	
S426 120	敲石	11.0・7.5 5.5	粗粒安山岩 664.3	カマド右袖脇 床面直上	一端を欠損している。一端に敲打痕を残す。部分的に煤が付着してい る。	

71号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図48

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1071 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.0cm 高 5.2cm	北壁際 床面上3.5cm	①粗砂・細砂を含むが シルト質の胎土である。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面 横などで。	
1072 120	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (12.0cm) 高 3.8cm	P 1 西脇 床面直上	①粗砂を含む。赤色鉱 物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで	
1073 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.6cm) 高 (3.8cm)	P 1 北西脇 底面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部横などで調整。	
1074	埴輪 円筒埴輪	体部破片	北東 床面直上	①小礫・粗砂を多量に 含む。 ②やや硬質。 ③明赤褐5YR6/8	外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向指などで調整。	

72号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図48

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1075	土師器 杯	口縁部破片 口(11.7cm)	北西 床面上2.5cm	①細砂・粗砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	摩耗が激しく整形痕の単位は明瞭ではないが、横方向の篋削りがなされていたとみられる。内面は丁寧な調整。口縁部内外面横なで調整。	

73号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図52

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1076 120	須恵器 杯	口縁部～底部 1/6残存 口(11.0cm) 底(6.4cm) 高(3.7cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。内外面回転なで調整。	
1077 120	土師器 甕	底部～体部中位 残存 底(5.8cm)	カマド内 灰面直上	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。底部外面斜方向篋削り。内面横方向篋なで。	

74号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図55

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1087	須恵器 蓋	天井部1/2残存	南西 床面直上	①細砂・粗砂を含む。 黒色鉱物細粒を含む。 ②やや軟質。 ③暗オリーブ灰5GY4/1	内外面回転なで調整。	
1086 120	須恵器 椀	口縁部～体部 1/5残存 口(16.0cm)	南東 床面上6.5cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白7.5Y8/1	内外面回転なで調整。	
1083 121	土師器 甕	口縁部～体部下 位3/4残存 口(11.5cm) 胴13.3cm	カマド内 灰面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/3	体部外面上半横方向篋削り。下半縦方向篋削り。内面横方向篋なで。口縁部内外面横なで調整。	
1084 121	土師器 甕	口縁部破片 口(19.2cm)	北西 床面上4.8cm	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/6	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋なで。頸部外面指なで。口縁部内外面横なで。口縁部は屈曲して外反する。	
1082 121	土師器 甕	口縁部～頸部 1/4残存 口(21.8cm)	北西 床面上4.6cm	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	体部外面横方向篋削り。頸部指なで痕が残る。体部内面横方向篋なで。口縁部内外面横なで調整。	
1089 121	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/2残存 口(20.0cm)	北東 床面上8cm	①細砂・粗砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/3	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋なで。頸部外面指なで。口縁部内外面横なで。口縁部外面は肥厚している。頸部下位の稜は緩やかである。	
1080 120	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口11.9cm 高3.5cm	カマド左袖脇 掘り方埋没土 中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内面端部は小さく肥厚する。体部外面斜方向篋削り。口縁部内外面横なで調整。	
1079 120	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口(12.2cm) 底(8.0cm) 高2.8cm	南東 床面上16.2cm	①細砂・粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。体部外面指なで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで調整。口縁部はやや内湾する。	
1088	埴輪 円筒埴輪	体部破片	北西 底面直上	①礫・細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向刷毛目整形および指なで整形。	
1081 120	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口(13.5cm)	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③明褐7.5YR5/6	底部外面篋削り。体部外面指なで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部端部は丸く小さく肥厚し、内湾する。	
1085	須恵器 甕	体部破片	埋没土中	①微細砂と粗砂を少量含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄2.5Y6/3	体部外面平行叩き整形の後、なで調整。内面同心円状あて具痕が残る。	73住・74住と接合。

74号住居床下出土遺物観察表《金属器》 図55

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M20 I2I	金属器 不明	長残 2.4cm 重 2.05g	埋没土中	破片、幅1.10cm、厚0.3cm。錆化が進んでいる。	

83号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図56

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1146	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.0cm)	北西 床面直上	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部横などで調整。	

83号住居出土遺物観察表《石器》 図56

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S431 I2I	こも編石	11.6・6.2 3.4	粗粒安山岩 373.7	北西隅 床面直上	一端に敲打痕を残す。	
S430 I2I	こも編石	10.8・4.5 3.9	粗粒安山岩 230.0	北西隅 床面直上	半分ほどを欠損している。表裏両面に磨り痕が認められる。	
S432 I2I	こも編石	11.0・5.3 4.3	粗粒安山岩 349.0	北西隅 床面直上	両端に磨り痕が認められる。	
S428 I2I	こも編石	15.0・5.2 5.0	流紋岩 550.0	北西 床面直上	裏面が磨り面として利用されている。	
S429 I2I	こも編石	10.65・6.5 3.3	変質安山岩 348.6	北西 床面下3.5cm	表面の一部に線状痕が認められる。全体に煤が付着している。	
S427 I2I	こも編石	11.3・3.2 3.2	溶結凝灰岩 272.0	北西 床面下3.5cm	一端に僅かに敲打痕を残す。	

84号住居出土遺物観察表《石器》 図59

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S472 I2I	砥石	13.3・12.7 9.8	二ツ岳軽石 802.3	北西 床面直上	全面に擦痕と線状痕を残す。	

88号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図60

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1136 I2I	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.1cm) 高 4.2cm	北東 床面直上	①細砂を含む。黒色鉱 物細粒がめだつ。 ②硬質。 ③橙5YR6/4	底部外面斲削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面 横などで調整。	
1132 I2I	土師器 杯	ほぼ完形 口 11.2cm 高 3.1cm	貯蔵穴内 底面直上	①粗砂・細砂を多量に 含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面 横などで調整。	
1135 I2I	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 (11.0cm) 高 3.5cm	カマド左袖脇 床面下6.6cm	①細砂を多く含む。黒 雲母を少量含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで 調整。	
1134 I2I	土師器 杯	完形 口 11.2cm 高 3.5cm	カマド左袖脇 掘り方	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで	
1137 I2I	土師器 杯	口縁部～体部中 位1/3残存 口 (15.3cm)	北壁際 床面上22.2cm	①礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面などで調整。口縁部内外面 横などで調整。	

90号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図62

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1144 122	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 18.6～19.7cm 高 (7.1cm)	北東 床面上2cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR7/8	底部外面篋削り。内面にて調整。口縁部内外面横にて調整。	
1142 121	土師器 杯	口縁部1/2残存 口 (12.0cm)	北東 床面直上	①礫を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	内外面横にて調整。	
1140 121	土師器 甕	口縁部～体部中 位2/3残存 口 (24.0cm)	北西 床面直上	①粗砂・細砂を多量に 含む。 ②やや軟質。 ③浅黄2.5Y7/3	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋にて調整。口縁部内外面横にて調整。	
1143 121	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (13.2cm)	北西 床面上5.6cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧にて調整。口縁部内外面横にて調整。	
1141 121	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.8cm) 高 3.7cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR5/4	底部外面篋削り。体部外面にて調整。内面丁寧にて調整。口縁部内外面横にて調整。	

90号住居出土遺物観察表《石器》 図62

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S446 122	敲石	7.2 ・ 5.5 3.6	石英閃緑岩 132.6	南東壁際 床面直上	一端部分のみの残存である。一端と表面に敲打痕を残し、表面と右側面を磨り面として利用している。	
S470 122	磨石	13.6 ・ 8.8 4.2	粗粒安山岩 836.0	埋没土中	明瞭な痕跡が認められない。一端を欠損している。	
S469 122	敲石	13.2 ・ 4.8 4.2	粗粒安山岩 392.4	埋没土中	両端に敲打痕を残す。表面の一部に磨り痕が認められる。	

91号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図65

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1145	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.4cm)	カマド内 埋没土中	①細砂を少量含むがシル ト質の精選された胎 土である。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面篋削り。内面丁寧にて調整。口縁部内外面横にて調整。	

75号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図69

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1093	土師器 台付甕	脚部破片	南壁際 床面直上	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR4/2	内外面にて調整。	
1092	埴輪 円筒埴輪	体部破片	中央 床面直上	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面縦方向刷毛目整形。内面指にて。	
1091 122	瓦 女瓦	厚 1.7cm	カマド右袖脇 使用面直上	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰10Y6/1	側部面取に布目がおよび一枚作。表面に粘土板糸切痕と篋書様の条痕あり。裏面に絡縄文。側部は撫で丸。	秋間。
1090 122	瓦 女瓦	厚 1.5cm	カマド内 使用面直上	①白色粒子含 ②焼締 ③にぶい橙7.5YR7/4	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表裏に粘土板糸切痕あり。裏面縄文あり。側部面取回数は2回。	西毛X。

76号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図73・74

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1100 122	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/5残存 口 (13.7cm) 底 (6.8cm) 高 (4.8cm)	カマド内 灰面上	①細砂を含む。 ②やや硬質。 ③明褐灰7.5YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面などで調整。体部内面下半は、篋によって強く削られている。口縁部内外面横などで。	
1096 122	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.0cm) 底 6.2cm 高 5.0cm	カマド左袖脇 床面直上	①礫・粗砂を含む。 ②軟質。 ③灰白5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。	
1097 122	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存。 高台部欠損 口 (15.1cm)	埋没土中	①小礫・粗砂を含む。 ②硬質。 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転などで調整。	
1095 122	須恵器 高台付椀	ほぼ完形 口 14.4cm 底 6.4cm 高 5.1cm	カマド内 灰面上5.5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転などで調整。	
1101 122	須恵器 高台付椀	口縁部～体部 1/3残存 口 (14.0cm) 底 (5.8cm) 高 4.8cm	貯蔵穴内 底面上4.5cm	①粗砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄褐10YR7/3	内外面などで調整。	
1094 122	須恵器 高台付椀	底部～体部破片 口 (13.6cm) 底 7.1cm 高 5.7cm	カマド右袖脇 床面上2cm	①少量の粗砂・細砂を含む。赤色鉱物粒が目だつ。 ②酸化焰焼成。やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	付高台。底部外面はなでられており、底部切り離し技法不明。内外面などで調整。	
1105	須恵器 椀	口縁部破片 口 (14.4cm)	カマド内 灰面下6cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明赤灰7.5YR7/2	内外面回転などで調整。	
1099 122	須恵器 椀	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.4cm) 底 (6.0cm) 高 4.7cm	北東 床面直上	①粗砂を少量含む。 ②軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面などで調整。	
1098	須恵器 高台付椀	底部～体部破片 底 6.9cm	掘り方埋没土 中	①細砂を含む。白色鉱物粒子を含む。 ②酸化焰焼成。硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転などで調整。	
1106 122	瓦 男瓦	厚 1.9cm	カマド内 床面上26.5cm	①白色粒子含 ②焼締 ③褐灰10YR4/1	半截作か一枚作か不明。表面は撫でによる素文。裏面の布目痕は撫消される。側部面取回数は2回。	吉井・藤岡。
1103 123	瓦 女瓦	厚 1.9cm	カマド内 使用面直上	①白色粒子含 ②焼締 ③黄灰2.5Y6/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面に粘土板糸切痕あり。裏面絡縄文。小口際のみ横施文。	吉井・藤岡。
1104 123	瓦 女瓦	厚 1.6cm	カマド内 床面下4cm	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰白5Y7/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文あり。	吉井・藤岡。
1102 123	瓦 女瓦	厚 1.3cm	南壁際 床面直上	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白2.5Y8/2	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表裏に粘土板糸切痕あり。裏面絡縄文。小口際のみ横施文。	秋間。

76号住居出土遺物観察表《石器》 図73

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S433 122	敲石	16.0・7.0 4.6	砂岩 808.6	カマド前 床面上10cm	両端と両側縁に敲打痕を残す。一部に煤が付着している。	

77号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図75

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1107 122	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.6cm) 底 6.8cm 高 4.2cm	ピット内 底面上9.8cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体内内外面回転などで調整。一部に粘土紐痕が残る。	

24号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図79

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
902	灰釉陶器 椀	口縁部破片 口 (15.2cm)	カマド内 灰面直上	①夾雑物の少ないシルト質の胎土。②硬質。 ③灰白7.5Y8/2	内外面回転などで。口縁部はやや丸く肥厚し、外反している。	
898 123	須恵器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 (14.0cm) 底 7.5cm 高 4.3cm	南東 床面上12.0cm	①小礫・砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法は、回転糸切りと推定される。内外面回転などで調整。口縁部回転横などで。薄く仕上げられ、やや外反する。	
899 123	須恵器 高台付椀	体部～底部破片 底 6.7cm	北東 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰5YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
900 123	須恵器 高台付椀	ほぼ完形 口 12.2cm 底 5.4cm 高 4.5cm	南西 床面上4.7cm	①砂粒・小礫を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面などで調整。	
901 123	須恵器 高台付椀	底部1/2残存 底 (6.9cm)	南東 床面下4.0cm	①微細砂・黒色鉱物細粒を少量含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。付高台。高台接合部などで調整。	
904	土師器 甕	口縁部破片 口 (19.2cm)	南東 床面上20.3cm	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部外面横方向篋削り。内面横方向刷毛目。口縁部内外面横などで。口縁部外面端部には凹線が巡らされている。	
941	土師器 釜	底部破片と体部破片 底 (16.0cm)	カマド内 灰面直上	①小礫を多量に含む。 ②軟質。 ③橙5YR6/6	粘土紐づくり。底部外面下位横方向篋削り。上半は回転などで調整。内面回転などで。	
905	須恵器 甕	底部残存 底 16.0cm	南壁際 底面直上	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③浅黄2.5Y7/3	粘土紐づくり。底部周辺篋削り。	
903	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (21.2cm)	カマド内 灰面上6.5cm	①細砂・黒色鉱物細粒を含む。②やや軟質。 ③灰褐7.5YR4/2	右回転ロクロ整形。内外面とも回転などで調整。	
906 123	瓦 女瓦	厚 1.7cm	南東部 床面上40.8cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰黄褐10YR6/2	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。裏面に絡縄文あり。布目は並。	秋間。

24号住居出土遺物観察表《石器》 図79

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S380 123	丸石	4.3・10.6 5.5	粗粒安山岩 1069.3	カマド内 床面上3cm	表面のほぼ中央と両側縁の一部に敲打痕を残す。表裏両面の大部分に煤が付着している。	

24号住居出土遺物観察表《金属器》 図79

番号 PL	器種	大きさ 重量 (g)	出土位置	特 徴	備考
M14 123	金属器 釘	長 3.9cm 重 18.60g	フク土 埋没土中	頭部平面は径2.7cm円形、断面は厚さ0.7cmのかまほこ状を呈す。先端部分は欠損するが、断面は0.9cmの四角形を呈している。	

103号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図80

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1164 124	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.2cm) 高 3.4cm	カマド内 灰面上8.2cm	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
1165 123	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.4cm) 高 4.0cm	南西 床面上1.5cm	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横などで。	
1163 124	須恵器 杯	体部1/4残存 口 (8.0cm) 底 5.2cm 高 (3.5cm)	南東 床面上3.0cm	①黒色鉾物細粒を多量 に含む。 ②硬質。 ③灰10Y5/1	回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。	外面に自然釉。
1162 124	須恵器 蓋	ほぼ完形 口 10.9cm 高 3.6cm	中央 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	左回転ロクロ整形。天井部回転篋削り。体部回転などで。 口縁部横などで。	
1166	土師器 甕	体部下位～底部 1/4残存 底 (8.3cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③褐7.5YR4/3	外面斜方向篋削り。内面横方向篋などで。底部内面縦方向・斜方向指などで。	

104号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図82

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1167	須恵器 杯	口縁部破片 口 (13.0cm)	南西 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	内外面回転などで。口縁部内外面横などで。	
1169 124	土師器 高台付椀	口縁部～底部 2/3残存 口 (14.0cm) 底 7.0cm 高 5.4cm	埋没土中	①微細砂・小礫を多く 含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部には接合痕が残る。口縁部内外面横などで。端部は丸く肥厚し、外反する。	
1168	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (22.8cm)	北西 床面上3.5cm	①細砂・砂粒を多量に 含む。②酸化焰。軟質。 ③黒褐2.5Y3/1	内外面回転などで。銹部・口縁端部には粘土紐接合痕が残る。	

104号住居出土遺物観察表《石器》 図82

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S451 124	敲石	12.7・6.5 3.9	粗粒安山岩 458.0	北東 床面上5cm	一端及び一側縁の一部に敲打痕を残す。	
S452 124	敲石	17.4・8.8 4.3	変質安山岩 1121.7	北東 床面上6.5cm	一端及び表面中央部、一側縁から裏面の半分にかけて敲打痕を残す。	

101号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図90

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1154	須恵器 甕	口縁部破片	カマド内 埋没土中	①砂粒・白色鉾物細粒 を含む。②やや軟質。 ③明オリブ灰2.5GY 7/1	内外面回転篋などで。	
1157 124	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.0cm) 底 (7.1cm) 高 5.7cm	床下土坑内 底面上18.8cm	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰10Y6/1	内外面回転などで調整。付高台。	
1156 124	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/3残存 口 (12.2cm) 底 (6.3cm) 高 5.2cm	床下土坑内 底面上17.0cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。付高台。接合部のなでは、雑である。内外面などで調整。内面底部には篋痕が残っている。 口縁部内外面横などで調整。	

101号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図90

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1155 124	須恵器 高台付椀	体部～底部1/4 残存 口縁部・ 高台部欠損	床下土坑内 底面上13.7cm	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	底部右回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転など。	
1153	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (21.0cm)	北東 床面上8.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	内外面回転などで調整。外面下部には縦方向に施された 篋削りの上端がみえる。口縁部が大きく、丸く内湾する 器形である。	
1151 124	須恵器 羽釜	完形 口 22.2cm 底 7.0cm 高 25.2cm	カマド内 灰面上8.0cm	①細砂・小礫を少量含 む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	粘土紐づくり。内外面右回転ロクロ整形。体部下半縦 方向篋削り。	
1152 124	須恵器 羽釜	口縁部～体部中 位1/4残存 口 (20.4cm)	床下土坑内 底面上1.4cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。外面は凹凸が著 しい。	

101号住居出土遺物観察表《石器》 図90

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S448 124	敲石	13.0 ・ 9.5 6.0	粗粒安山岩 756.0	南面 床面上10.6cm	両端に敲打痕を残す。	
S449 124	敲石	11.3 ・ 4.3 4.6	粗粒安山岩 280.6	北面 床面直上	両端の敲打による剥離面が顕著に認められる。一面に磨り痕が認め られる。	

111号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図94

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1192	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.4cm)	南西壁際 床面上5.5cm	①シルト質の精選され た胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/6	体部外面横方向篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部 内外面横など。	
1193	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.1cm)	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR7/6	体部外面横方向篋削り。内面などで調整。口縁部横など。	

134号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図95

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1243 124	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.7cm)	カマド前 床面上3.7cm	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで 端部は丸く内湾する。	
1239	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.0cm)	ピット内 底面上2cm	①粗砂を含むが、シル ト質の胎土である。 ②硬質。③橙5YR7/6	体部外面横方向篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部 内外面横など。	
1242 124	須恵器 高台付椀	底部破片 底 (6.3cm)	南東隅 床面上11.8cm	①粗砂を含む。 ②軟質。 ③浅黄2.5Y7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内 外面回転などで調整。	
1240	須恵器 椀	口縁部破片 口 (15.0cm)	埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。内外面回転などで調整。口縁部内外 面横などで調整。	
1241	土師器 甕	口縁部～頸部 破片 口 (21.0cm)	ピット内 底面上6.4cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	頸部下位外面縦方向篋削り。口縁部内外面丁寧横な で調整。	

134号住居出土遺物観察表《石器》 図95

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S459 124	こも編石	12.8 ・ 6.8 5.2	変質安山岩 676.7	ピット内 床面上1.8cm	右側面が焼けて赤褐色を呈する。	

105号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図96

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1171 124	須恵器 高台付椀	底部残存 底 7.1cm	カマド左前 床面上2.5cm	①砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
1172 124	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 破片 口 (14.2cm) 底 (6.2cm) 高 5.2cm	北東 床面上11.2cm	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。	
1170	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/4残存 口 (18.8cm)	カマド内 灰面上3.1cm	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部内外面横などで調整。端部外面は面取りがされている。	
1173	土師器 甕	口縁部～体部下 位1/4残存 口 (18.6cm)	北東 床面上3.5cm	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	左回転ロクロ整形。体部内外面回転などで調整。体部外面下位横方向篋削り。体部内面下位縦方向指などで。口縁部内外面横などで。	

112号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図98・99

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1196 125	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4残存 口 (15.0cm)	南東 床面直上	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離しとみられる。外面回転などで。口縁部内外面横などで。	内面に刻書。
1199 124	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存	カマド内 灰面上7.1cm	①粗砂・細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離しと考えられる付高台。内外面横などで調整。	
1200	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.2cm)	カマド内 灰面上2.5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白5Y7/1	内外面回転などで調整。頸部接合部下位は鋭い整形痕を残す。	
1198 124	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.3cm) 高 (5.0cm)	南東壁際 床面上7.8cm	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰7.5YR5/1	底部外面篋削り。内面および口縁部外面回転などで調整。	
1197	土師器 甕	口縁部破片 口 (21.4cm)	北東 床面上5.3cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/6	体部外面篋削り。内面横方向篋などで。口縁部内外面横などで調整。	
1194 126	瓦 女瓦	厚 1.1cm	カマド右袖脇	①黒色粒子含。②硬質 ③灰7.5YR6/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明であるが、裏面に回転撫による擦痕あり。	秋間。
1195 125	瓦 女瓦	厚 1.8cm	カマド左袖脇 床面上5.5cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③浅黄2.5Y7/3	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文。小口際のみ横施文。側部撫丸。	秋間。

113号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図100

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1202 124	須恵器 高台付椀	体部中位～底部 1/2残存 底 7.0cm	カマド内 埋没土中	①小礫・粗砂を含む。 ②軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。	
1201	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.0cm)	南東 床面上1.2cm	①小礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰10Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	

114号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図103

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1206 125	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.8cm) 底 (6.5cm) 高 4.1cm 低 3.5cm	南東隅 床面上4.3cm	①少量の礫と細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。歪みが著しい。	

114号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図103

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1207 125	須恵器 高台付椀	口縁～底部破片 口 (15.6cm) 底 (7.5cm) 高 5.1cm	カマド右前 床面上5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。 内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。	
1205	土師器 甕	口縁部破片	カマド内	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面横方向篋割り。内面木端状工具による横方向 篋などで。口縁部内外面横などで。口縁部外面端部には面 取りをし、凹線をめぐらす。	
1203 125	須恵器 甌	体部～底部破片 底 (17.8cm)	埋没土中	①粗砂・細砂を多く含 む。②やや軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	外面横方向などで調整。内面横方向篋などで。口縁部内外 面横などで。体部下位に内面から穿たれた貫通しない、 直径8mmほどの小孔がある。	
1204 125	土師器 甕	体部下位～底部 1/3残存	埋没土中	①小礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部外面縦方向篋割り。内面横方向篋などで。底部外面 篋割り。	

129号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図105

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1268	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (12.4cm)	南東 床面上7.5cm	①細砂を含むが、シル ルト質の精選された胎 土である。②硬質。 ③橙2.5YR6/6	底部外面篋割り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面 横などで調整。	
1270	土師器 杯	口縁～体部下位 1/4残存 口 (13.2cm) 高 (3.1cm)	南西壁際 床面上11.1cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋割り。内面などで調整。口縁部内外面横などで 調整。	
1269	土師器 杯	口縁部1/4残存 口 (13.0cm)	埋没土中	①細砂を含むが、シル ルト質の胎土である。 ②硬質。③橙2.5YR7/8	底部外面篋割り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面 横などで調整。	

129号住居出土遺物観察表《石器》 図105

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S457 125	砥石	8.6・6.8 2.7	角閃石安山岩 145.5	埋没土中	三面を研ぎ面としている。	軽石。
S456 125	こも編石	9.3・5.0 3.8	粗粒安山岩 236.4	南西 床面上4.9cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S455 125	こも編石	10.3・5.0 3.9	ひん岩 296.5	南西 床面上4.2cm	明瞭な痕跡は認められない。	
S454 125	こも編石	12.0・6.4 3.7	粗粒安山岩 421.3	北西 床面上7.1cm	楕円礫。	

106号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図107

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1176 126	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.2cm) 底 (7.0cm) 高 5.2cm	南東 床面上16.0cm	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内 外面回転などで。	
1177	須恵器 杯	底部破片 底 (9.2cm)	カマド掘り方 埋没土中	①砂粒を含む。②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。内外面回転 などで。	
1224 126	土師器 甕	口縁部～体部中 位1/3残存 口 (17.8cm)	南東 床面上7.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	粘土紐づくり。体部外面ロクロ整形後、下半斜方向篋 割り。内面横方向篋などで。口縁部横などで。	
1174	土師器 甕	口縁部～胴部上 位破片 口 (18.9cm)	カマド内 灰面上4.5cm	①微細砂・白色鉱物細 粒を含む。②硬質。 ③明赤灰2.5YR5/6	体部外面横方向篋割り。内面横方向木端状工具による などで。口縁部内外面横などで。口縁部外面に面取りを する。	

128号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図109・110

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1234 126	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.6cm) 底 (5.8cm) 高 4.5cm	南東 床面上11.1cm	①小礫・粗砂を含む。 黒色鉱物細粒が目立つ。 ②硬質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転で調整。	
1235 125	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 残存 底 6.7cm	南西 床面直上	①粗砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③褐灰10YR5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転で調整。	
1232	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (18.5cm)	南東 床面直上	①小礫・粗砂を多量に 含む。②硬質。 ③灰7.5Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転で調整。	
1267 126	瓦 女瓦	厚 1.3cm	南東部 床面直上	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白10YR7/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。表面に粘土板糸切痕なし。裏面に絡縄文あり。小口際のみ横施文。	秋間。
1266 126	瓦 女瓦	厚 1.7cm	北東部 床面上11.7cm	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白2.5Y8/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文あり。	秋間。
1282 126	瓦 女瓦	厚 2.0cm	北東部 床面上20.1cm	①白色粒子含 ②焼締 ③灰10Y6/1	寄木条痕があり桶巻作。表面に粘土板糸切り痕。裏面は回転撫あり。側面取り回数は3回。	吉井・藤岡。

135号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図111

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1274 126	土師器 杯	ほぼ完形 口 9.2cm 高 4.3cm	南周溝内 底面下4cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	底部外面斲削り。内面横方向斲などで。口縁部内外面横などで調整。	
1273 126	土師器 杯	ほぼ完形 口 11.0cm 高 3.4cm	南東 床面下8.2cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで内面には指頭圧痕が残る。	
1272 126	須恵器 杯	体部1/3残存 体 (9.4cm)	南周溝内 底面上3cm	①粗砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰7.5Y6/1	粘土紐づくり。体部～底部外面手持ち斲削り。口縁部内外面横などで調整。	
1275 126	土師器 杯	完形 口 9.5cm 高 3.3cm	南西 床面上4cm	①礫・粗砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1276 126	土師器 杯	完形 口 11.5cm 高 2.6cm	南西 床面上2.5cm	①粗砂・細砂を少量含 む。②硬質。 ③橙5YR7/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。	

136号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図113

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1279 126	須恵器 杯	完形 口 12.7cm 底 7.0cm 高 4.0cm	南東隅 床面上14.2cm	①小礫を含む。 ②やや軟質。 ③褐灰5YR5/1～明赤褐 5YR5/8	右回転ロクロ整形。内外面回転で調整。口縁部内面には強いなどで調整が施されている。	
1265 127	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.6cm) 底 (6.7cm) 高 4.8cm	南東隅 床面上17.4cm	①礫・粗砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転で調整。	
1277	土師器 台付甕	脚部残存 底 7.3cm	南東隅 床面上7.3cm	①細砂・赤色鉱物細粒 を含む。②やや軟質。 ③黒褐2.5Y3/1	粘土紐づくり。内外面などで調整。	
1278 127	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.0cm) 底 (6.2cm) 高 5.6cm	南西 床面上16.4cm	①粗砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。内外面回転で調整。口縁部内外面横などで調整。	

136号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図113

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1280	土師器 甕	口縁部破片 口 (22.8cm)	南東 床面直上	①小礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/2	体部上位外面縦方向斲削り。内面などで調整。口縁部内、外面横などで。口縁部内面には凹線が施されている。	
1284	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.1cm)	南西 床面上10.9cm	①小礫・細砂を含むが シルト質の胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで調整。	
1283 126	土師器 杯	口縁部～底部 1/6残存 口 (11.6cm) 高 4.6cm	埋没土中	①細砂を含むがシルト 質の胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。器壁は薄く仕上げられている。	
1281 127	瓦 男瓦	厚 1.6cm	北西部 床面上6cm	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白2.5Y8/1	回転の撫でがあり半截作。表面は素文。裏面に粘土板糸切り痕なし。側面取回数3回。	秋間。

136号住居出土遺物観察表《金属器》 図113

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備考
M22 127	金属器 刀子?	長 16.2cm 重 29.52g	中央部 床面上18.9cm	幅1.2cm、厚5.5cm。錆化が進み形状は不明瞭である。	

137号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図115

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1289 127	土師器 杯	完形 口 11.4cm～ 12.2cm 高 3.2cm	南西 床面上8cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。やや成形に歪みがある。	
1287 127	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/3残存 口 (17.0cm)	南西 床面下6cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	体部上位斜方向斲削り。内面横方向斲削り。口縁部内外面横などで調整。	
1288	須恵器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	埋没土中	①微細砂・細砂を多く 含む。②やや軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	内外面回転などで調整。	
1290	土師器 杯	口縁～底部破片 口 (15.0cm)	南西 床面上22.2cm	①粗砂を含むが、シルト 質の胎土である。 ②きわめて硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで調整。	
1285 127	土師器 甕	体部下位～底部 底 3.6cm	南西 床面上16cm	①細砂・微細砂を多量 に含む。②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	体部外面斜方向斲削り。底部外面斲削り。内面横方向斲削り。	

137号住居出土遺物観察表《石器》 図115

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S462 127	敲石	14.0・4.8 3.6	溶結凝灰岩 348.9	南西部 床面直上	両端に敲打痕を残す。	
S461 127	敲石	16.2・5.8 3.7	粗粒安山岩 612.8	南西部 床面上8cm	表面と一側縁の中央に敲打痕を残す。裏面に線状の擦痕が認められる。	

138号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図118

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1236	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	埋没土中	①細砂を含むがシルト 質の胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	内外面横などで調整。	
1237	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.0cm)	南西 床面直上	①粗砂を少量含むがシルト 質の胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	口縁部内外面横などで。体部は摩耗が激しく整形痕が顕著でない。	

138号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図118

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1238 127	須恵器 碗	体部下位～底部 破片 底(5.6cm)	埋没土中	①礫・細砂を含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR7/6	右回転ロクロ整形とみられる。底部は回転糸切り離しと推定される。付高台。体部下位内外面横などで。	
1286	土師器 甕	口縁部破片 口(21.0cm)	南西 床面上14.7cm	①粗砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/4	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部内外面横などで調整。口縁部外面端部には凹線が施されている。	

138号住居出土遺物観察表《石器》 図118

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S460 127	砥石	6.4・6.8 4.9	砥沢石 244.5	南西部 床面直上	四面を砥ぎ面とし、二面に線状痕を残す。	

100号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図119

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1175 127	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 1/3残存 口(14.0cm) 底(7.0cm) 高4.9cm	埋没土中	①細粒を少量含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	粘土紐づくりか? 内外面とも右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。高台接合部などで調整。	
1147 127	須恵器 甕	底部1/4残存 底(20.0cm)	南東壁際 床面上16.0cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	外面などで調整。内面上位縦方向篋削り。下部横方向篋などで。	
1148	須恵器 甕	底部1/4残存 底(21.1cm)	南壁際 床面上16.0cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	
1150	瓦 男瓦	厚0.9cm	南壁際 床面上24cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③褐灰10YR6/1	半截作か一枚作か不明。表面は撫でによる素文。裏面の布目は粗い。側部面取回数は1回。薄作。	秋間。
1320 127	緑釉陶器 高台付皿	口縁部～底部 1/4残存 口(13.6cm) 底(6.2cm) 高2.8cm	南東 床面上22.5cm	①微細砂を少量含む。 ②硬質。 ③緑灰10GY6/1	ロクロ整形。底部切り離し技法不明。内外面丁寧な調整。	内外面とも全面施釉。

100号住居出土遺物観察表《石器》 図119

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S447 127	砥石	7.0・5.5 2.1	砥沢石 63.9	埋没土中	五面を研ぎ面としている。被熱のためかいくつかの破片に砕けている。	

115号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図121

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1214	須恵器 杯	口縁部破片 口(12.2cm)	カマド前 床面上10.7cm	①細砂を多く含む。 ②軟質。 ③褐灰10YR5/1	内外面回転などで調整。	
1210 127	須恵器 甕	体部下位～底部 2/3残存 底(7.0cm)	北東部 床面上13.5cm	①粗砂・細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③灰白10YR7/1	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋削り。	
1212 127	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位1/2残存	カマド内 灰面上3.2cm	①粗砂・細砂・小礫を多く含む。 ②やや軟質。一部酸化焰焼成。 ③灰褐7.5YR6/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整の後、体部縦方向篋削り・篋などで調整。	

115号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図121

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1208 128	須恵器 羽釜	口縁部～体部下 位1/2残存 口 (19.0cm) 高 (22.9cm)	カマド左袖脇 床面上2.5cm	①小礫・細砂を多く含 む。②やや軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	粘土紐づくり。体部内外面回転で調整。体部外面下 半縦方向篋削り。口縁部内外面横なで。	
1209 127	須恵器 甕	体部下位～底部 1/4残存 底 (9.8cm)	カマド左脇 床面上5cm	①小礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	粘土紐づくり。内面指なで。体部外面縦方向篋削り。 指頭圧痕有り。	
1213 128	瓦 女瓦	厚 2.1cm	カマド内	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白10YR7/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。表面に粘土板糸切 痕あり。裏面に絡縄文あり。小口際のみ横施文。	秋間。

119号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図123

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1220	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.0cm)	カマド左袖脇 床面上2.5cm	①粗砂・細砂を多く含 む。②やや軟質。 ③明赤褐5YR5/5	体部外面指なで・指おさえ。内面丁寧なで調整。口 縁部内外面横なで。	
1221 128	須恵器 高台付椀	底部破片 底 (8.0cm)	カマド掘り方 底面直上	①粗砂を含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。付高台。内外面回転で調整。	
1222 128	須恵器 杯	体部下位～底部 1/2残存 底 (6.3cm)	埋没土中	①粗砂・赤色鉱物細粒 を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内 外面回転で調整。	
1223 128	瓦 女瓦	厚 1.7cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白5YR7/2	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面に粘土板糸 切痕あり。裏面に絡縄文あり。	秋間。

120号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図125

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1226 128	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (12.2cm) 底 (6.4cm) 高 3.6cm	カマド内 床面上20cm	①細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内 外面回転で調整。口縁部横なで。	
1227 128	須恵器 高台付椀	口縁部～体部 1/4残存 口 (14.8cm)	カマド左袖脇 床面上7cm	①細砂・礫を含む。 ②軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離しとみられる。 付高台。体部回転で調整。	
1230	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.2cm)	カマド内 灰面直上	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	粘土紐づくり。内外面回転で調整。	
1225	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (22.2cm)	カマド左袖脇 床面上22.8cm	①粗砂・小礫を含む。 ②酸化焙焼成。 ③橙7.5YR7/6	粘土紐づくり。体部内外面回転で整形。	
1229	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②酸化焙焼成。 ③橙2.5YR6/8	粘土紐づくり。内外面回転で調整。	
1211	須恵器 羽釜	口縁部～体部 中位1/4残存 口 (21.8cm)	北西 床面上28.0cm	①粗粒・細砂を多く含 む。 ②酸化焙焼成。軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/3	粘土紐づくり。内外面回転で調整。	
1231	須恵器 甕	底部破片 底 (23.0cm)	埋没土中	①粗砂・細砂を多く含 む。②酸化焙焼成。軟 質。③黒7.5YR2/1	外面回転で調整。内面回転篋削り。	
1228 128	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.2cm) 高 (3.7cm)	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/8	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部横なで。	

130号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図126

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1271	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①粗砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰白7.5Y7/1	内外面回転などで調整。	

132号住居出土遺物観察表《石器》 図127

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S458 128	敲石	13.0・7.6 5.6	溶結凝灰岩 681.9	南東部 床下5.7cm	一端と表面のほぼ中央に敲打痕を顕著に残す。	

102号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図130

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1160 128	須恵器 杯	口縁部-底部 1/4残存 口 (13.0cm) 底 (5.6cm) 高 3.6cm	掘り方 埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。内外面など。口縁部内外面横など。	
1158	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.8cm)	カマド内 灰面上8.0cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	
1159	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.6cm)	カマド前 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	内外面回転などで調整。	
1161 129	瓦 男瓦	厚 2.2cm	北東部 床面上7.7cm	①白色粒子含 ②硬質 ③灰7.5Y6/1	半截作か一枚作か不明。表面は撫による素文。裏面の布目は粗い。側部面取回数は1回。	吉井・藤岡。

102号住居出土遺物観察表《石器》 図130

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S450 129	天井石	22.5・14.0 9.0	粗粒安山岩 2950.0	南西部 床面上5cm	角柱状に切り出しており、すべての面に磨り痕と線状痕が認められる。	

107号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図133

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1179 128	須恵器 杯	口縁部-底部 1/4残存 口 (12.9cm) 底 (6.7cm) 高 4.1cm	北西 床面上15.5cm	①細砂・小礫を少量含む。 ②硬質。部分的に赤変。 ③にぶい赤橙10R6/4 一部、明赤灰10R7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。内外面回転など。口縁部内外面横など。	
1180 128	須恵器 杯	体部下位1/2残 存 底 (5.2cm)	南東 床面上10.5cm	①小礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内外面などで調整。	
1178	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.4cm)	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面頸部縦方向篋削り後、口縁部内外面横など。	
1181 129	瓦 女瓦	厚 1.5cm	北東部 床面上4.5cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰黄2.5Y7/2	側部に布目の圧痕があり、一枚作。裏面に絡縄文。側部は篋削り後撫丸。	秋間。
1183 129	瓦 男瓦	厚 1.5cm	北壁際 床面上8.8cm	①白色粒子含 ②硬質 ③表灰7.5Y6/1 裏灰7.5Y5/1	回転の撫痕があり半截作。裏面に寄木条痕があり、桶巻作。	乗附。
1233 128	瓦 女瓦	厚 1.5cm	北西部 床面上6.5cm	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白5Y7/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。表面に粘土板糸切痕あり。裏面は絡縄文。側部面取回数は2回。	秋間。

107号住居出土遺物観察表《石器》 図133

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S652 129	天井石	12.0・15.0 8.1	未固結凝灰岩 1065	埋没土中	3面は確実に角柱状に切り出している。	
S647 130	天井石	14.65・16.5 17.1	未固結凝灰岩 3250	南東部	角柱状を呈し、ノミ状工具による削り痕と線状痕が多数認められる。一面に煤が付着している。	

107号住居出土遺物観察表《金属器》 図133

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M19 129	金属器 不明	長 9.8cm 重 32.96g	南西部 床面上14.5cm	両側欠損、幅2.3cm、厚1.0cm。錆化が進んでいて、形状は不明。平たいものであり、刀子かもしれない。	

109号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図134

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1185 129	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存	貯蔵穴内 底面上17.7cm	①微細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内外面回転などで調整。	
1184	土師器 杯	口縁～体部破片 口 (15.2cm)	北東壁際 床面上6.5cm	①細砂・少量の白色鉱物細粒を含む。 ②硬質。 ③灰7.5YR5/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1186 129	土師器 杯	完形 口 11.8cm 底 5.4cm 高 3.8cm	南西壁際 床面上10.5cm	①粗砂・細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内外面回転などで調整。	
1182	土師器 甕	口縁部破片 口 (11.8cm)	貯蔵穴内 底面上19.3cm	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	内外面横などで。頸部内面には横方向篋削り。	

109号住居掘り方出土遺物観察表《金属器》 図134

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M18 129	金属器 不明	長 2.6cm 重 8.0g	埋設土中	幅7.5cm。錆化が進んでいる。	

110号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図137

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1191	土師器 杯	口縁部～体部下 位破片 口 (10.5cm)	P 1 内 底面上46.5cm	①細砂を含む。赤色鉱物細粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	体部外面斜方向篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1189 129	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (10.2cm) 底 (4.2cm) 高 (3.4cm)	中央 床面上4cm	①細砂を多く含む。白色鉱物細粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5YR7/2	左回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内外面回転などで。口縁部内外面横などで調整。	
1188 129	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位1/2残存 口 (26.0cm)	カマド内 灰面上16cm	①細砂と少量の礫を含む。②酸化焙焼成。硬質。③橙2.5YR6/6	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	
1187 129	須恵器 羽釜	口縁部～体部 1/2残存 口 (20.8cm)	カマド内 灰面上19.8cm	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	粘土紐づくり。体部外面回転などで調整。内面横方向篋などで。口縁部内外面横などで調整。頸部は丸く内湾する。	
1190	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.2cm)	カマド内 灰面上15.9cm	①礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白5Y8/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	

110号住居出土遺物観察表《石器》 図137・138

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S649 130	天井石	15.45・23.4 12.05	未固結凝灰岩 4500	カマド内	3面は確実に角柱状に切り出している。一部に煤が付着している。一部は酸化により赤色化している。	
S650 131	支脚	24.1・8.8 7.4	粗粒安山岩 1532	カマド内	12面ほど面取りがなされている。酸化部分と中性部分、それに還元部分が認められる。	
S648 130	天井石	14.6・16.5 11.8	未固結凝灰岩 2700	カマド内	角柱状を呈し、ノミ状工具による削り痕が多数認められる。	
S651 131	支脚	14.2・8.8 7.8	未固結凝灰岩 856	カマド内 床面上15.1cm	基部を欠損している。10面ほど面取りがなされている。酸化部分と中性部分、それに還元部分が認められる。	

110号住居出土遺物観察表《石器》 図138

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S453 131	台石	15.9・15.2 11.1	粗粒安山岩 2760.0	南東部 床面直上	一部に煤が付着している。	

110号住居出土遺物観察表《金属器》 図138

番号 PL	器種	大きさ 重量 (g)	出土位置	特 徴	備 考
M21 129	金属器 釘	長 4.7cm 重 8.46g	埋没土中	先端欠損。1.4cm×1.2cm。厚さ0.5cmの頭部に1.05cm×0.5cmの身が続く。錆化が進んでいる。	

127号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図139

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1264 130	瓦 女瓦	厚 1.2cm	北東 床面上20cm	①白色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y5/1	布目があり、桶巻作。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文あり。	吉井・藤岡・乗附。

121号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図142

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1244	須恵器 椀	口縁部～体部 1/5残存 口 (13.4cm)	カマド左袖前 床面上5.4cm	①粗砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③灰白10YR7/1	体部内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1245 131	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.5cm)	カマド右袖脇 床面上6cm	①粗砂・細砂と少量の 小礫を含む。②硬質。 ③黄灰2.5Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで調整。	

124号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図144

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1254 131	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.8cm) 底 6.8cm 高 5.1cm	カマド燃焼部 左脇 床面上1.5cm	①細砂・粗砂を多く含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	内外面ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。	
1256 131	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (13.5cm) 底 7.1cm 高 5.4cm	ピット内 底面上12.5cm	①粗砂・礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。	
1253 131	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 3/4残存 口 (12.3cm) 底 7.0cm 高 4.2cm	カマド左袖脇 床面上9.5cm	①粗砂・礫を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。底部はほぼ中央に直径5mmほどの小孔が焼成後に内面から穿たれている。	
1251 131	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (19.6cm)	カマド燃焼部 右脇。 床面上11cm	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y6/2	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。	
1257	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 3/4残存 底 (6.6cm)	カマド 埋没土中	①礫・粗砂を含む。 ②やや硬質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。	
1258	土師器 高台付椀	高台部1/2残存 底 (8.2cm)	カマド 埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	高台接合部内外面などで調整。	
1255 131	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.1cm) 底 (7.8cm) 高 5.8cm	カマド左袖脇 床面上9cm	①粗砂・礫を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③灰白2.5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで調整。	

124号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図144

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1252 131	須恵器 甕	底部～体部下位 1/4残存 底 (9.2cm)	カマド 埋没土中	①粗砂・礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。体部下位横方向 鈍削り。	
1250 131	須恵器 羽釜	口縁部～体部中 位1/4残存 口 (19.6cm)	カマド燃焼部 右脇 床面上19.5cm	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰褐7.5YR5/2	粘土紐づくり。体部・口縁部内外面回転などで調整。体 部中位縦方向などで調整。	
1259 131	瓦 女瓦	厚 2.0cm	カマド燃焼部 左脇 床面上18.5cm	①黒色粒子含 ②並質 ③にぶい黄橙10YR7/4	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。表面に粘土板糸切 痕あり。裏面に絡縄文あり。離砂付着。	秋間。

125号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図146

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1262	須恵器 椀	口縁部破片 口 (13.5cm)	貯蔵穴 埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5YR7/1	左回転ロクロ整形。内外面などで調整。	
1261	須恵器 羽釜	底部1/2残存 底 (6.0cm)	貯蔵穴 埋没土中	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰褐7.5YR5/2	体部外面鈍削り。内面などで調整。底部内面などで調整。	
1260	須恵器 甕	口縁部破片	貯蔵穴 埋没土中	①微細砂を含む。 ②酸化焙焼成。硬質。 ③橙7.5YR7/6	内外面などで調整。	
1263 131	瓦 女瓦	厚 1.7cm	カマド内 床面上3.3cm	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白2.5Y8/1	寄木条痕が見えるため桶巻作。表面に粘土板糸切痕あ り。裏面に絡縄文あり。	秋間。

1号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図147・149・150

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
734 132	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.7cm 底 6.7cm 高 (3.5cm)	カマド前及び 住居中央部床 面直上の遺物 とP1底面の 遺物が接合	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。体部内外面 回転などで調整。	
738 132	須恵器 杯	底部残存 底 8.2cm	中央 床面上1.5cm	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
737 132	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 1/2残存 底 8.4cm	南西壁際 床面直上	①小礫を少量含む。 ②硬質。 ③灰白5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部などで調整。外面接合部には接合痕が残る。	
735 132	土師器 甕	口縁部～体部 1/3残存 口 (19.4cm)	カマド内 灰面直上	①微細砂・砂粒を多量 に含む。②やや硬質。 ③橙5YR6/6	胴部外面下位縦方向鈍削り。上位横方向鈍削り。頸部 外面横などで調整。胴部内面横方向鈍削り。口縁部内外面強 い横などで調整。	
736 132	土師器 甕	ほぼ完形 口 20.0cm 底 2.8cm 高 27.3cm	カマド内 灰面上7.5cm	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	胴部外面斜方向・縦方向鈍削り。底部外面鈍削り。頸 部外面横などで調整。指頭圧痕が残る。胴部内面横方向鈍削 り。口縁部内外面強い横などで調整。	一側面に炭化 物が付着。
857 132	瓦 男瓦	厚 1.8cm	中央部 床面上7cm	①白色粒子含 ②焼締 ③灰白7.5Y7/1	完存瓦で焼歪あり。表面に回転撫痕があるため半載 作。裏面に布の合せ目痕あり。側部面取は2～3回。	乗附。
858 132	瓦 男瓦	厚 1.7cm	カマド左袖脇 床面直上	①白色粒子含 ②焼締 ③褐灰7.5YR6/1	完存瓦。裏面に回転痕があるため半載作。裏面の最 上部に紐作一単位があり、それ以下は粘土板による。	笠懸。

1号住居出土遺物観察表《石器》 図147

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S339 132	こも編石	19.7・5.9 5.8	石英閃緑石 1017.2	埋没土中	両端に敲打痕?。全体的に被熱、ひび割れが入り、表面はもろくな っている。僅かに赤く変色している。	

1号住居出土遺物観察表《金属器》 図147

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特徴	備考
M12 132	金属器 釘?	長 7.3cm 重 7.64g	P7 南西床面直上	幅0.9cm、厚0.8cm。全体に錆が進んでいる。断面は四角形の部分が一部にある。頭部は不明。	

3号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図151

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
739 132	土師器 杯	ほぼ完形 口縁部一部欠損 口 12.5cm 高 3.5cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。体部外面指などで調整。一部に無調整と思われるところもある。内面から口縁部内外面丁寧な調整。明確な稜線はないが、平底を意識した器形であろう。	
740 132	土師器 杯	口縁部～杯部下 位1/4残存 口 (11.6cm)	カマド掘り方 埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。体部外面指などで調整。体部内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで調整。口縁端部内面は内湾するように仕上げられている。	
741 132	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.2cm) 高 (3.2cm)	貯蔵穴内 底面直上	①砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部から底部外面篋削り。内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで調整。	
742 132	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (14.0cm) 高 (3.3cm)	埋没土中	①よく精選されている。 夾雑物はほとんどない。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/3	底部外面篋削り。体部外面などで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで調整。胎土・整形ともに丁寧なつくりの土器である。	
746	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (15.0cm) 高 3.3cm	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面指などで調整。底部外面篋削り。体部内面丁寧な調整。口縁端部内面は玉縁状に肥厚する。底部内面には螺旋、杯部内面には放射状の暗文が施されている。	在地産畿内系 暗文土器
743 132	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.6cm) 底 (6.9cm) 高 3.9cm	埋没土中	①小礫・黒色鉱物粒を含む。 ②硬質。外面に自然釉。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転系切り離し後、周縁のみ手持ち篋削り調整。体部内面及び口縁部内外面横などで調整。	
744 132	須恵器 蓋	天井部～口縁端 部破片 口 (13.6cm)	南西隅 床面上7.0cm	①微細砂と極少量の小 礫を含む。②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。外面天井部上には回転篋削り痕が残る。口縁端部から内面などで調整。	
745 132	須恵器 蓋	天井部1/2残存	南西隅 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。天井部外面回転篋削り。内面丁寧な調整。端部内外面横などで調整。つまみ接合部はなでつけている。	
747	土師器 小形甕	口縁部破片 口 (12.6cm)	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面横方向篋削り。内面横方向篋削り。口縁部内外面横などで調整。	
748 133	瓦 女瓦	厚 0.9cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②焼締 灰黄2.5Y6/2	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面の布目は細かい。裏面に絡縄文と離砂付着。	秋間。

3号住居出土遺物観察表《石器》 図153

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S340 133	たたき石	12.5・5.0 3.4	緑色片岩 338.8	埋没土中	一端に敲打による大きな剥離面、一端に敲打痕を残す。周面に長軸方向にほぼ平行ないしは斜行する線状痕が認められる。	
S341 133	こも縄石	12.3・6.0 5.1	粗粒安山岩 540.4	埋没土中	両端及び一側面とその両脇の後部分に敲打痕を残す。	
S342 133	台石?	13.5・9.5 6.0	粗粒安山岩 1153.0	埋没土中	一端及び正面の稜周辺に敲打痕を残す。裏面には擦痕が認められ、ほぼ全面が磨り面として利用されている。	
S343 133	敲石	14.0・11.5 8.7	粗粒安山岩 1600.3	カマド左袖脇 床面上7cm	一端及び一側面に顕著な敲打痕を残す。被熱による赤色化と、ひび割れが顕著。	
S344 133	砥石	13.3・8.7 8.4	二ツ岳軽石 556.2	埋没土中	二ツ岳軽石を利用。1cmほどの深さの線状痕が数箇所に認められる7つほどに割れている。	
S641 133	袖石	10.6・9.2 12.1	未固結凝灰岩 842	埋没土中	3面は確実に角柱状に切り出しており、2面にノミ状工具による削り痕を残す。	

4号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図155

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
749 133	土師器 高台付椀	完形 口 13.7cm 底 6.0cm 高 5.0cm	南東隅 床面上4.0cm	①少量の小礫と砂粒・ 雲母片を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体 部内外面雑な回転など。口縁部内外面横など。	
752 133	須恵器 杯	完形 口 14.0cm 底 6.0cm 高 3.8cm	カマド左前 床面直上	①細砂・黒色鈹物粒・ 少量の小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体 部内外面回転など調整。口縁部内外面横など。	
753 133	須恵器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 14.0cm 底 7.5cm 高 3.7cm	南東隅 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/2	左回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。体部内外面 回転など。口縁部内外面横など。	
755 133	須恵器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (15.8cm) 高 (4.4cm)	カマド内	①砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。体部内外面などで調整。口縁部内外 面横など。	
750 133	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.5cm) 底 (8.5cm) 高 5.8cm	南西 床面直上	①細砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合後、底部外面などで調整。椀部内外面回転など調 整。口縁部内外面横など。	
751 133	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.4cm) 底 (6.6cm) 高 5.9cm	L-30G 4号確認面	①砂粒・小礫を多く含 む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体 部内外面雑な調整。口縁部内外面横など。	
754 133	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.4cm) 底 (7.8cm) 高 5.0cm	北西 床面上21.0cm	①小礫・細砂を少量含 む。 ②軟質。 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ整形。底部外面糸切り離し。付高台。高 台接合部丁寧な調整。体部内外面雑な調整。 口縁部内外面強い横などで調整。	
756	土師器 甕	口縁部破片 口 (17.6cm)	カマド左袖脇 床面上14.7cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	胴部外面横方向篋削り。内面横篋など。頸部外面など 調整。一部、無調整の部分がある。頸部内面から口縁 部内外面横など。	
757 134	土師器 甕	口縁部～体部 破片 口 (20.5cm)	北西 床面上8.6cm	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	頸部外面横方向などで。胴部外面横篋削り。内面横篋な で。口縁端部は内湾する。口縁部内外面横などで調整。	
758 134	瓦 女瓦	厚 1.0cm	南西部 床面上18cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③浅黄2.5Y7/3	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面の布目は細 い。裏面に絡縄文あり。	秋間。

4号住居出土遺物観察表《石器》 図155・156

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S345 134	砥石	9.2・3.4 2.9	砂岩 159.5	埋没土中	側面すべてと一端の面の計5面を砥ぎ面とし、刃痕や幅の広い線状 痕が認められる。かなり使い込まれている。	
S347 134	袖石	25.50・14.0 11.2	粗粒安山岩 5700.0	カマド内	表面に敲打痕を残す。両面の一部が磨り面として利用されている。 一部に黒褐色に変色する部分が認められ、僅かに欠損している。	
S348	こも編石	13.5・8.5 4.8	ひん岩 1163.5	埋没土中	一端に敲打痕を残し、ほぼ全面を磨り面として利用している。一側 面に平行な数条の線状痕を残す。	355と接合。
S346	袖石	24.3・19.6 7.0	粗粒安山岩 2550.0	カマド内	一面の全体が赤く変色している。	

4号住居出土遺物観察表《金属器》 図155

番号 PL	器種	大きさ 重量 (g)	出土位置	特 徴	備考
M9 134	金属器 雁股式鎌	長残 11.7cm 重 30.39g	埋没土中	錆により全体が空洞化に近い状態である。身の断面は三角形に近く、関付近の断 面は欠損部分でわずかに四角形をした部分が残る。	

5号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図158

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
760	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (12.2cm)	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。内面には指頭圧痕が残る。	
759 134	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.7cm) 底 (5.0cm) 高 3.8cm	カマド内 灰面直上	①砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。切り離した後、底部外面一部などで調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横などで。小形で、やや深めの杯である。口縁端部は外反する。	
762 134	須恵器 杯	ほぼ完形 口 12.4cm 底 6.5cm 高 3.5cm	カマド前 床面直上	①細砂・小礫を少量含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。口縁部内外面横などで。	内面の一ヶ所に煤が付着。燈明皿として使用か？
761 134	須恵器 高台付椀	底部2/3残存 底 9.4cm	カマド掘り方 埋没土中	①細砂と少量の小礫を含む。②硬質。 ③灰10Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部丁寧などで調整。	
763	須恵器 甕	胴部破片	南東 床面上15.0cm	①砂粒・小礫を少量含む。②軟質。 ③灰白2.5Y8/2	外面には剝離部分が多いが平行叩き目が残され、内面には同心円状の叩き目が残されている。	

6号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図160

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
764 134	土師器 杯	口縁部～胴部 3/4残存 口 12.0cm 底 8.7cm 高 3.7cm	南東 床面上1.5cm	①砂粒・黒色鉍物粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面斲削り。体部外面雑な指などで。体部内面雑ななどで調整。口縁部内外面横などで。	
770	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.0cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR6/6	底部外面斲削り。体部指などで。体部内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。	
771	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.4cm)	カマド掘り方 埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5Y7/4	平底さみの杯。底部外面斲削り。体部外面指などで。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。	
772	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.4cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙2.5YR6/6	体部外面横方向斲削り。底部外面斲削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。内面には放射状のごく細い暗文が施されている。	
767 135	須恵器 高台付椀	体部下位残存 高台部・口縁部 欠損	北東 床面上10.0cm	①細砂と少量の小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。高台部内側には、そのための粘土の盛り上がりが見取できる。体部内外面とも雑ななどで調整。	
766 134	須恵器 蓋	天井部～口縁部 1/3残存 口 (14.2cm) 天 (7.1cm) 高 (3.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。回転糸切り離し。無調整。口縁部内外面横などで。	
768	須恵器 蓋	つまみ部残存	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	つまみ部接合部丁寧などで調整。内外面横などで。	
765 134	須恵器 高台付皿	底部破片 底 (8.0cm)	北西 床面上4.5cm	①細砂・黒色鉍物粒を含む。②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部及び底部外面などで調整。	
773	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/6残存 口 (21.2cm)	南東隅 貯蔵穴内	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲削り。頸部から口縁部内外面横などで調整。頸部外面には指頭圧痕が残る。	
774	土師器 甕	口縁部破片 口 (11.2cm)	南西 床面上22.0cm	①細砂を含む。②硬質。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部外面横方向斲削り。口縁部から頸部内外面横などで調整。	
769 135	瓦 男瓦	厚 1.5cm	北西部 床面上10cm	①白色粒子含 ②硬質 ③灰白10Y8/1	半載作か一枚作か不明。表面側に編物様の圧痕付着。裏面の布目は並。編物様はこれ一点のみ。	吉井・藤岡。

6号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図160

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2272 135	土師器 甕	底部2/3～体部 一部残存 底（4.2cm） 高 23.3cm残	カマド内 灰面上8cmの 破片とカマド 掘り方出土の 破片が接合	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③赤褐2.5YR4/6	体部外面上半斜方向篋削り。体部外面上半縦方向篋削り。底部外面篋削り。体部内面斜方向篋削り。一部に粘土帯の痕跡が残る。底部内面には放射状のへら痕が残る。	

6号住居出土遺物観察表《金属器》 図160

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備考
M10 135	金属器 雁股式鉄	長 5.9cm 重 12.93g	埋没土中	錆により身の部分は空洞化が進んでいる。篋被と茎は断面が四角形に近く、茎はわずかに身に近い部分が残っている。	全体に錆進行している

7号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図161

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
775 135	須恵器 杯	口縁部～底部 2/5残存 口（13.0cm） 底（8.2cm） 高 2.8cm	南西 床面上17.0cm	①黒色鉾物細粒を多量に含む。 ② ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。	
776	須恵器 椀	口縁部～体部 破片 口（12.0cm） 底（9.6cm） 高（4.3cm）	埋没土中	①微細砂と少量の小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。内外面回転などで調整。	
777 +690 135	瓦 女瓦	厚 1.4cm	南壁際 床面上5.5cm	①鉾物含 ②並質 ③灰白5Y7/1	表面に寄木条痕があり桶巻作。さらに布目の撫消しあり。裏面は回転削目あり。側部面取回数は1回。	秋間。

8号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図162

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
783	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口（12.0cm） 高（2.8cm）	カマド掘り方 埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。体部外面指などで。口縁部内外面横などで。口縁部内面端部は一部丸く肥厚する。	
784	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口（12.0cm） 高（3.0cm）	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部外面指押さえ。内面などで。口縁部内外面横などで。	
778 135	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 3/4残存 口 14.8cm 底 8.0cm 高 6.3cm	南東隅 床面上6.5cm	①微細砂・砂粒・少量の小礫を含む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。体部内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。	
779 135	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 3/4残存 口 14.5cm 底 7.5cm 高 6.7cm	南東隅 床面直上	①砂粒・小礫を多量に含む。 ②やや軟質。 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。口縁部内外面横などで。	
781 135	須恵器 高台付椀	底部1/2残存 底（8.6cm）	埋没土中	①微細砂・黒色鉾物細粒を含む。②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
782	須恵器 高台付椀	底部残存 高台部剥落	掘り方 埋没土中	①細砂と小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y4/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。	
780 135	須恵器 高台付皿	口縁部～底部 1/3残存 口（14.4cm） 底（7.8cm） 高 3.3cm	南東壁際 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③暗灰N2/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。体部外面下半横方向回転篋削り。口縁部内外面横などで。	

8号住居出土遺物観察表《石器》 図162・163

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S350 I35	砥石?	7.0・4.8 6.7	粗粒安山岩 364.5	埋没土中	一面を研ぎ面、一面を敲打面としている。	
S353 I35	砥石?	13.6・10.4 9.1	二ツ岳軽石 664.3	カマド内 床面上20cm	3面にノミ状工具による削り出し痕が認められる。	
S349 I35	砥石	12.4・10.1 7.8	粗粒安山岩 812.5	カマド内 床面上2.5cm	少なくとも3面は砥ぎ面として成形している。長軸方向に平行、直交する刃痕が多数認められる。	
S642 I36	左袖石	15.5・10.0 8.6	未固結凝灰岩 1078	カマド	4面を角柱状に切り出している。一部に煤が付着している。	
S643 I36	右袖石	14.7・9.6 11.5	未固結凝灰岩 1375	カマド	4面を角柱状に切り出しており、一面にノミ状工具による削り痕を残す。一部が酸化している。	
S352 I36	台石?	20.8・13.7 10.4	粗粒安山岩 3330.0	南東	明瞭な痕跡は認められない。	
S351 I36	台石	21.6・4.2 5.8	粗粒安山岩 2400.0	南東 床面上2.5cm	明瞭な痕跡は認められない。	

9号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図167

番号 PL	器種	残存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
785 I36	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (12.6cm) 底 (6.5cm) 高 3.9cm	埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 黒色鉱物細粒も混じる。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転など。口縁部内外面横など。	
786 I36	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.4cm) 底 6.0cm 高 3.7cm	南西 床面上2.0cm	①細砂・黒色鉱物細粒 を含む。 ②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転など。口縁部内外面横など。	
787 I36	須恵器 杯	完形 口 14.2cm 底 6.0cm 高 3.6cm	カマド前 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②やや硬質。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転など。口縁部内外面横など。	
788 I36	須恵器 椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (17.5cm) 底 (8.0cm) 高 5.9cm	南西 床面直上	①細砂・砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、周縁のみ回転斲削り。体部内外面回転など調整。口縁部横など。	
789 I36	須恵器 高台付椀	体部～底部 1/2残存 底 (7.0cm)	東壁際 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。体部内外面などで調整。	
790 I36	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.2cm) 底 (7.3cm) 高 5.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。口縁部内外面横など。	
791 I36	土師器 甕	口縁部～体部 1/2残存 口 (18.6cm)	南西 床面上44.0cm	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面下半縦方向斲削り。上半横方向斲削り。内面横方向斲削りなど。口縁部から頸部内外面横など。頸部外面には輪積痕を残す。	
792 I36	土師器 甕	口縁部～体部 1/2残存 口 (17.9cm)	カマド内 灰面直上	①砂粒・小礫を多量に 含む。②やや硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	体部外面下半斜方向斲削り。上半横方向斲削り。頸部から口縁部内外面など。頸部外面には輪積痕を残す。口縁部外面端部に面取りを行う。	
793 I36	土師器 甕	口縁部～体部 1/4残存 口 (19.2cm)	カマド内 灰面上19.0cm	①多量の細砂と小礫を 含む。②やや硬質。 ③暗赤褐5YR3/6	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲削りなど。口縁部から頸部横などで調整。頸部には輪積み痕を残す。	10号住居カマド内の破片が接合。
794 I36	土師器 甕	口縁部～底部 3/4残存 口 (17.8cm) 底 3.0cm 高 14.6cm	カマド内 灰面上3.5cm	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面上半横方向斲削り。下半縦方向斲削り。底部外面斲削り。内面丁寧ななど。口縁部内外面横など。	

9号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図167・168

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
795 136	土師器 甕	口縁部～体部 破片 口 (22.0cm)	カマド内 灰面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部から頸部内外面横などで調整。外面には輪積痕を残す。口縁端部は内湾する。	
796 136	土師器 甕	口縁部1/4残存 口 (12.7cm)	南西 床面上14.5cm	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部から頸部内外面横などで。口縁部内面端部は丸く肥厚する。	
797 137	瓦 女瓦	厚 1.0cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y6/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面の布目は細い。裏面に絡縄文が縦方向と小口際は横方向にあり。	秋間。
798 +2263 137	瓦 女瓦	厚 0.9cm	カマド内	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰白N7/1	表面に寄木条痕があり桶巻作。裏面に縦方向の縄目あり。さらに微砂による離砂あり。	秋間。
799 136	瓦 女瓦	厚 1.3cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白5Y7/2	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面の布目は並。裏面に縄目あり。	秋間。

9号住居出土遺物観察表《石器》 図166・168

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S473 137	紡錘車	5.2・5.2 0.9	砥沢石 28.2	南東 床面上7.5cm	調整の削りが荒い。穿孔は片袂か。	
S358 137	敲石?	8.5・5.0 2.6	ひん岩 206.6	埋没土中	一端に敲打痕を残す。半分を欠損している。	
S360 137	袖石	13.8・11.7 7.4	粗粒安山岩 1558.8	埋没土中	一端及び一側縁を欠損している。表面に敲打痕を残す。欠損している一端に煤が付着している。	
S356 137	石鎌	2.2・1.3 0.5	珪質頁岩 1.4	埋没土中	有茎で基部は直線的である。先端部と基部を欠損している。	
S357 137	加工痕あ る	3.1・5.3 1.0	黒色頁岩 17.9	埋没土中	縦長剥片素材、礫面残存。一側縁に加工痕が僅かに認められる。	
S359 137	敲石	7.8・4.7 3.7	石英斑岩 189.5	埋没土中	一側面に敲打痕を残す。裏面が磨り面として利用され、一端から側面にかけて煤が付着している。半分を欠損している。	全体に被熱している。
S361 137	袖石	17.1・15.8 11.2	粗粒安山岩 4550.0	カマド内 床面下7.5cm	一端を欠損している。一部に煤が付着している。	
S354 137	敲石	17.0・7.2 4.0	粗粒安山岩 760.9	埋没土中	一端に敲打痕を残す。一部が被熱している。	

9号住居出土遺物観察表《金属器》 図167

番号 PL	器種	大き さ 重量 (g)	出土位置	特 徴	備考
M11 137	金属器 刀子	長 5.6cm 重 6.0g	埋没土中	幅1.1cm、全体に錆が進行している。身と茎の一部が残る。	

10号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図170

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
801 138	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.4cm) 底 (7.4cm) 高 3.5cm	埋没土中	①黒色鉾物細粒・微細 砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横などで。	口縁部に歪みがある。
802 138	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.2cm) 底 6.0cm 高 3.0cm	南部	①微細砂・黒色鉾物細 粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横などで。	器形に歪みがある。
808	須恵器 高台付椀	底部破片 底 (9.9cm)	南部	①黒色鉾物細粒・微細 砂を多量に含む。 ②やや硬質。③灰N6/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。体部内外面などで調整。	
841 138	須恵器 甕	体部破片 胴 (12.2cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	紐づくり成形。体部内外面回転などで調整。	4号・9号住居の埋没土中の破片が接合。

10号住居出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図170

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
804 138	瓦 男瓦	厚 1.3cm	南部	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白5Y7/2	表面に回転撫痕があるため半截作。裏面は粘土板糸切痕あり。側部面取回数は2回。截断線あり。	秋間。
805 138	瓦 男瓦	厚 1.4cm	南部	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰N6/0	表面に回転撫痕があるため半截作。裏面の布目は細くかがり目あり。それは布の合せ目とは異なる。	秋間。
806 138	瓦 女瓦	厚 1.4cm	南部	①白色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y6/1	表面に寄木条痕があるため桶巻作。裏面は回転の撫による素文。	乗附・秋間。
807 138	瓦 男瓦	厚 1.6cm	南部	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y6/1	表面に回転の撫があるため半截作。裏面は布の合せ目あり。側部面取回数は2回。	乗附・西毛X。

12号住居出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図173

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
809	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (12.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。口縁部外面から体部内面丁寧なで調整。口縁部外面端部には輪積み痕を残す。	
810	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (12.4cm)	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面斲削り。体部内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
811	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (12.8cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂を含む。黒色 鉱物細粒を少量含む。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR4/5	底部外面斲削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
812	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.6cm)	カマド内 埋没土中	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面斲削り。体部内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
815	須恵器 甕	体部破片	埋没土中	①微細砂と砂粒を少量 含む。②硬質。 ③灰白5Y7/2	外面なで調整及び格子叩き整形。内面横方向斲なで。	
813	埴輪 円筒埴輪	体部破片	埋没土中	①細砂・砂粒を多量に 含む。②やや軟質。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部内外面縦方向刷毛目。部分的に指なで。	
814	埴輪 円筒埴輪	突帯部破片	埋没土中	①砂粒・小礫を多く含 む。②硬質。 ③明赤褐2.5YR5/6	輪積み成形。体部外面縦方向刷毛目。突帯接合部なで調整。内面一部横方向刷毛目。一部指押さえ。	

13号住居出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図175

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
816 138	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.0cm) 高 3.7cm	東壁際 床面上2.5cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面斲削り後、指なで調整。内面指なで。口縁部内外面横なで。口縁端部は丸く内湾する。	
817 138	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.7cm) 高 3.8cm	南東隅 床面上2.2cm	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面斲削り。体部外面斲削り後、指なで。体部内面丁寧なで調整。口縁部横なで調整。口縁端部は内湾する。	
818 138	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 (12.5cm) 底 9.4cm 高 3.3cm	南東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	底部外面斲削り。体部外面斲削り後、指なで調整。体部内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
822 138	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 14.5cm 高 (4.3cm)	南東隅 床面上2.0cm	①細砂・砂粒を多量に 含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部から底部外面斲削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで調整。体部内面には放射状の暗文が施されている。	
861 138	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.4cm) 底 (5.3cm) 高 3.5cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/4 (内面)黒10YR1.7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転なで調整。口縁部横なで。	内黒。

13号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図175

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
820 138	須恵器 杯	口縁部一部欠損 口 (14.1cm) 底 8.0cm 高 4.1cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横などで。	
819 138	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 3/4残存 口 (11.6cm) 底 7.0cm 高 6.1cm	南東隅 床面上1.8cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。体部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。	
821	須恵器 蓋	天井部破片	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。つまみ部接合部などで調整。天井部回転篋削り。	

14号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図177

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
823 138	須恵器 杯	完形 口 13.8cm 底 7.5cm 高 3.6cm	南東壁際 床面上6.0cm	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。	
825 138	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.1cm) 底 (6.3cm) 高 3.6cm	南西 床面直上	①小礫・砂粒・黒色鈹物細粒を多く含む。 ②やや硬質。 ③灰N6/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで。口縁部横などで。	
826 139	須恵器 杯	ほぼ完形 口 13.6cm 底 7.5cm 高 3.8cm	南東壁際 床面上2.0cm	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。底部外面には粘土のくずが付着したままとっている。	
828	須恵器 杯	口縁部破片 口 (17.0cm)	南西 床面上2.5cm	①微細砂・砂粒を少量含む。②硬質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。内外面回転などで調整。	
824 139	須恵器 高台付碗	完形 口 15.0cm 底 7.7cm 高 4.5cm	南東壁際 床面上7.5cm	①砂粒・小礫・黒色鈹物粒を含む。 ②やや硬質。 ③灰N6/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。接合痕が残る。体部内外面回転などで。	底部内面に重ね焼き痕が残る。
827	須恵器 高台付碗	底部1/2残存 高台部欠損	南東 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
832	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.3cm)	南東 床面直上	①微細砂を少量含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	体部上位外面横方向篋削り。口縁部内外面横などで。	
833	土師器 甕	体部下位～底部 1/2残存 底 4.0cm	南東壁際 床面上3.0cm	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋などで。	
834	土師器 甕	体部下位～底部 1/2残存 底 3.5cm	貯蔵穴内 埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部外面縦方向篋削り。内面斜方向篋などで。内面最下部横方向篋などで。	
831 139	土師器 台付甕	口縁部1/2及び 台部欠損 口 (14.0cm)	南東 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/6	体部外面下位縦方向篋削り。上位横方向篋削り。内面横方向篋などで後、などで調整。口縁部から頸部内外面横などで。	
829	須恵器 壺	口縁部破片 口 (14.0cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白5Y7/1	口縁部内外面回転横などで。口縁部は一度外反させてから、丸く肥厚し、段をつくっている。その上へ粘土紐をのせて上へつまみ上げ、端部をつくっている。	

14号住居出土遺物観察表《石器》 図177

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S362 139	敲石	13.1・5.9 4.1	石英閃緑岩 489.1	埋没土中	両端と裏面に敲打痕を残す。扁平。	

14号住居出土遺物観察表《石器》 図177

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S645 139	支脚	13.7・8.6 7.2	未固結凝灰岩 535	カマド	かなり崩れかけているが、長方体状に削り出されている。	
S644 139	袖石	23.7・11.1 13.6	未固結凝灰岩 3340	カマド	面を削り出している。出土位置から右の袖石と考えられる。	
S646 139	構築材	16.9・14.3 5.35	未固結凝灰岩 110	37号溝中	カマドの構築材の破片である。面を削り出している。被熱により赤く変色している。	

15号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図180

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
839	陶器 緑釉陰花 皿	底部破片	北部中央 床面直上	①緻密 ②やや硬質 ③緑灰5G6/1	施釉後焼成時の目痕が内外面に1ヶ所づつある。	
838	灰釉陶器 椀	口縁部破片 口 (15.7cm)	南東 床面上2.0cm	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。③灰白5Y8/1	内外面回転など。口縁端部は外反し、玉縁状に丸く、外面に肥厚する。口縁部施釉。どぶづけか。	
837	須恵器 杯	口縁部～底部 破片 口 (10.0cm) 底 (4.0cm) 高 2.6cm	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②軟質。酸化焰焼成。 ③明褐灰7.5YR7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。口縁部から体部内外面回転など。	
835	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/6残存 口 (12.2cm) 底 (6.0cm) 高 (4.1cm)	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。高台接合部はなでが雑で、接合痕を残している。	
840 139	土製品 土錘	長 4.1cm 胴 2.1cm 孔 0.3cm	カマド内 埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3		
836	須恵器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	粘土紐づくり。内外面回転などで調整。巾広の面を上に向けた、特異な形態の口縁をもつ甕。	口縁部外面に煤が付着。

16号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図181

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
846	土師器 椀	口縁部～体部 破片 口 (16.0cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③黄灰2.5Y5/1 (内面)黒2.5Y2/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。内面は丁寧なで調整。	内黒。
847	土師器 高台付椀	体部～底部破片	カマド内 埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2 (内面)黒褐7.5YR3/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部など。体部内外面回転などで調整。大形の内黒の椀である。	内黒。
842 139	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.0cm) 底 (7.2cm) 高 (3.7cm)	北西 床面直上	①微細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内外面回転など。	内面に一ヶ所煤が付着。
845	須恵器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (12.8cm) 底 (5.6cm) 高 (4.4cm)	カマド前 床面直上	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y6/1	右回転ロクロ整形。一部に輪積み痕が残る。口縁部・体部回転などで調整。口縁端部は大きく、丸く肥厚し、外反する。	
843 139	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.6cm) 底 6.4cm 高 4.4cm	南西 床面上14.5cm	①微細砂・砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部はなで調整を行うが、外面には接合痕が残る。体部・口縁部内外面回転などで調整。	

16号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図181

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
844 139	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.3cm) 底 (6.4cm) 高 4.2cm	住居外 北東部の外 地山	①微細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部など。体部・口縁部内外面回転など。口縁端部は大きく、丸く肥厚し、外反する。	
850	土師器 甕	体部破片	カマド内 灰面上9.5cm	①微細砂・砂粒を多く含む。②やや硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	粘土紐づくり後、体部上半右回転ロクロ整形。体部下位などで調整。内面回転などで調整。	
848	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (21.0cm)	埋没土中	①微細砂・砂粒を多く含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	粘土紐づくり後、内外面回転などで調整。	
849	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (23.8cm)	カマド内 埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③褐灰10YR5/1	粘土紐づくり後、内外面右回転などで調整。	

17号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図184

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
851	須恵器 高台付碗	底部残存 底 6.4cm	南東 床面上6.0cm	①砂粒・小礫を多く含む。②軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
852 139	須恵器 羽釜	口縁部～体部下 位2/5残存 口 (20.5cm)	カマド掘り方 埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR7/1	粘土紐づくり後、外面下位縦方向篋などで。上半部右回転ロクロ整形。内面下位指などで調整。上半部回転など。	

18号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図186

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
853 139	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (16.0cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	体部外面横方向篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁端部は短く内湾し、内面端部は丸く肥厚する。	
854	須恵器 甕	口縁部破片 口 (19.8cm)	埋没土中	①砂粒・小礫・黒色鉱物細粒を少量含む。 ②やや硬質。 ③灰白10Y7/1	内外面とも右回転ロクロ整形。口縁部外面に細い突帯を削り出して、つくっている。	
855	埴輪 円筒埴輪	体部破片	位置不明 床面直上	①小礫・砂粒を多く含む。②やや軟質。 ③橙5YR7/8	体部外面縦方向刷毛目。突帯接合部指などで調整。内面指などで。	
856 140	埴輪 円筒埴輪	体部破片	中央 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面細かい縦方向の刷毛目整形。内面縦方向篋などで・指などで調整。突帯接合部指などで。	

18号住居出土遺物観察表《石器》 図186

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S366 139	こも編石 ?	12.9・6.0 3.9	粗粒安山岩 447.2	南西 床面直上	裏面と両側面が磨り面として利用されている。両端と一側面から裏面にかけて敲打痕を残す。	
S364 140	支脚	18.0・12.0 10.5	未固結凝灰岩 1500.5	カマド内 床面上14.5cm	8面ほど面取りがなされている。頭部付近に煤が付着している。	
S367 140	台石?	15.9・12.7 8.5	粗粒安山岩 2430.0	掘り方V面	六角形で6面すべてが削り出されている。1面に磨り痕が認められる。	

21号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図187

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
865 140	土師器 杯	完形 口 12.4cm 高 4.0cm	北西 床面直上	①微細砂を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR7/6	底部外面篋削り後、篋磨き。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	口縁部に歪みがある。

21号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図187

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
866 140	土師器 杯	完形 口 12.0cm 高 4.2cm	北西隅 床面直上	①砂粒を多く含むが、 精選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/8	底部外面斲削り後、なで調整。内面指なで調整。口縁部内外面横なで。	
867 140	土師器 杯	完形 口 11.6cm 高 3.9cm	北西 床面直上	①微細砂を多量に含む が、精選された胎土で ある。②硬質。 ③橙7.5YR6/8	底部外面斲削り後、なで調整。内面指なで調整。口縁部内外面横なで。	
868 140	土師器 杯	完形 口 11.2cm 高 3.6cm	北西 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面斲削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。	
869 140	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 13.4cm 高 3.8cm	北西 床面直上	①微細砂・小礫を含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面指なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。	
870 140	土師器 杯	完形 口 12.7cm 高 4.3cm	北西 床面直上	①微細砂を含むが、精 選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR7/6	底部外面斲削り後、なで調整。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。	
871 140	土師器 杯	完形 口 11.5cm 高 3.8cm	北西 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで調整。	
872 140	土師器 杯	完形 口 12.4cm 高 5.0cm	中央 床面上1.5cm	①砂粒を含むが、精選 された胎土である。 ②硬質。③橙7.5YR7/6	底部外面一方向斲削り。内面横方向なで調整。口縁部内外面横なで調整。	
873 140	土師器 杯	完形 口 12.0cm 高 4.9cm	中央 床面直上	①細砂を含むが、精選 された胎土である。 ②硬質。③橙5YR7/6	底部外面斲削り後、斲磨き。磨きの単位は判然としな い。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	
874 140	土師器 碗	ほぼ完形 口 12.3cm 高 4.3cm	北西 床面直上	①微細砂・砂粒を多く 含む。②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	体部外面斲削り後、上半部のみ横方向斲磨き。内面磨 き。内黒処理。口縁端部は内湾する。	内黒。
875 140	須恵器 蓋	口縁部～天井部 3/4残存 口 13.0cm 高 4.8cm	北東 床面上2.5cm	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③暗灰黄2.5Y5/2	右回転ク口整形。底部切り離し技法不明。天井部外 面上半回転斲削り。体部内外面回転なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁端部内面は丸く肥厚し、内湾する。 口縁部上位は緩い稜をつくり、三条の櫛描横線文が施 されている。	
864 140	土師器 甕	完形 口 10.1cm 高 10.8cm	北西 床面直上	①小礫・砂粒を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲なで。口縁部内 外面横なで調整。	
876 140	土師器 甕	体部下位～底部 残存 底 8.0cm	中央 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲なで。底部外面 斲削り。	
863 140	土師器 壺	ほぼ完形 口 12.8cm 高 17.3cm	北西 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面上半縦方向刷毛目整形後、2本櫛歯状工具に よる櫛描波状文を4段施文。下半斜方向斲磨き。口縁 部内面なで調整の後、体部と同様の工具による櫛描波 状文を1段施文。口縁端部下位には一条凹線が施され、 端部上端は細くつまみ上げられ、内湾している。体部 内面横方向斲なで。	
862 140	土師器 甌	口縁部～底部 3/4残存 口 長 26.6cm 短 24.0cm 底 9.8cm 高 高 24.0cm 低 20.7cm	北西 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面縦方向斲削り。内面縦方向斲磨き。口縁部内 外面横なで。	口縁部に歪み がある。
877 141	瓦 女瓦	厚 1.6cm	埋没土中	①黒・白粒子含②焼締 ③灰5Y5/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表裏に粘土板糸 切痕あり。裏面絡縄文あり。	吉井・乗附。

21号住居出土遺物観察表《石器》 図189

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S370 141	こも編石	13.8・7.9 5.8	粗粒安山岩 879.6	カマド右袖脇 床面直上	明瞭な痕跡は認められない。	

21号住居出土遺物観察表《石器》 図189・190

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S375 141	こも編石	14.1・7.9 5.8	石英閃緑岩 970.4	南西 床面直上	一端に敲打痕を残す。裏面が磨り面として利用されている。	
S373 141	こも編石	12.3・8.0 4.8	粗粒安山岩 741.1	南西 床面上4.5cm	一端を欠損している。	
S368 141	カマド支 脚	14.0・8.7 7.0	安山岩質凝灰岩 834	カマド内	六角の角柱状に切り出されている。ノミ状工具による削り出し痕が認められる。	
S378 141	こも編石	16.2・6.2 5.5	流紋岩 811.5	南西 床面直上	一端に僅かに敲打痕を残す。	
S372 141	こも編石	15.1・3.9 4.8	粗粒安山岩 796.9	南西 床面上5cm	裏面と一側面が磨り面として利用されている。	
S377 141	こも編石	14.8・6.0 4.4	珪質頁岩 669.3	南西 床面直上	表面及び一側面の一部に線状痕が認められる。	
S369 141	こも編石	15.7・7.1 5.7	粗粒安山岩 810.4	北東 床面下5cm	一端と一側縁に敲打痕を残す。	
S376 141	こも編石	16.0・7.1 4.7	粗粒安山岩 809.3	南西 床面直上	一端に敲打痕を残す。表面の両側縁付近に磨り痕が認められる。	
S374 141	こも編石	15.5・7.2 6.2	粗粒安山岩 930.7	南西 床面直上	裏面を磨り面として利用している。一部に煤が付着している。	
S371 141	こも編石	15.3・8.5 5.0	粗粒安山岩 1149.2	南壁際 床面上2cm	一端に敲打痕を残す。	

23号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図193

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
895	灰釉陶器 杯	口縁部破片 口 (13.0cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細粒を少量含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	内外面回転などで調整。	
885 141	土師器 高台付碗	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.4cm) 底 (7.0cm) 高 4.2cm	中央 床面上8.0cm	①微細砂・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合痕が外面に残る。内外面回転など。口縁部内外面横など。	
880 141	土師器 高台付碗	口縁部～底部 2/3残存 口 12.0cm 底 6.5cm 高 4.8cm	南東 床面直上	①細砂・小礫を多量に含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/8	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部回転など。体部内外面など。口縁部横など。内面は内黒処理されているが、磨かれてはいない。	内黒。
879 141	須恵器 杯	完形 口 11.5cm 底 5.0cm 高 3.6cm	南西 床面上2.0cm	①小礫・砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面弱い回転など。口縁部横など。口縁端部は外反する。	
883 141	須恵器 杯	口縁部～底部 破片 口 (10.6cm) 底 4.0cm 高 2.8cm	床下P2内 底面上8.0cm	①微細砂・黒色鉱物細粒・赤色鉱物細粒を少量含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転など。口縁部横など。底径に比して、口径が大きく外反する器形である。	882・884と同巧。
884 141	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (9.3cm) 底 (4.3cm) 高 2.4cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面など。口縁部内外面横など。	882・883と同巧。
886	須恵器 杯	口縁部1/4残存 口 (13.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y4/1	右回転ロクロ整形。内外面回転などで調整。	

23号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図193

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
878 142	須恵器 椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.7cm) 底 (5.7cm) 高 (4.4cm)	南東隅 床面上4.5cm	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体 部内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。	
881 142	須恵器 椀	口縁部～底部 1/2残存 口 13.6cm 底 (5.6cm) 高 5.3cm	掘り方 南東 床面上4.0cm	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体 部内外面回転などで調整。口縁部内外面横などで。	
882 142	須恵器 椀	口縁部～底部 破片 口 (10.0cm) 底 4.6cm 高 3.6cm	掘り方 南東隅と床下 P 1内の遺物 が接合	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	小形の椀である。底部内面に粘土紐づくりの痕跡があ る。右回転ロクロ整形。内外面回転などで。	883・884と同 巧。
887	須恵器 高台付椀	底部1/2残存 底 (5.6cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部などで調整。	
896 142	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (14.0cm) 底 (8.2cm) 高 (7.2cm)	カマド内 灰面上5.5cm	①砂粒を多量に含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	ロクロ整形。底部切り離し技法不明。付高台。高台接 合部などで調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横 などで。	
897 141	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 破片 口 (12.4cm) 底 (5.8cm) 高 4.0cm	南東 床面直上	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい黄褐10YR5/4	ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外 面回転などで。口縁部内外面横などで。	
889	土師器 甑	体部下半1/3残 存 底 (25.0cm)	カマド内 灰面直上	①細砂・小礫を多量に 含む。②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	粘土紐づくり後、体部内外面回転などで調整。外面中位 から下位にかけては篋削りを行うが、最下部は再度、 回転などで調整。	
890	須恵器 甕	頸部～体部破片	カマド左袖脇 床面直上	①砂粒・小礫を含む。 ②軟質。③灰10Y6/1	粘土紐づくり成形。体部外面巾広の荒い篋削りの後、 回転などで調整。内面回転などで。	
891	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (25.0cm)	掘り方 南東隅 床面上11.0cm	①砂粒・白色鉱物細粒 を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	粘土紐づくり後、体部内外面回転などで。罎部接合後、 口縁部内外面横などで。	
892	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (20.0cm)	カマド内 灰面直上	①砂粒を少量含む。 ②軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	粘土紐づくり成形後、内外面回転などで調整。罎を貼付 後、口縁部内外面横などで調整。	
893	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (18.8cm)	掘り方 南東 底面上2.5cm	①微細砂・砂粒を多量 に含む。②やや軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	粘土紐づくり後、内外面回転などで調整。罎部接合後、 口縁部横などで調整。	
894	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (20.0cm)	カマド内 灰面上3.5cm	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰N6/	粘土紐づくり成形後、内外面回転などで調整。罎部接合 後、口縁部横などで調整。	

23号住居出土遺物観察表《石器》 図193

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S379 142	砥石	16.5・15.0 9.7	粗粒安山岩 3040.0	南西 床面直上	表面に同一方向の数条の線状痕が2グループの単位で認められる。 礫面のほぼ半分に煤が付着している。	

26号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図195

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
907	須恵器 高台付碗	底部1/4残存 底 (6.6cm)	北東 床面直上	①微細砂をごく少量含む。精選された胎土である。②軟質。 ③灰白5YR8/1	ロクロ整形。回転方向不明。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部などで調整。	
909 142	埴輪 円筒埴輪	体部破片	埋没土中	①細砂・白色鈹物細粒と少量の小礫を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部外面縦方向刷毛目。内面縦方向篋などで調整。	
908 142	瓦 女瓦	厚 1.7cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰白2.5Y7/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。裏面に絡縄文あり。表面板剥取痕あり。側面取り回数は1回。	秋間。

26号住居出土遺物観察表《金属器》 図195

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備考
M13 142	金属器 不明	長 4.4cm 重 4.37g	南東 床面上10.5cm	破片。幅1.0cm。錆が進み、空洞化している。両端欠損。	
M17 142	金属器 釘?	長 (10.8cm) 重 9.71g	南東部 床面上11cm	断面は四角形(0.6×0.7cm)を呈する。 頭は欠損している。	

32号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図196

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
925	土師器 杯	口縁部破片 口 (17.1cm)	埋没土中	①白色鈹物細粒を少量含むが、精選された胎土である。②硬質。内部は還元されている。 ③赤褐5YR5/6	底部外面篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。	
926	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.0cm)	西壁際 床面上2.2cm	①シルト質の精選された胎土である。②やや硬質。③橙5YR7/8	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
924 142	土師器 甕	口縁部～体部 1/4残存 口 (23.0cm)	中央 床面上3.7cm	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	体部外面斜方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部は大きく外反し、最大径をもつ。	

32号住居出土遺物観察表《石器》 図196

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S381 142	敲石	16.8・7.2 5.0	粗粒安山岩 847.5	西壁際 床面直上	両端と裏面に顕著な敲打痕が認められる。	

33号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図200

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
927	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.0cm)	掘り方 西	①微細砂を含むが、シルト質の精選された胎土である。②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	

40号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図203

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
940 142	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4残存 口 (15.0cm)	南壁際 床面直上	①細砂・黒色鈹物細粒を含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	右回転ロクロ整形。	
939 142	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.6cm) 底 5.0cm 高 4.8cm	南西 床面直上	①砂粒・微細砂・黒色鈹物細粒を含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部・口縁部内外面回転などで。	

40号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図202・203

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
943	須恵器 杯	口縁部破片 口 (11.0cm)	南西 床面上1.5cm	①細砂・黒色鉱物細粒 を含む。 ②酸化焰。硬質。 ③橙2.5YR6/6	右回転ロクロ整形。内外面とも回転で。	
945 142	須恵器 高台付椀	口縁部・底部 一部欠損 口 15.0cm 底 8.9cm 高 6.1cm	南西壁際 床面直上	①細砂・黒色鉱物細粒 を含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部で。体部内外面回転で調整。	
944	土師器 甕	口縁部破片 口 (15.4cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/3	体部外面縦方向・横方向篋削り。内面横方向・斜方向篋削り。口縁部内外面横で。	
947 142	土師器 甕	体部下位～底部 破片 底 (9.0cm)	南西 床面下4.0cm	①小礫・砂粒を多量に 含む。②軟質。 ③灰白2.5Y7/1	体部外面下位斜方向篋削り。最下部横方向篋削り。内面横方向で調整。	
946 142	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (17.0cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。やや硬質。 ③橙5YR7/8	粘土紐づくり。内外面回転で。口縁端部は内湾する。	

41号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図205

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
953	須恵器 甕	破片	カマド内 使用面直上	①緻密。 ②硬質。 ③赤灰7.5R6/1	外面に火だすき。内面で調整。	
952	灰釉陶器 椀	口縁部破片 口 (15.2cm)	掘り方 埋没土中	①灰色。精選された胎 土である。②硬質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。内外面丁寧なで調整。内面端部に施釉。	
948 143	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.4cm) 底 (5.5cm) 高 (4.5cm)	カマド内 灰面直上	①細砂を多量に含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面で調整。口縁部内外面横で。	
949 143	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (18.0cm)	南東 床面直上	①砂粒・小礫を含む。 ②やや硬質。 ③灰白5Y7/1	外面上位及び内面ロクロ回転で調整。外面下位縦方向篋削り。	
950 142	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位1/4残存 口 (22.0cm)	南東壁際 床面下3.5cm	①小礫・微細砂を含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	体部内外面回転で。鋳部接合部で調整。	
951	須恵器 羽釜	口縁部～鋳部 1/4残存 口 (20.0cm) 高 (6.5cm)	カマド前 床面上2.5cm	①細砂・小礫を多く含 む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	体部内外面で調整。口縁部内外面横で。	
954	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.4cm)	南西 床面上13.7cm	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	内外面回転で調整。	

41号住居出土遺物観察表《石器》 図205

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S385 143	台石 (敲石)	14.8・13.2 3.4	石英閃緑岩 994.1	南東部 床面直上	両面と周縁に敲打痕を残す。1面のほぼ半分が被熱し、一部が割がれている。	

42号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図208

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
955 143	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 11.0cm 高 3.3cm	カマド内 灰面下3.5cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面篋などで。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横などで。	
956 143	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.2cm) 高 3.4cm	カマド前 床面直上	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
960 143	土師器 杯	完形 口 12.0cm 高 3.5cm	北東 床面上3.0cm	①微細砂・砂粒を多量 に含む。②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面などで調整。指頭圧痕が残る。口 縁部内外面横などで調整。	
961 143	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.2cm) 高 4.4cm	カマド前 床面上6.9cm	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面 横などで調整。	
962 143	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4残存 口 (10.3cm)	南西 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR7/6	底部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
963 143	土師器 杯	ほぼ完形 口 11.0cm 高 3.6cm	北西 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③橙7.5YR6/6	剝離・磨耗が著しく、整形単位は不明であるが、底部 外面は篋削り。	
969	須恵器 蓋	口縁部破片 口 (9.0cm)	埋没土中	①黒色鉱物細粒を含む が、精選された胎土で ある。②やや軟質。 ③灰N6/	内外面とも回転などで調整。内面端部にはカエリがある。	
966	土師器 甕	口縁部破片 口 (18.6cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 多く含む。②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面横方向篋削り。口縁部内外面横などで。口縁部 外面中位に凹線が一条施されている。	
967 143	土師器 甕	口縁部～体部 破片 口 (21.0cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 多く含む。②やや軟質。 ③橙5YR6/8	体部外面斜方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部内 外面横などで。	
957	須恵器 甕	体部1/4残存	北西 床面上2.5cm	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。②硬質。 ③灰白10Y7/1	粘土紐づくり。下半部外面平行叩き整形。内面には同 心円状あて具痕が残る。上半部外面カキ目調整。内面 回転などで調整。	
968	須恵器 壺	肩部～体部上位 破片	埋没土中	①砂粒・白色鉱物細粒 を含む。②やや軟質。 ③灰N6/	左回転ロクロ整形。肩部外面には櫛描波状文が一条施 される。波状文より上位は回転などで調整。下位は回転 篋削り。内面回転などで。	
2152	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.0cm) 高 3.35cm	埋没土中	①微細砂をやや多く含 むが、精選された胎土 である。②硬質。 ③橙5YR6/6	体部～底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横などで。	
2153	土師器 甕	口縁部1/3残存 口 8.2cm	埋没土中	①微細砂を含むが、精 選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR7/6	体部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで調整。口縁 部内外面横などで調整。	

42号住居出土遺物観察表《石器》 図208

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S387 143	こも編石	12.5・7.0 4.1	粗粒安山岩 598.1	カマド左袖脇 床面上3cm	一端に敲打痕を残す。一側面の一部に鉄分が少し付着している。	
S386 143	こも編石	12.5・7.2 5.0	粗粒安山岩 647.4	カマド左袖脇 床面直上	一端及び表面の一部に敲打痕を残す。	
S389 143	こも編石	12.7・7.0 3.7	粗粒安山岩 535.5	南東 床面上1.5cm	両端に敲打痕を残す。表面と裏面と一側面の一部に磨り痕が認めら れる。	
S390 143	こも編石	17.5・7.7 5.0	石英閃緑岩 946.3	南東 床面上4cm	一端と一面に敲打痕を残す。一部に被熱によると思われる剥がれが 認められる。	
S388 143	こも編石	15.0・7.5 4.4	溶結凝灰岩 491.8	北東 床面下3.5cm	両端に敲打痕を顕著に残す。一側面及び裏面を磨り面として利用し ている。	

43号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図210

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
970	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.2cm)	埋没土中	①細砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/8	体部外面横方向篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
971	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/8	体部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	

44号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図211

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
973	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.2cm)	埋没土中	①白色鉱物細粒を含むが、精選された胎土である。②硬質。 ③褐灰7.5YR5/1	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。	
974	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.4cm)	埋没土中	①赤色鉱物細粒・微細砂を含む。②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面篋削り。口縁部内外面などで調整。	内黒。
972 144	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (17.2cm)	埋没土中	①黒色鉱物細粒・小礫を含む。②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面回転などで調整。	

45号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図213

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
976	須恵器 杯	口縁部破片 口 (14.0cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②軟質。③灰N5/	内外面回転などで。	
977	須恵器 椀	口縁部破片 口 (13.9cm)	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③灰黄褐10YR6/2	内外面などで調整。	
975	須恵器 高台付椀	底部残存 高台部欠損	埋没土中	①微細砂・白色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③明黄褐10YR7/6	やや大形の椀である。右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。	

45号住居出土遺物観察表《金属器》 図213

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備考
M15 144	金属器 不明	長 18.0cm 重 31.68g	西壁際 床面上4cm	幅1.0cm、厚1.0cm。錆化が進んでいる。	断面=丸い

46号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図213

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
979	灰釉陶器 高台付椀	高台部残存 底 6.7cm	北西 床面上2.5cm	①極少量の小礫と白色鉱物細粒を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転篋削り。削り出し高台。	
978	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (20.8cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	内外面回転などで調整。	

47号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図214

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
983 144	灰釉陶器 椀	口縁部1/4残存 口 (15.2cm)	南西 床面上3.3cm	①黒色鉱物細粒を多く含む。②硬質。 ③灰白5Y7/2	内外面回転などで調整。内外面に施釉。	

47号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図214

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
986	灰釉陶器 皿	口縁部～底部 破片 口 (18.4cm)	埋没土中	①シルト質の精選された胎土である。 ②硬質。③灰白10Y8/1	内外面回転などで調整。内外面に施釉。	
982 144	須恵器 杯	口縁部～底部 3/5残存 口 12.0cm 底 5.0cm 高 4.3cm	南西 床面上8.8cm	①砂粒・小礫を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁端部は丸く、大きく肥厚し、外反する。	
980 144	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.6cm) 底 6.4cm 高 4.6cm	カマド前(床面上2.0cm)と北東壁際(床面上3.3cm)が接合	①砂粒と少量の黒色鉱物細粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転などで調整。	
988	須恵器 高台付椀	高台部破片 底 (13.6cm)	埋没土中	①細砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	内外面回転などで調整。いわゆる「足高高台」。	
985 144	灰釉陶器 長頸壺	体部～底部 1/4残存 底 (9.7cm)	北東壁際 床面上2.2cm	①黒色鉱物細粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰白10Y8/1	粘土紐づくり。右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転などで。体部下位回転斲削り。体部上位外面に施釉。内面に自然釉。	
959 144	土師器 甕	体部下位～底部 破片 底 (6.8cm)	貯蔵穴内 底面上14.5cm	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	体部外面斜方向斲削り。底部外面斲削り。内面横方向などで調整。	
984 144	土師器 甕	底部1/4残存 底 (5.8cm)	北東 床面直上	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。③灰白5Y8/1	体部下位外面斜方向斲削り。内面横方向指などで。底部外面斲削り。	
987 144	土師器 甕	体部下位～底部 3/4残存 底 (5.5cm)	南西 床面上3.7cm	①細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	体部下位縦方向斲削り。内面横方向指などで。底部外面斲削り。	
981 144	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (20.5cm)	カマド右前 床面上6.5cm	①微細砂・白色鉱物細粒を含む。②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	内外面回転などで調整。	

48号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図216

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
991	須恵器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (12.8cm) 底 (5.0cm) 高 4.8cm	埋没土中	①砂粒・細砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転などで。口縁部内外面横などで。	
989 144	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (16.0cm)	掘り方 中央 底面直上	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰5YR7/1	内外面回転などで調整。	
990 144	須恵器 羽釜	口縁部～体部中 位1/4残存 口 (21.0cm)	掘り方 北東 底面上4.0cm	①微細砂・黒色鉱物粒を含む。②やや軟質。 ③明褐灰5YR7/2	口縁部から体部回転などで調整。体部外面下半縦方向などで調整。	
992 144	瓦 女瓦	厚 2.2cm	埋没土中	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白5Y7/1	側部に布目の圧痕があり一枚作。表面に粘土板糸切痕あり。裏面に絡縄文あり。側部は撫でられ丸い。	秋間。

48号住居出土遺物観察表《石器》 図216

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S466 144	台石	18.4・16.9 11.3	粗粒安山岩 3940.0	南東 床面直上	一部に鉄分?が付着している。	

49号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図217

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
994	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.2cm)	北東隅 床面上9.0cm	①微細砂を含む。 ②硬質。③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面丁寧な調整。口縁部横などで調整。口縁部内面端部は丸く肥厚する。	

49号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図217

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
993 144	須恵器 蓋	つまみ部～体部 1/2残存	西壁際 床面上2.5cm	①微細砂・白色鉾物粒 を多く含む。 ②やや硬質。③灰N6/	右回転ロクロ整形。外面回転篋削り。内面回転で調整。	
995	須恵器 蓋	口縁端部破片 口 (13.9cm)	埋没土中	①細砂・白色鉾物細粒 を含む。②やや軟質。 ③灰7.5Y5/1	内外面などで調整。端部内面にはカエリがある。	外面に自然釉。

49号住居出土遺物観察表《金属器》 図217

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備考
M16 144	金属器 鞘尻金具	重 4.9g	埋没土中	緑錆が全体にみられる。2.7cm×1.6cmの楕円形であり、板状の下面に2本の断面円形の蟹目釘が付く。	

50号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図222

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1002	灰釉陶器 皿	口縁部破片 口 (14.8cm)	埋没土中	①シルト質の精選された胎土である。 ②硬質。③灰白5Y7/2	内外面丁寧なで調整。内外面に施釉。	
997 144	須恵器 椀	口縁部～底部 1/6残存 口 (12.8cm) 底 (6.4cm) 高 5.2cm	南西 床面上2.0cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転で調整。口縁部内外面横なで。	
998 144	須恵器 高台付椀	口縁部一部欠損 口 12.5cm 底 6.3cm 高 4.7cm	南西 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面などで調整。	
1000 145	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 残存 底 6.3cm	北西 床面上4.0cm	①微細砂・黒色鉾物細粒を含む。②軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	ロクロ整形。底部切り離し技法不明。内外面などで調整。	
1004 144	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 残存 底 5.1cm	北東 床面直上	①細砂・小礫を少量含む。②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面回転で調整。	
1001	灰釉陶器 長頸壺	底部1/4残存 底 (8.0cm)	埋没土中	①細砂を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。③灰白10Y7/1	内外面回転で調整。	内面に自然釉。
996 144	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (22.0cm)	カマド右脇袖 床面上11.1cm	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③灰白7.5Y7/2	内外面回転で調整。	
999 145	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 (27.4cm)	カマド内 埋没土中	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	粘土紐づくり。内外面とも調整。	
1003 145	瓦 女瓦	厚 1.7cm	埋没土中	①白色粒子含 ②並質 ③にぶい橙7/4	一枚作か桶巻作か寄木痕は不明瞭。表面の布目はやや粗い。裏面は撫による素文。側部面取回数は1回。	吉井・藤岡。

51号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図225

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1008	灰釉陶器 椀	口縁部破片 口 (15.0cm)	北東 床面直上	①細砂を少量含むが、シルト質の精選された胎土である。②硬質。 ③灰白5Y8/1	内外面回転で調整。	
1005 145	須恵器 杯	体部下位～底部 破片 底 (5.9cm)	カマド左前 床面上2.5cm	①微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面回転で調整。	

51号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図225

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1009 145	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 1/4残存 高台部欠損 口 (12.8cm)	貯蔵穴内	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y8/1	右回転クロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内 外面回転など。口縁部横などで調整。	
1006 145	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.8cm)	貯蔵穴内 底面上4.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/3	内外面回転などで調整。	
1007 145	瓦 男瓦	厚 1.7cm	南西部 床面上1.5cm	①黒色粒子含 ②焼締 ③明オリープ灰 2.5GY7/1	表面に回転撫痕があるために半截作。裏面の布痕はや や粗い。側部面取回数3回。	秋間。

51号住居出土遺物観察表《石器》 図225

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S392 145	砥石?	18.7・11.6 9.0	未固結凝灰岩 1778.0	貯蔵穴内	表面及び一側面に線状痕が認められる。	
S393 145	砥石	11.4・9.3 8.3	粗粒安山岩 1114.6	貯蔵穴内	一端は顕著、表裏両面は不明瞭な敲打痕を残す。	

52号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図227

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1010 145	土師器 杯	ほぼ完形 口 (11.5cm) 高 3.5cm	カマド右脇袖 床面上8.0cm	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。②やや硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面 横などで調整。	
1011	土師器 杯	口縁部～体部上 位破片 口 (13.2cm)	南壁際 床面直上	①微細砂を含むが、精 選された胎土である。 ②硬質。③橙7.5YR6/6	体部外面横方向篋削り。内面横方向丁寧な篋などで。口 縁部横などで調整。	
1014 145	須恵器 蓋	天井部～口縁部 1/2残存 口 (12.8cm)	埋没土中	①細砂・砂粒を多量に 含む。②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	天井部手持ち篋削り。内面及び口縁端部内外面などで調 整。	
1012 145	土師器 甕	完形 口 20.3cm 底 4.4cm 高 25.5cm	カマド右袖 芯倒立	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部外面縦方向篋削り。(上半は下→上, 下半は上→ 下の) 底部外面篋削り。内面横方向篋などで。口縁部内 外面横などで。	
1013 145	土師器 甕	口縁部～体部下 位残存 口 21.8cm	カマド左袖 芯倒立	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/3	体部外面縦方向篋削り。内面横方向篋などで。口縁部横 などで調整。	

52号住居出土遺物観察表《石器》 図227

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S467 145	こも編石	9.5・6.3 3.5	粗粒安山岩 269.4	北東 床面上20cm	4本の線状痕が認められる。	
S468 145	台石	19.5・12.2 5.2	粗粒安山岩 1496.8	カマド前 床面上15.5cm	全面に煤が付着している。周縁からの剝離面が3つ認められる。	
S394 146	袖石	18.2・12.5 13.0	粗粒安山岩 1556.6	カマド右袖	擦り面が3面認められ、その内の2面は焼けて黄色味をおびている	

52号住居出土遺物観察表《金属器》 図227

番号 PL	器種	大きさ 重量 (g)	出土位置	特 徴	備考
M42 145	金属器 金環	径 1.8cm 重 4.31g	埋没土中	完形。幅0.6cm、厚0.4cm。挾状部は0.2cm幅である。表面は一部金色部分がはがれ ている。	

53号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図230

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1019	土師器 杯	口縁部破片 口 (10.6cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面篋削り。内面指押さえ。口縁部内外面横なで。	
1015	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 残存 底 6.1cm	南東 床面上9.5cm	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部指なで。内面回転なで調整。	
1016	土師器 小形甕	口縁部破片 口 (12.6cm)	南東 床面上7.5cm	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部から体部内外面回転なで調整。体部外面下半には斜方向篋削り。	
1018	須恵器 壺	口縁部破片 口 (12.8cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細粒を多く含む。 ②やや軟質。③灰白N7/	内外面とも回転なで。口縁端部は、上方へつまみ上げられたように薄くなっており、外面には稜をもつ。	
1017	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (22.4cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR7/1	内外面回転なで調整。	
1020	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (16.2cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②酸化焰。 ③淡赤橙2.5YR7/3	内外面回転なで調整。	

53号住居出土遺物観察表《石器》 図231

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S391	軽石 砥石	5.9・5.1 4.0	二ツ岳軽石 73.9	埋没土中	二面を研ぎ面としている。	
S395 146	砥石	11.7・6.3 6.5	砥沢石 320.4	埋没土中	四面を研ぎ面としているが、被熱のためかひび割れや剥落が認められる。	

60号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図234

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1034	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.5cm)	南周溝内 底面上4.5cm	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部外面指なで調整。底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。	内面に一部煤が付着。

61号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図235

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1036	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.2cm)	北西隅 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。	
1037 146	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 12.0cm 高 3.6cm	北西隅 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部外面篋削り。体部外面雑なで調整。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで調整。	
1038 146	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (12.2cm) 高 4.5cm	南東 床面上3.0cm	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。	

62号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図238

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1039 146	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.9cm) 高 3.0cm	カマド内 灰面上3.0cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙10YR6/3	底部外面篋削り。体部外面なで調整。内面丁寧なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。	

62号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図238

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1040 146	土師器 盤	口縁部～底部 破片 口 (13.6cm) 高 3.0cm	カマド内 灰面上17.0cm	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にふい橙5YR6/4	底部外面篋削り。体部外面指などで。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	

65号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図240

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1053 146	土師器 杯	口縁部1/4欠損 口 (10.2cm) 高 (2.9cm)	南東 床面上6.5cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面横などで。	
1056 146	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 高 (3.1cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面横などで。	
1054	土師器 甕	体部下位～底部 1/2残存 底 4.2cm	南東 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③黒褐5YR3/1	体部縦方向・斜方向篋削り。底部外面篋削り。内面斜方向篋削りなどで。	
1055	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 高 2.8cm	北西 61号溝内	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明赤褐5YR5/6	底部外面篋削り。内面篋削りなどで。口縁部内外面横などで。	

67号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図241

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1060 146	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.6cm) 高 (4.0cm)	南東 床面上7.0cm	①細砂・黒色鈹物細粒を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部横方向篋削り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面横などで。	

78号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図245

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1110 146	灰袖陶器 杯	口縁部破片 口 (14.1cm)	貯蔵穴内 底面上20.5cm	①微細砂をやや含むシルト質の胎土。 ②硬質。 ③灰白10Y8/1	内外面回転によるなどで調整。	口縁部にはどぶづけによる施軸。
1112 146	須恵器 小形瓶	口縁部欠損 底 5.3cm	カマド右袖脇 床面上7.2cm	①細砂を含む。黒色鈹物粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰2.5Y7/1	粘土紐づくり。左回転ロクロ整形。	
1113 146	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.8cm)	貯蔵穴内 底面上8.5cm	①小礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR7/1	粘土紐づくり。口縁部内外面などで調整。	
1109 146	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (9.3cm) 底 4.3cm 高 3.5cm	貯蔵穴内 底面上20.5cm	①礫・細砂を含む。 ②酸化焰焼成。やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面などで調整。	
1111	土師器 高台付碗	高台～底部1/2 残存 底 (7.0cm)	貯蔵穴内 底面上30.5cm	①細砂を多く含む。 ②軟質。 ③淡黄2.5YR8/3	右回転ロクロ整形。付高台。高台接合部がよくなでられているので底部切り離し技法不明。	
1108 146	須恵器 杯	完形 口 10.7cm 底 5.8cm 高 3.0cm	埋没土中	①礫と細砂を含む。 ②酸化焰焼成。硬質。 ③橙5YR6/6	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部内外面などで調整。	

78号住居出土遺物観察表《石器》 図245

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S435 146	敲石?	8.9・8.5 5.1	粗粒安山岩 533.9	南東 床面上3.7cm	一端に敲打痕を残す。表裏両面のほぼ全面に煤が付着。周縁の一部に鉄分が付着。	
S434 146	敲石?	11.7・10.2 6.0	粗粒安山岩 1033.4	南東 床面上4.8cm	周縁に敲打痕と敲打による剥離面、それに磨り面が認められる。	

79号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図247

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1114 146	須恵器 高台付碗	口縁部～体部最 下位1/4残存 口 (12.8cm) 底 (6.0cm) 高 (3.6cm)	カマド内 灰面上1.8cm	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③明褐色7.5YR7/1	ロクロ整形。内外面回転で調整。	
1116 147	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (21.7cm)	カマド内 灰面上1.8cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	粘土紐づくり。内外面で調整。	
1118 147	須恵器 羽釜	口縁部～体部中 位破片 口 (19.8cm)	カマド内 使用面直上	①礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5YR6/1	粘土紐づくり。体部内外面で調整。体部外面下半縦方向斡削り。口縁部内外面横まで。	
1115 147	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (18.2cm)	カマド内 灰面上9.5cm	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	粘土紐づくり。体部内外面で調整。	
1117 147	須恵器 羽釜	口縁部～体部上 位破片 口 (20.0cm)	カマド内 灰面上7cm	①礫・粗砂・細砂を含 む。②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	粘土紐づくり。内外面で調整。	

80号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図249

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1119	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.3cm)	カマド埋没土 中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	体部外面指などで。内面丁寧なで調整。口縁部内面横 などで。口縁部内面端部は小さく丸く肥厚する。	
1120 146	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.4cm) 底 (7.0cm) 高 3.2cm	カマド埋没土 中	①粗砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。体部内外面 回転で調整。口縁部内外面横まで。	
1121	須恵器 甕	体部破片	カマド内 灰面上13.5cm	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	薄く仕上げられている。外面平行叩き痕。内面同心円 状あて具痕をなでている。	
1122	埴輪 円筒埴輪	体部破片	カマド埋没土 中	①小礫・粗砂を多量に 含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向の荒い刷毛目整形。	

86号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図251

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1131	埴輪 円筒埴輪	体部破片	中央 床面直上	①小礫・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	外面縦方向・斜方向刷毛目整形。内面縦方向刷毛目整 形の後、指などで。	
1133 147	土師器 甕	口縁部～底部 1/2残存 口 (21.4cm) 底 (5.6cm) 高 35.6cm	南東 床面直上	①砂・粗砂を多量に 含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	体部外面縦方向斡削り。内面斜方向斡などで。口縁部内 外面横まで調整。	

86号住居出土遺物観察表《石器》 図251

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S439 147	こも編石	9.9・3.9 1.4	黒色片岩 95.2	埋没土中	一端を欠損している。	
S438 147	こも編石	11.5・5.7 5.7	粗粒安山岩 352.6	南東部	明瞭な痕跡は認められない。	
S436 147	こも編石	13.4・4.5 8.3	緑色片岩 391.0	中央部	明瞭な痕跡は認められない。	
S444 147	こも編石	9.9・4.4 4.5	石英閃緑岩 261.7	埋没土中	一端の一部を欠損している。両端に敲打痕を顕著に残す。2面に磨り痕が認められる。	
S443 147	こも編石	13.3・5.7 3.6	粗粒安山岩 388.5	中央部	明瞭な痕跡は認められない。	
S442 147	こも編石	10.0・6.1 3.7	粗粒安山岩 318.7	埋没土中	裏面を磨り面として利用している。	
S445 147	こも編石	11.9・4.5 3.5	変質安山岩 331.6	埋没土中	一部を欠損している。2面に磨り痕が認められる。	
S441 147	こも編石	7.0・6.5 3.6	変質安山岩 328.3	埋没土中	両端を欠損している。	
S440 147	こも編石	14.3・7.0 3.8	石英閃緑岩 490.1	埋没土中	表裏両面及び一側縁を磨り面として利用している。	
S437 147	こも編石	15.3・6.8 4.0	変質安山岩 579.6	埋没土中	ほぼ中央から二つに割れており、敲石として利用された可能性もある。	

81号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図253

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1127 147	須恵器 甕	口縁部～体部 1/3残存 口 (18.6cm)	南東 床面直上	①細砂を多量に含む。 黒色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③灰7.5YR6/1	体部上半外面横方向カキ目整形。下半には平行叩き整形。内面にて調整。下半には同心円状のあて具痕が残る。	
1125 147	埴輪 円筒埴輪	体部～底部 3/4残存 底 (12.1cm)	南東 床面直上	①細砂・粗砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面縦方向刷毛目整形。内面指にて整形。上半は半は丁寧になでられている。	
1126 147	埴輪 円筒埴輪	口縁部～体部上 位残存 口 21.0cm	北東 床面直上	①礫・粗砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	粘土紐づくり。外面縦方向刷毛目整形。内面縦方向篋などで。口縁部内面端部は巾広い凹線が施されている。	

82号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図254

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1129 147	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 高 (3.2cm)	北壁際 掘り方 底面上5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰N6	ロクロ整形の後、底部外面手持ち篋削り。口縁部内外面横などで。	
1130 147	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 12.0cm 高 3.5cm	南東 床面上7.3cm	①粗砂・微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面にて調整。口縁部内外面横などで。	

89号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図255

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1138	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.6cm)	埋没土中	①ほとんど夾雑物の少ないシルト質の胎土。 ②硬質。 ③橙5YR7/8	内外面横などで調整。	
1139	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.2cm)	埋没土中	①細砂を少量含むがシルト質の胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	内外面横などで調整。	

116号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図258

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1215 148	須恵器 杯	口縁部～底部 口 (14.3cm) 底 (6.3cm) 高 5.6cm	埋没土中	①細砂・粗砂を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③にぶい黄褐10YR7/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体 部内外面回転で調整。	
1216	須恵器 羽釜	口縁部1/4残存 口 (18.0cm)	埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③橙5YR6/6	粘土紐づくり。内外面回転で調整。	

118号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図260

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1219 148	須恵器 高台付椀	底部破片 底 6.7cm	埋没土中	①粗砂・細砂を含む。 ②軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。付高台。体部下位内外面回転で。	

141号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図264

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1293	須恵器 高台	完形 底 6.8cm 高 1.4cm	南西壁際 床面直上	①小礫・粗砂を少量含 む。②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合後、体部下位と高台部の境を回転糸切りで切り 離したと考えられる。	
1291 148	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (10.5cm) 底 (5.7cm) 高 3.0cm	南東 床面上1.5cm	①粗砂・細砂を含む。 ②酸化焰焼成。軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。内 外面回転で。口縁部回転横で調整。	
1292	須恵器 椀	口縁部破片 口 (14.0cm)	掘り方 埋没土中	①粗砂と多量の細砂を 含む。赤色鉱物細粒が 目立つ。②軟質。 ③灰白5Y8/1	内外面回転で調整。口縁部回転横で調整。	口縁部内外面 端部に煤付着。
1294 148	瓦 女瓦	厚 1.1cm	南東部 床面上9cm	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白5Y8/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭であるが、裏面に回 転撫による擦痕あり。	秋間。

141号住居出土遺物観察表《石器》 図264

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S463 148	敲石	12.0・4.7 2.7	ひん岩 258.9	床下土坑内 +3.4cm	一端に敲打痕を残す。	
S464 148	敲石	11.2・7.0 4.3	粗粒安山岩 471.1	埋没土中	一端を欠損している。一側縁に敲打痕、一側縁に磨り痕が認められる。 一部は新しい剥落。	

142号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図265

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1295 148	土師器 甕	口縁部～体部中 位1/4残存 口 (13.0cm)	南西 床面直上	①小礫・粗砂・細砂を 含む。②やや硬質。 ③橙2.5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面横方向斲削り。口縁部内 外面横で調整。	
1296 148	瓦 女瓦	厚 1.8cm	カマド内 床面上5.5cm	①白色粒子含 ②硬質 ③灰白N7	一枚作か桶巻作か寄木条痕不明瞭。裏面は素文、范型 押印文字「多大」あり。	西毛X。 文字瓦。

144号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図269

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1311	須恵器 甕	体部破片	北東 床面上9.5cm	①細砂を多く含む。黒 色鉱物細粒を含む。 ②硬質。③灰N6	外面平行叩き整形。内面同心円状のあて具痕が残る。	
1310	須恵器 高杯	脚端部破片 底 (12.0cm)	北東 床面上9.5cm	①細砂を少量含む。 ②硬質。③灰白5Y8/1	内外面回転で調整。	

144号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図269

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1309	土師器 甕	口縁部破片 口 (24.2cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③浅黄2.5Y7/3	内外面横などで調整。	

2. 下り柳地区のカマド付設住居

1号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図270

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1358 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (5.7cm)	カマド前 床面直上	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰褐5YR4/2	底部外面篋削り。体部外面横などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1352 148	土師器 杯	口縁部～底部 2/5残存 口 12.2cm 高 3.8cm	南東 床面直上	①微細砂、細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/3	底部外面篋削り。体部外面横方向などで調整。体部内面横方向などで調整。口縁部内外面横などで。口縁端部は丸く肥厚する。	
1354 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.8cm 高 3.8cm	カマド左袖脇 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部外面篋削り。体部外面などで調整。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
1351 148	土師器 杯	口縁部～体部下 位3/4残存 口 12.4cm 高 3.4cm	北東 床面直上	①砂粒・細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部から底部外面篋削り。内面などで調整。一部に指頭圧痕が残る。口縁部内外面横などで調整。口縁端部の一部は丸く肥厚する。	
1356 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (13.4cm) 高 4.1cm	北東 床面上3cm	①微細砂を含む。雲母片が目立つ。 ②やや硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	底部外面篋削り。体部外面などで調整。一部に無調整の部分がある。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面横などで。	
1350 148	須恵器 高台付椀	ほぼ1/2残存 口 (15.8cm) 底 (8.3cm) 高 6.9cm	南西 床面直上	①微細砂を少量含む。黒色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ成整形。付高台。高台接合部内外面などで調整。口縁部内外面横などで。	
1361	土師器 甕	体部下位～底部 残存 底 (4.4cm)	南西隅 床面下10cm	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③黒褐10YR3/1	体部外面縦方向篋削り。底部外面篋削り。内面横方向篋削り。器壁は薄く仕上げられている。	
1359 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (12.0cm) 底 (8.4cm) 高 4.1cm	南東 床面下3cm	①細砂粒・微細砂を含む。②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	底部外面篋削り。体部外面斜方向篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁部は歪んでいる。	
1360 148	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/4残存 口 (11.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	底部外面篋削り。体部外面などで調整。内面横方向などで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁端部は丸く肥厚し、内湾する。	
1357	土師器 杯	口縁部1/4残存 口 (13.0cm)	南東 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面丁寧ななどで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁端部は内湾する。	

2号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図273

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1353 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.4cm) 高 3.7cm	南壁際 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③黒褐7.5YR2/2	底部外面篋削り。体部外面などで調整。内面などで調整。指頭圧痕残る。口縁部内外面横などで調整。	
1355 148	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (13.0cm) 高 3.8cm	南壁際 床面上2cm	①細砂粒を多く含む。 ②やや硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	底部外面篋削り。体部外面横方向篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。	

3. 炉付設住居

2号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図276

番号 PL	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1394 149	土師器 小形器台	ほぼ完形 口 8.0cm 底 10.2cm 高 7.8cm	北西部 床面直上	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR6/8	直線的な杯部に、端部は上方につまみあげられている。脚部には、ほぼ十字の位置に、4つの円孔がつけられている。外面は丁寧な整形。脚部内面は斜方向斲などで。	
1396 149	土師器 高杯	脚部2/3残存 底 10.4cm 高 6.2cm残	中央部 床面直上	①細砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	大きく裾部が広がる。十字方向に円孔が4つつけられさらに上の段に、45°ずれた位置に円孔が4つつけられていると推定される。	
1395 149	土師器 鉢	ほぼ完形 口 (23.6cm) 底 5.1cm 高 11.9cm	北東部 床面直上	①砂粒・細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい褐7.5YR5/3	大きく上方に開く、大形の鉢である。体部外面下半に縦方向斲けずり、上半部横斜斲けずり。内面横斲などで。口縁部横などで。	
1397	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (7.5cm) 高 4.0cm残	東壁際 床面直上	①砂粒を多く含む。雲母を少量含んでいる。 ②やや硬質。 ③褐灰10YR4/1	外面縦方向に刷毛目(4本/1cm)。内面などで。口縁部内外面横などで。	
1399	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (15.2cm) 高 3.1cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 雲母は含まない。 ②硬質。 ③灰白2.5YR8/2	外面縦方向刷毛目(5本/1cm)。口縁部内外面横などで。	
1398	土師器 甕	上半と下半2片より復元 口 (14.0cm) 底 (7.0cm) 高 16.3cm	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	薄く整えられた口縁部はやや内湾する。外面頸部縦方向斲などで、体部斜方向斲けずり。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	

2号住居出土遺物観察表《石器》 図276

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S475 149	砥石	14.7・4.5 5.3	頁岩 410	北東部 床面直上	四面を研ぎ面としている。	

19号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図277

番号 PL	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1429 149	土師器 壺	完形 口 18.2cm 底 8.7cm 高 31.8cm	北西部 床面直上	①細砂・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部が開く、有段口縁下端部に巾2cm前後の折り返し口縁が付された球形胴部の壺形土器である。頸部に、櫛歯状工具による刺突文のある突帯がめぐっている。体部縦方向の斲磨き、内面などで調整。	
1417 149	土師器 ミニチュア	口縁部4/5欠損 口 (5.1cm) 底 3.5cm 高 5.9cm	南東部 床面直上	①砂粒・礫を少量含む。 ②やや硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部が大きく開いた壺の手握ね土器である。体部外面は斲などで、内面は指押え、口縁部内外面は指で押えている。	
1415 149	土師器 ミニチュア	口縁部1/5欠損 口 4.2cm 底 2.5cm 高 2.9cm	北東部 床面上 6.5cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	手握ね整形、外面縦方向細い斲磨き。底部外面斲削り。内面上半横方向斲削り。下半指押え。	
1416 149	土師器 高杯	胴部2/3残 高 5.7cm残	南東部 床面上10cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐10YR6/2	やや裾部の開く、高杯形土器の脚部。外面縦方向斲磨き。杯部との接合部は横方向の斲などで調整。脚部内面横方向の斲などで。	
1418 149	土師器 壺	口縁部・体部一部欠損 底 6.6cm 高 21.7cm残	北東部 床面上 1.5cm	①細砂粒を多く含む。 黒雲母片が混じっている。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	やや下膨れの球形胴部を呈する壺。頸部には櫛歯状工具による刺突文のある突帯を付している。体部外面は斜方向の刷毛目整形。体部中位は、その後などで。内面は斜横方向の斲などで、刷毛目(8本/1cm)。	8本1cm。
1419 149	土師器 S字甕	肩部破片	東壁際 床面直上	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白2.5YR8/2	刷毛目(5本/1cm)による横線文を肩部に施されたS字甕の肩部破片。	

20号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図278・279

番号 Pl	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1428 149	弥生土器 甕	底部～体部残 存 底 9.0cm 高 13.2cm	中央部 床面直上	①白色・夾雑鉾物 粒を多量に含む。 ②良好だが後に磨 耗がはげしい。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	底部から胴部にかけて残存し、 外面は縦方向の磨きと、斜方 向の器面調整。内面は斜方向の 器面調整、斜方向の磨き。		
1420 149	弥生土器 甕	2/3残存 口(18.4cm) 高 20.2cm残	中央部 床面上4.5cm	①白色・夾雑鉾物 粒・砂粒を含む。 ②良好だが表面が 後に荒れる。 ③灰7.5Y5/1	底部は欠損し胴部はわずかに丸 みをもち、頸部から口縁部にか けて大きく外反する。口縁部は 折り返してある。内面は下位で 縦・中位から上位で横方向の磨 き。外面口縁部は横なで。	頸部から胴部にかけて櫛描に よる波状文を施文。口唇部は 縄文を施文。	
1424 149	弥生土器 壺	上位2/3残存 高 9.6cm残	北西壁際 床面上2.0cm	①白色・夾雑鉾物 粒・砂粒を含む。 ②良好だが内外面 とも荒れている。 ③にぶい橙5YR7/4	胴部は丸みをもち、頸部は大き くくびれ、口縁部に向い外反を はじめる。外面は多方向に器面 調整、内面は横方向の器面調整 が一部にみられるが器面荒れが 生じている。		
1423 149	弥生土器 壺	頸部残存 高 15.0cm残	北西部 床面上2.0cm	①白色鉾物を多量 黒色・夾雑鉾物粒 を少量含む。 ②やや緩い。 ③灰黄2.5Y7/2	胴部から頸部へ移行する破片で ある。頸部下位から胴部にか けて縦方向の磨き。	胴部には3本の平行沈線文の 間に、2本の波状沈線文が施 文されている。	
1421 149	弥生土器 小形甕	1/2残存 口(16.0cm) 底(6.0cm) 高 16.8cm残	北西部 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉾物 粒・雲母を含む。 ②良好だが後に器 面が荒れたと考え られる。 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部はわずかに丸みをもち、頸 部から口縁部にかけて大きく外 反する。外面口縁部は横なで。 胴部下半部は斜方向の器面調整。 内面は多方向に器面調整がみ られ上半部は刷毛目、中位は指・ 下部は篋状工具によるなで。	頸部は6条単位の櫛描横線文、 胴部は波状文が施文されてい る。	
1422 149	弥生土器 小形甕	3/4残存口縁 部欠損 口(13.9cm) 底 6.9cm 高 14.9cm	北西部 床面上5.5cm	①白色・夾雑鉾物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	外面胴部はわずかに丸みをもち 頸部はややくびれる。口縁部は 大きく外反する。胴部下縦方 向磨き。内面は横方向の器面 調整。	口唇部は縄文が施文。頸部は 6条1単位の右回りの等間隔 止簾状文。胴部は櫛描横線文 が3～4段施文。	
1425 150	弥生土器 甕	口縁部破片	南東部 床面下4.5cm	①白色鉾物粒を少 量含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	口縁部は受け口状を呈す。内面 は横方向の器面調整。	口唇部は縄文。口縁部は櫛描 波状文を施文後波状沈線文を 施文。頸部から胴部にかけて は櫛描波状文を施文。	
1431 150	弥生土器 壺	体部破片	南東部 床面上2.0cm	①白色鉾物粒・雲 母を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR7/3	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向器面調整。	器面には単節LRを施文後横方 向に5条の沈線文がみられる。	
1632 150	弥生土器 甕	口縁部～体部 破片	北西部 床面上14.0cm	①白色鉾物粒を多 量、夾雑鉾物粒を 僅かに含む。 ②良好であるが器 面荒れをおこして いる。 ③明褐灰7.5YR7/1	胴部は大きく張る。頸部はくび れる。口縁部はわずかに外反。 口縁部は内外面とも横なで。内 面胴部は横方向の器面調整。	頸部は5条1単位の等間隔止 簾状文が右回り。胴部上位は 櫛描羽状文。	
1427 150	弥生土器 甕	口縁部破片	中央部 床面上1.5cm	①白色・夾雑鉾物 粒・砂質土を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR7/2	胴部は大きく張る。頸部はくび れる。口縁部はわずかに外反。 内外面とも器面荒れしており、 整形は不明瞭である。	頸部は4条1単位右回りの等 間隔止簾状文。胴部上位は櫛 描羽状文。	
1432 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉾物粒・雲 母・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	口縁部は受け口状を呈す。外面 頸部と内面口縁部は横方向の器 面調整。	口縁部・口唇部は縄文を施文。	

20号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図279

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1426 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐5YR 5/3	口縁部は受け口状を呈す。外面 頸部と内面口縁部は横方向の器 面調整。	口縁部と口唇部は縄文を施文、 口縁部はこれを2本の波状の 沈線文が切って施文。	
1433 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒と雲 母は多量、小石は 少量含まれている。 ②緩い。 ③明褐灰7.5YR7/2	口縁部は大きく外反する。内外 面とも器面荒れしている。	頸部は櫛描波状文、口唇部は 縄文を施文。	
1434 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。外面 は横方向の器面調整。	口唇部は刻み目をもつ。	
1435 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を僅 かに含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は大きく外反する。内外 面とも器面荒れしているが、塗 彩が施された様子がわかる。	口唇部は刻み目をもつ。	
1438 150	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。 ②やや緩い。 ③褐灰5YR4/1	胴部はわずかに丸みもち、内 面は横方向の器面調整。	櫛描1単位4条による垂下文 と櫛描波状文を施文。	
1437 150	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒と雲 母を含む。 ②普通。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部はわずかに丸みもち内面 は横方向の器面調整。	櫛描による垂下文と櫛描波状 文を施文。	
1440 150	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。 ②普通。 ③灰黄褐10YR5/2	内外面とも器面荒れしている。	波状文によるコの字重文を施 文している。	
1439 150	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	胴部はわずかに丸みをもつ。外 面は縦、内面は横方向の器面調 整。	胴部には3個の円形刺突文を もつボタン状貼付文がある。	
1430 150	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・雲 母を含む。 ②普通。 ③明褐灰7.5YR7/2	胴部は丸みをもつ。内面は器面 荒れしている。	沈線文による文様施文後その 周辺を縄文で充填している。	
1436 150	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①夾雑鉱物粒を多 量に含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	頸部はくびれる。内外面とも器 面荒れしている。	木口状工具により横線文間に 鋸歯文を施文。	

20号住居出土遺物観察表《石器》 図279

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S476 149	敲石	9.9・8.7 5.7	粗粒安山岩 755	南西壁際 床面上2cm	表面と一端及び両側縁に敲打痕を残す。	

93号住居出土遺物観察表（弥生土器） 図285

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1445 150	弥生土器 甕	頸部破片	北東部 床面直上	①夾雑鉱物粒を含む砂質土である。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	内外面とも器面荒れがはげしい。	頸部に左回りの8条1単位の簾状文が施文されその下位に鋸歯文を篋描き斜格子目文と塗彩を施文している。	
1441 150	弥生土器 壺	頸部破片	南西部 床面下8.5cm	①白色鉱物粒・石英砂・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	胴部は丸みをもつ。胴部下半は縦方向、最大部は横なで、内面は横方向の器面調整。	胴部上半は縄文。外面に斜格子目文。	
1448 150	弥生土器 壺	口縁部破片	北東部 床面上2.0cm	①白色・夾雑鉱物粒・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③灰白5YR8/1	口縁部は大きく外反する。内外面とも器面荒れしている。	頸部には右回りの簾状文がある。	
1447 150	弥生土器 甕	頸部破片	南東部 床面上3.5cm	①白色鉱物粒を少量と小石を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR7/3	頸部から胴部にかけて外反する。内外面とも器面荒れしている。	櫛描波状文と右回りの簾状文がある。	
1449 150	弥生土器 壺	頸部破片	南西部 床面上4.0cm	①白色鉱物粒と多量の小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙5YR7/4	胴部から頸部へ大きくくびれる。内外面とも器面荒れしているが縦方向の器面調整がわずかに認められる。	頸部付近に横方向棒状工具による横線文がある。	
1443 150	弥生土器 壺	口縁部破片	北西部 床面上5.5cm	①夾雑鉱物粒。 ②良好。 ③灰白10YR8/1	口縁部は受け口状を呈す。内面は横方向の器面調整。	口縁部から頸部にかけて篋描きによる斜行線文による鋸歯文が施文。	
1442 150	弥生土器 甕	頸部～胴部破片	北西部 床面上12.0cm	①白色鉱物粒を多量に含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR6/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。内面は横方向の器面調整。	頸部から胴部にかけては櫛描波状文で充填されている。	
1444 150	弥生土器 甕	胴部破片	北西部 床面上13.0cm	①白色鉱物粒と小石を含む。 ②良好。 ③赤灰2.5YR4/1	外面は縦方向の刷毛目。内面横方向の器面調整。	櫛描波状文と櫛描による羽状文がある。	
1446 150	弥生土器 壺	頸部破片	北西部 床面上13.5cm	①白色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②普通。 ③淡橙5YR8/3	頸部は大きくくびれ口縁部に向かい外反する。頸部から口縁部に向かい斜方向の器面調整が行われ、内面は塗彩が行われている。	頸部には右回りの2連止簾状文が行われた後に下位には櫛描波状文がある。	
1450 150	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③淡橙5YR8/4	頸部から口縁部に向け外反し、口縁部で受け口状に立ち上がる。内外面とも横方向の器面調整が残る。	口縁部は6条1単位の櫛描波状文が施文されている。口唇部は器面荒れしているが、僅かに刻み目が観察される。	
1451 150	弥生土器 甕	体部上半破片	埋没土中	①夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰白7.5YR8/2	内面は器面荒れしている。	櫛描波状文の下位に篋描き斜行線文が施文されている。	
1452 150	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	胴部は丸みをもつ。外面胴部下半部は横方向に篋磨きが行われ光沢がある。内面は横なで。	胴部上半は櫛描波状文を施文し、この上位に右回りの簾状文がある。	
1453 150	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/3	頸部はわずかにくびれる。内面は横方向の器面調整。	頸部は右回りの簾状文の下位に櫛描波状文がある。	

93号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図285

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1454 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②緩い。 ③褐灰5YR5/2	口縁部は大きく外反する。内外 面とも器面荒れしている。	頸部は右回りの1単位6条の 等間隔止簾状文が施文されて いる。	
1455 150	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①夾雑鉱物粒・小 礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。内外 面とも横方向の器面調整。	頸部には右回りの等間隔止簾 状文が施文されている。	

93号住居出土遺物観察表《石器》 図284・285

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S477 150	敲石	16.7・8.1 4.1	石英閃緑岩 1045	P-4内 床面上21cm	一端に敲打痕を残す。	
S487 150	敲石	8.8・9.2 2.8	粗粒安山岩 413	北東 床面上5cm	一端に不明瞭な敲打痕を残す。	
S478 150	敲石	10.1・11.5 4.4	粗粒安山岩 827	北東	一側縁に敲打痕を残す。	
S479 150	凹み石	23.0・16.3 8.6	粗粒安山岩 3205	南西 床面上8.5cm	表面に3つのくぼみ痕が認められる。	
S626 150	磨製石鏃	5.55・1.5 0.3	緑色片岩 2.81	柱穴	先端部は作り出しているが、基部は未調整である。	
S481 150	スクレーパー	3.45・3.9 1.5	黒色頁岩 19.79	床面上1.5cm	横長剥片素材、礫面残存。端縁に僅かに加工痕が認められる。	
S482 151	スクレーパー	3.1・4.45 0.9	変質安山岩 14.47	南東 床面直上	縦長剥片素材、礫面残存、折断。一側縁に加工痕が認められる。	
S480 150	スクレーパー	4.5・4.8 1.15	黒色安山岩 29.13	床面上5cm	不定形剥片素材。端縁に加工痕、一側縁に使用痕を残す。	
S484 150	スクレーパー	4.7・5.3 1.3	黒色安山岩 40.84	炉	不定形剥片素材。端縁から一側縁にかけて加工痕が認められる。	
S483 150	スクレーパー	5.1・5.2 2.15	黒色頁岩 36.98	床面上4cm	不定形剥片素材。礫面残存。両側縁に加工痕が認められる。	
S486 151	打製石斧	3.7・5.75 1.0	細粒安山岩 22.09	埋没土中	一辺の両面に加工痕が認められる。	

94号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図289

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1459	弥生土器 壺	体部破片 高 15.4cm残	南東部 床面上9.0cm	①砂質であり、夾 雑鉱物粒・小石を 含む。 ②普通。 ③にぶい橙5YR7/3	胴部は丸みをもつ。胴部から頸 部にかけて内湾しながら立ち上 がっていく。内外面とも器面荒 れしている。	肩部から頸部にかけては櫛 波状文で充填され、胴部最大 幅付近から肩部にかけては篋 描きによる鋸歯文の中に斜向 沈線文を施文。	
1467 151	弥生土器 高杯	脚部のみ 底 7.1cm 高 5.8cm残	南東部 床面上16.7cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	脚部は杯部との接合部から直線 的に開く。外面縦方向、内面は 横方向の器面調整が行われてい る。杯部内部は篋磨きによる光 沢が残る。		
1461 151	弥生土器 甕	体部破片	12ピット西脇 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰7.5YR6/1	外面は斜方向の器面調整、内面 は器面荒れが生じている。	半円形断面の列点文が配され ている。	1456と同じ 個体。
1463 151	弥生土器 壺	頸部破片	12ピット西脇 床面直上	①雲母・小礫を少 量含む細かな粘土。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	頸部付近はくびれる。外面は斜 方向の器面調整により刷毛目が 残る。内面は横方向の器面調整。	地文に縄文を施文後、板状工 具による沈線文を横方向に施 文。	

94号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図289

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1466 151	弥生土器 壺	体部破片	南東部 床面上2.5cm	①白色鉾物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向の器面調整され光沢をもつ。	羽状文が施文されている。	
1458 151	弥生土器 甕	体部破片	南東部 床面上8.0cm	①少量の白色鉾物 粒と小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/3	胴部は丸みをもつ。外面は器面 荒れしており、内面は横方向の 器面調整で光沢をもつ。	櫛波状文を充填後縦方向に 波状沈線文を施文する。	
1456 151	弥生土器 甕	体部破片	11ピット南東 部 床面上2.0cm	①白色・夾雑鉾物 粒・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR6/1	胴部から頸部にかけて外反する。 外面は斜方向の器面調整。内面 は器面荒れしている。	2本の平行沈線文と、斜向線 文に半円形断面の列点文が配 される。	1464と同 じ可能性 がある。
1462 151	弥生土器 甕	体部破片	13ピット南東 部 床面上8.5cm	①白色鉾物粒・雲 母を含む。 ②普通。 ③黒10YR2/1	わずかに外反する。外面は斜方 向の器面調整、内面は器面荒れ している。	棒状工具による沈線文が施文 されている。	
1457 151	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色鉾物粒・石 英砂と白色岩片を 含む。 ②普通。 ③灰白5Y8/2	胴部から頸部にかけての破片で あり、内外面とも器面荒れが見 られる。内面は横方向に櫛状工 具により横方向の器面調整。	胴部上位にボタン状貼付文が あり、横方向に沈線文が入る。 頸部付近は棒状工具による横 線文が櫛波横線文の下位に入 る。	
1464 151	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉾物 粒・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5YR8/1	胴部から頸部にかけて外反する。 外面は横方向の器面調整、内面 は器面荒れしている。	2本の平行沈線文と斜向線文 の文様を配す。	1456と同 じ可能性 がある。
1465 151	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉾物 粒・石英砂を含む ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部上半の破片と考えられる。 内外面とも器面荒れしている。	4本の平行沈線文があり、そ の下位に縄文がある。	

94号住居出土遺物観察表《石器》 図289

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S625 151	管玉	1.1・0.3 0.3	珪質頁岩 0.11	東周溝内 底面直上	一端を欠損している。六角形を呈する。穿孔は一方からと考えられる。	
S492 151	スクレーパー	5.95・4.0 1.9	黒色頁岩 32.90	床面上5cm	横長剥片素材、礫面残存。	
S491 151	スクレーパー	3.2・3.9 0.7	黒色頁岩 12.51	床面上6.5cm	不定形剥片素材。両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S488 151	凹み石	14.2・10.6 7.1	粗粒安山岩 880	北東	表面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	

99号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図294

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1474	弥生土器 甕	口縁部1/5残 存 口 (24.5cm) 高 8.0cm残	北西部 床面直上	①少量の白色・夾 雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は折り返しである。頸部 はくびれる。器形は大きく外反 する。口唇部は押捺状を呈す。 内外面とも器面荒れが認められ る。	頸部から胴部にかけて櫛状工 具による羽状文がある。	
1477	弥生土器 甕	底部1/4残存 底 (7.4cm) 高 1.8cm	1土坑西脇 床面直上	①白色・夾雑鉾物 粒・小礫を少量含 む。 ②普通。 ③灰黄褐10YR6/2	底部の破片である。孔は内外面 から穿ってある。内外面とも器 面荒れしている。		

99号住居出土遺物観察表（弥生土器） 図294

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1473 151	弥生土器 甕	体部下位～底 部残存 底 6.8cm 高 7.0cm残	2土坑内 底面上5.0cm	①白色鉍物粒・石 英砂・小石を含む ②良好。 ③灰白5YR8/1	底部から胴部の最大幅に向かい 立ち上がる。外面は縦方向の鈍 磨き、内面は多方向に器面調整。		
1484	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (22.4cm) 高 4.3cm残	南西部 床面上7.0cm	①砂粒を多量、白 色鉍物粒を少量含 む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	口縁部は受け口状を呈す。口縁 部内面には折り返し口縁の状況 をみることができる。口縁部外 面には横なでがわずかに残る。 内外面とも器面荒れている。		
1468 151	弥生土器 甕	口縁部～体部 口 19.5cm 高 17.9cm	南西部 床面上9.0cm	①白色・夾雑鉍物 粒を多量に含む。 ②普通。 ③黄褐2.5Y5/3	胴部はわずかに丸みをもち、器 形は大きく外反する。口縁部は 横なで。胴部内面上位は木口状 工具により横なで。胴部内面中 位は斜方向の器面調整。押捺に よる口唇部である。	胴部は櫛状工具による羽状文 である。	内面に炭素 付着が見ら れる。
1472	弥生土器 甕	口縁部1/4残 存 口 (18.2cm) 高 6.3cm残	南西部 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉍物 粒・白色岩片を含 む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	頸部はわずかに丸みをもち、く びれる。口縁部は外反する。口 唇部は押捺による波状口縁であ る。内面は横なでや多方向に器 面調整が行われている。	頸部から胴部にかけては4条 1単位の櫛状工具により羽状 文を施文している。	
1470 151	弥生土器 甕	体部下位～底 部1/2残存 口直径0.8cm 底 7.2cm 高 13.5cm	南西部 床面上11.0cm	①夾雑鉍物粒を多 量に含み、白色鉍 物粒・小礫を少量 含む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR5/1	胴部は丸みをもつ。内外面とも 器面荒れ。整形は不明瞭で一部 の調整痕が観察できるのみであ る。底部中央からわずかにはず れて円形の穴を1個穿つ。		
1469 151	弥生土器 甕	口縁部～体部 2/3残存 口 (14.5cm) 高 8.0cm	南西部 床面上21.0cm	①砂質土であり白 色・夾雑鉍物粒を 含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部はわずかに丸みをもち頸部 に至り、口縁部は大きく外反し 受け口状を呈す。口縁部は内外 面とも横なで。外面胴部は刷毛 目調整。内面は斜方向の器面調 整である。		
1471 151	弥生土器 深鉢	口縁部～底部 1/2残存 口 (22.4cm) 底 8.5cm 高 14.7cm	1土坑 床面上23.0cm	①白色・夾雑鉍物 粒・小礫を含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	底部から口縁部に向けほぼ直線 的に立ち上がる。口縁部は約 2cmの幅で器肉が厚い。内外面 とも器面荒れが認められ整形痕 はわずかに認められる。外面は 縦方向の鈍磨き、内面は斜方向 の器面調整。		
1476 151	弥生土器 壺	体部破片	北西部 床面直上	①白色・夾雑鉍物 粒を含む。 ②普通。 ③灰白10YR8/1	胴部は丸みをもつ。内外面とも 器面荒れしているが内面は横方 向の器面調整がみられる。	胴部には斜向沈線文が縄文を 施文後、沈線文により周囲を とりかこむ。	
1479 151	弥生土器 甕	体部破片	1土坑内 床面直上	①白色・夾雑鉍物 粒を少量含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	頸部はわずかにくびれる。内面 は横方向に鈍磨き。	櫛状工具による垂下文と櫛描 波状文が施文されている。	
1475 151	弥生土器 壺	頸部破片	北東部 床面上2.0cm	①白色鉍物粒を含 む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	外面頸部は縦方向の鈍磨きが細 かく行われている。内面は横方 向の器面調整。	頸部は平行沈線文。	
1478 151	弥生土器 甕	口縁部破片	北西部 床面上4.0cm	①白色・黒色鉍物 粒を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	口縁部は受け口状を呈す。内面 は横方向の器面調整。	口唇部から口縁部にかけては 縄文を施文。頸部付近に太目 の櫛描波状文の一部がみられ る。	

99号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図294

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1480 151	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	内面は器面荒れしている。	5条1単位の櫛状工具による波状文と横線文を施文。	
1481 151	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	口縁部は外反する。内外面とも器面荒れしているが横なで痕が残る。	口唇部は刻み目があり頸部は文様構成不明の数条の沈線文がある。	
1482 151	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①白色鉱物粒と砂粒を多量に含む。 ②良好。 ③黒7.5YR2/1	頸部はやや外反する。	地に縄文を施文後棒状工具による平行沈線文と波状文を施文している。	
1483 151	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①黒色鉱物粒。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙10YR7/2	頸部はくびれる。内面は横方向の器面調整。	棒状工具による横方向の沈線文間に一つ置きに縄文を充填している。	

99号住居出土遺物観察表《石器》 図294・295

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S500 152	スクレーパー	5.15・4.4 1.0	珪質頁岩 20.89	南西部 床面直上	縦長剥片素材、礫面打面。両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S502 152	スクレーパー	4.2・6.45 1.3	黒色頁岩 42.24	西周溝脇 床面直上	縦長剥片素材、礫面残存。一側縁に加工痕が認められる。	
S503 152	礫	8.2・3.95 9.5	緑色片岩 59.51	西壁際	表面の半分を磨り面として利用している。	
S501 151	スクレーパー	3.5・3.15 1.2	黒色頁岩 11.56	北東部 床面上2cm	不定形剥片素材、折断。両側縁に加工痕が認められる。	
S504 152	スクレーパー	5.1・6.7 1.7	黒色頁岩 60.83	床面上5cm	不定形剥片素材、礫面残存。表裏両面の周縁に加工痕が認められる。	
S499 152	スクレーパー	4.55・4.3 0.9	黒色頁岩 15.22	南周溝内 床面上7cm	縦長剥片素材、礫面打面。表裏両面の両側縁に加工痕・使用痕を残す。	
S505 152	スクレーパー	5.0・6.2 2.05	黒色頁岩 52.12	埋没土中	不定形剥片素材。端縁に微細な使用痕を残す。	
S498 152	スクレーパー	5.2・4.7 1.0	黒色頁岩 30.87	北壁際	縦長剥片素材、折断。両側縁に加工痕が認められる。	
S508 152	スクレーパー	4.3・7.5 0.8	黒色頁岩 26.70	埋没土中	横長剥片素材。端縁に微細な使用痕を僅かに残す。	
S507 152	スクレーパー	5.7・9.1 2.4	黒色頁岩 98.27	埋没土中	横長剥片素材、礫面残存。端縁の使用痕を僅かに残す。	
S506 151	スクレーパー	3.05・3.4 1.0	砂岩 11.03	埋没土中	縦長剥片素材、折断。両側縁に加工痕を使用痕を残す。	

99号住居出土遺物観察表《ガラス》

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G89	小薄片	セルリアンブルー(9B4.5/9)	板状		2.0			0.02	表面にはきずがある。

147号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図298

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1488	土師器 甕	底部1/2残存 底 13.3cm 高 2.9cm残	北西隅 床面上3.0cm	①砂粒・小礫を含む。 ②砂質。 ③淡黄2.5Y8/3	底部内面横方向萵なで。体部外面横方向なで、底部外面には、木葉痕がある。	

147号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図298

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1486	土師器 高杯	口縁部破片 口 (18.0cm) 高 3.0cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②砂質。 ③内 灰7.5Y6/1 外 におい橙7.5YR7/4	杯部内面直線文2条をめぐらし、その上・中・下に櫛 歯状工具で山形文を施している。	
1489	土師器 小形丸底 土器	口縁部破片 口 (10.0cm) 高 4.8cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや砂質。 ③橙5YR6/6	体部外面鈍けずり。体部内面横方向鈍磨き。口縁部内 外面横などで調整。	
1490	土師器 壺	口縁部破片 口 16.0cm 高 4.6cm残	埋没土中	①細砂・小礫を多く含 む。 ②やや硬質。 ③におい橙5YR6/4	口縁部が巾広に肥厚し内湾している。外面刷毛目整形 の後、などで調整。内面刷毛目整形の後などで調整。	

147号住居出土遺物観察表《石器》 図298

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S511 152	敲石	13.9・5.3 3.6	変質玄武岩 435	北西部 床面直上	一端に敲打痕を残す。	
S512 152	敲石	13.15・6.1 4.4	粗粒安山岩 543	埋没土中	一端に敲打による一枚の剝離痕を残す。	
S510 152	スクレーパー	1.65・3.0 0.6	珪質頁岩 3.81	埋没土中	縦長剥片素材、折断。一側縁に加工痕が認められる。	

148号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図299

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1485 152	土師器 台付甕	完形 口 7.4cm 底 5.0cm 高 10.8cm	北壁際 床面直上	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰白10YR7/1	S字甕を模倣した小形の台付甕。整形技法や口縁部の 整形は雑であるが、S字甕の規制を守ってつくろうと している。外面は刷毛目(6本/1cm)整形。内面はな で調整。	
1487	土師器 高杯	口縁部破片 口 (10.7cm) 高 3.1cm残	北西部 床面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③におい橙7.5YR7/3	文様をもつ、東海西部系の高杯の破片である。杯部外 面刷毛目(7本/1cm)整形の後、丁寧なで調整。内 面などで調整の後、文様を施している。2条ずつ平行沈 線文の間を櫛歯状工具で山形文で埋めている。	
1492 152	土師器 S字甕	口縁部～頸部 1/3残存 口 (14.0cm) 高 6.3cm残	焼土②東 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰褐5YR5/2	外面縦方向刷毛目(7本/1cm)。肩部には横刷毛。1 回の施文で全周せず途切れている。口縁部は丸く外 反する。	
1494	土師器 高杯	口縁部破片 口 (23.5cm) 高 5.0cm残	中央部 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②やや硬質。 ③におい黄橙10YR7/2	大形の高杯。口縁はゆるく内湾する。内外面横方向鈍 磨き。口唇部横などで調整。	
1496	土師器 S字甕	体部下半破片 高 11.7cm残	南西部 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰褐5YR5/2	外面縦刷毛目(5.5本/1cm)。内面下半横方向鈍磨き。 などで調整。	
1493 152	土師器 器台	ほぼ完形 口 7.3cm 底 12.3cm 高 9.0cm	南西部 床面下6.0cm	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③におい褐7.5YR6/3	小さな杯部にやや長めの裾部の開く脚部を付した小形 器台。脚部中に4つの内孔を穿つ。杯部内外面などで 調整。脚部外面斜方向鈍磨き。縦方向の鈍磨き。 内面横方向の鈍磨き。裾部丁寧なで調整。	
1495	土師器 S字甕	口縁部～肩部 破片 口 (4.7cm) 高 4.0cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③褐灰10YR5/1	肩部外面縦方向刷毛目(6本/1cm)。内面指押え。口 縁部内外面横などで調整。	
1491 152	土師器 壺	口縁部～底部 2/5残存 口 (13.4cm)	西壁際 床面上3.0cm	①微細砂・白色砂粒を 含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	体部外面縦方向の鈍磨き。口縁部外面斜方向鈍磨き。 内面横刷毛目の後などで調整。口縁部内面などで調整。口 唇外面には面取り。	赤色塗彩。

148号住居出土遺物観察表《石器》 図299

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S514 152	敲石	13.1・7.9 3.5	ひん岩 625	貯蔵穴内 床面上6cm	明瞭な敲打痕は認められない。	
S515	磨製石鏃未 製品	2.55・1.4 0.35	珪質準片岩 2.03	埋没土中	分割技法の資料である。	

149号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図303

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1501	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (14.0cm) 高 5.6cm残	南東部 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部外面斜刷毛目(10本/1cm)。内面横匞けずり後、指押え。口縁部内外面横なで。	
1498	土師器 甕	口縁部破片 口 (12.6cm) 高 7.2cm残	南東部 床面上2.0cm	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	口縁部横なで。頸部～体部斜刷毛目(8本/1cm)。体部内面横匞なで。縦匞磨き。口縁内面刷毛目の後、横なで。	
1497 152	土師器 壺	口縁部～底部 1/2弱 口 (6.7cm) 底 (3.6cm) 高 10.1cm残	南東隅 床面上5.0cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	小さな口縁部のついた胴部の丸い小形壺。外面はなでの後、横の匞磨き。下部には匞けずりが残る。内面横匞なで。底部内面に刷毛目。	
1499	土師器 甕	口縁部破片 口 (12.0cm) 高 3.9cm残	埋没土中	①砂粒を少量含む。 ②軟質。 ③黄灰2.5Y5/1	器面の磨耗が激しく、整形の単位ははっきりしない。上へのせるタイプの複合口縁である。	
1648 152	土師器 埴	口縁部～体部一 部欠損 口 10.5cm 高 11.1cm	埋没土中	①砂粒を少量含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/6	広口で口縁部の短い埴。外面、口縁部は縦方向の匞磨き。体部横斜方向匞磨き。内面体部斜匞けずり。口縁部斜横匞磨き。	

149号住居出土遺物観察表《石器》 図305

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S521 153	UF	4.55・1.6 0.7	黒曜石 3.57	埋没土中	縦長剥片素材。礫面残存。一側縁に微細な使用痕を残す。	
S523 153	スクレーパー	2.3・4.2 6.5	珪質頁岩 4.51	埋没土中	不定形剥片素材。端縁に微細な使用痕を僅かに残す。	
S520 153	敲石	11.6・5.9 4.5	ひん岩 510	南東隅 床面直上	明瞭な敲打痕は認められない。	
S517 153	敲石	17.8・9.1 8.6	粗粒安山岩 1845	南西部 床面下13cm	一端及び一側縁に敲打痕を残す。	
S518 153	敲石	10.9・9.25 6.3	粗粒安山岩 785	南西土坑内 床面直上	両端に敲打痕を残す。	

150号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図308

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1503	土師器 壺	口縁部破片 口 (27.6cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③外 浅黄橙10YR8/3 内 黒褐10YR3/1	広口壺の口縁部破片。内外面横なで、口縁部外面端部には面取りがある。	
1504	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (13.0cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面縦方向刷毛目(7本/1cm)。内面指押え。口縁部内外面横なで。頸部には、工具の端部圧痕が残る。	

151号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図309

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1502	土師器 甕	口縁部破片 口 (14.6cm)	埋没土中	①砂粒・細砂を含む。 ②軟質。 ③橙5YR6/6	口縁部外面端部、内外面横なで。	

151号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図309

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1505	土師器 甕	口縁部破片 口 (10.3cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	小形甕の短い口縁部破片。内外面横なで。	

151号住居出土遺物観察表《石器》 図309

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S524 I53	スクレーパー	4.3・6.5 1.4	黒色頁岩 28.37	埋没土中	横長剥片素材。両側縁に使用痕を残す。	
S526 I53	砥石	6.2・5.5 1.43	砂岩 56.01	埋没土中	一面を研ぎ面としており、敲打痕を残す。一端を欠損している。	
S525 I53	敲石	13.4・3.15 2.3	黒色片岩 162	南西部 床面下11cm	両端に敲打痕を残す。	

152号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図312

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1506 I53	弥生土器 甕	頸部破片	中央部 床面直上	①白色鉱物粒・雲 母・小礫を少量含 む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 6/3	口縁部はわずかに受け口状を呈 す。口縁部は横なで痕が残る。	口唇部は縄文が施文されてい る。頸部は棒状工具による横 線文が1条残る。	
1509 I53	弥生土器 甕	体部破片	西南部 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒を少量含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部はわずかに丸みもち頸部 に至る。頸部はやや外反する。 内面には横なで痕がある。	口縁部から胴部にかけて5条 1単位の櫛描波状文が施文さ れている。	
1507 I53	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③明褐色5YR7/2	口縁部は大きく外反する。内外 面とも器面荒れの状態である。	口縁部・頸部には櫛描波状文 がみられる。	
1508 I53	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉱物粒を少 量、夾雑鉱物粒を 含む。 ②良好。 ③明赤褐2.5YR 5/6	内面は横方向の器面調整。	横方向の櫛描横線文と円形刺 突文のついたボタン状貼付文 があり、塗彩されている。	

152号住居出土遺物観察表《石器》 図312

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S527 I53	スクレーパー	3.5・3.7 0.9	黒色頁岩 10.19	埋没土中	不定形剥片素材。両側縁に加工痕が認められる。	

153号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図318

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1517 I54	土師器 小形広口 壺	口縁部～体部 2/3残存 口 (8.7cm) 高 (7.5cm)残	貯蔵穴南際 床面直上	①微細砂を含む。赤色 土粒子が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	やや広口の小型壺。口縁部端部は、小さく外反する。 体部外面、斜縦刷毛目(10本/1cm)。口縁部内面横刷 毛目。口縁部内外面は雑な横なで。	
1519 I53	土師器 S字甕	脚部 底 8.2cm 高 5.8cm残	南東部 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面で調整のあと、斜方向刷毛目(6本/1cm)後す り消し。裾部は横方向で調整。内面指押え。	
1521	土師器 埴	口縁部破片 口 (14.8cm) 高 5.8cm残	南西部 床面直上	①細砂・雲母細片を多 量に含む。赤色土粒子 が目立つ。 ②硬質。 ③灰白10YR8/2	中位にゆるい段をもつ、長い口縁部破片。外面縦方向 刷毛目。内面横なで。口縁部内外面横なで後縦磨 き。	

153号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図318

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1520	土師器 甕	口縁部破片 口 (16.6cm) 高 3.2cm残	床面直上	①微細砂・雲母細片を含む。 ②硬質。 ③褐灰10YR5/1	口縁部外面は横なで後頸部に刷毛目。内面刷毛目後、下半横方向磨き。上半細いなで調整。	
1514 153	土師器 S字甕	脚部2/3残存 底 (9.6cm) 高 6.5cm残	2号炉内 使用面直上	①微細砂・雲母細片を多量に含む。 ②硬質。 ③明褐灰7.5YR7/2	脚部外面横方向なで調整の後、斜方向の刷毛目(9本/1cm)をすり消している。体部内面には横なで。脚部内面指押え。	
1518 154	土師器 S字甕	口縁部～体部中位1/2残存 口 (10.2cm) 高 8.7cm	2号炉内 使用面上 8.0cm	①微細砂・雲母細片を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR8/1	体部のやや丸いS字甕。外面刷毛目。肩部には横方向の刷毛目が雑に回る。内面指押え。口縁部内外面横なで調整。	
1511 153	土師器 S字甕	口縁部～体部下位1/2残存 口 14.4cm 高 16.8cm残	貯蔵穴内 底面上9.0cm	①細砂・細粒を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	やや肩の張る胴部、口縁部は外反する。外面羽状刷毛目(4本/1cm)。内面上半指押え。下半斜方向なで調整。体部下半には煤附着。端部はやや内側に丸く肥厚。	
1527 154	土師器 壺	体部破片 高 3.0cm残	貯蔵穴内 床面上15.0cm	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③浅黄2.5Y7/3	外面に櫛歯状工具による羽状の刺突文が施されている。	
1510 153	土師器 甕	口縁部～体部残存 口 14.2cm 高 5.8cm残	北西部 床面上5.0cm	①細砂を含む。赤色土粒子が目立つ。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	体部外面羽状の刷毛目(6本/1cm)整形。内面指なで調整。口縁部内外面横なで。頸部外面には刷毛目調整後、ぐるりと1条調整が巡る。	
1515 153	土師器 器台	口縁部～脚部一部残存 口 (18.4cm) 高 6.7cm残	1ピット北脇 床面上21cm	①微細砂を含む。少量雲母片を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁端部をつまみあげた器受部に、ラッパ状に開く脚部がつく。脚部に3孔を穿つ。器受部内外面細かい縦磨き。脚部外面縦磨き。脚部内面縦方向磨なで。	
1512 153	土師器 S字甕	口縁部～体部 口 (15.0cm) 高 21.8cm残	南東部 床面下6.0cm	①砂粒・細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	外面斜方向刷毛目(6本/1cm)。内面上半指押え。下半なで調整。	
1516	土師器 甕	口縁部～頸部1/4残存 口 (20.6cm) 高 6.4cm残	北東部 床面上22.0cm	①細砂・赤色土細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	有段口縁の下端に櫛歯状工具圧痕。	
1523 153	土師器 S字甕	脚部 底 6.5cm 高 4.0cm残	2号炉脇 使用面下 8.0cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	外面なで調整。上半部のみ斜方向刷毛目(7本/1cm)。内面は巾広の折り返し。なで調整。	
1513 153	土師器 S字甕	口縁部～体部破片 口 (9.3cm) 高 5.4cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	外面縦方向の刷毛目(6本/1cm)。内面指押え。	
1522	土師器 甕	底部 底 8.2cm	南東部 床面上6.0cm	①砂粒・雲母片を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	底面外面には木葉痕が残る。内面はなで調整。	

153号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図318

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1697 1698 153	弥生土器 甕	頸部～体部下位1/5残存 高 16.5cm残	掘り方埋没土 中	①白色・黒色鉱物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③明赤褐5YR5/6	頸部はくびれる。胴部上位に最大幅をもつ。内外面とも器面荒れ。外面中位は斜、下位は縦方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。	頸部は右回り簾状文。胴部上位には3段分の櫛描波状文。櫛描波状文下位にボタン状貼付文があり円形刺突文がある。口縁部が同一個体と考えられる。	口縁部から頸部にかけては推定復元した。

153号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図318

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1700 154	弥生土器 甕	肩部破片	掘り方 底面上29.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉍物粒を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR8/2	肩部はわずかに丸みをもつ。	楕描波状文。	
1699 154	弥生土器 高杯	口縁部破片	掘り方北西部 底面上7.0cm	①白色・夾雑鉍物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部に向かい大きく開き口縁 端部は大きく外反する。口縁端 部に刻み目。		内外面とも 塗彩。
1701 154	弥生土器 壺	口縁部破片	掘り方埋没土 中	①白色・夾雑鉍物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反し、折り返 す。口縁部は内外面とも横なで。	折り返し口縁部で端部に刻み 目。	
1702 154	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・石 英砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部はわずかに外反し、内外 面とも横なで。	口縁部の端部に刻み目。	
1530 154	弥生土器 壺	口縁部破片 高 2.5cm残	南西部 床面上10.0cm	①砂質土であり、 白色鉍物粒を多量 に含む。 ②普通。 ③灰褐5YR6/2	口縁部は外反し、外方へ折り返 しである。内外面とも横方向の 器面調整を行い塗彩されている。	口縁部には棒状工具による刻 み目が入る。	
1525 154	弥生土器 甕	肩部破片	南東部 床面直上	①砂質土であり、 白色・黒色鉍物粒 ・白色小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	内外面とも器面荒れている。	肩部には楕描横線文と楕描波 状文がある。	
1526 154	弥生土器 甕	体部破片 高 3.2cm残	南隅 床面直上	①白色・夾雑鉍物 粒を含む。 ②普通。 ③灰黄2.5Y7/2	内面は横方向の器面調整。	楕描波状文を施文。	
1524 154	弥生土器 甕	頸部破片 高 4.3cm残	4号炉内 使用面直上	①白色・夾雑鉍物 粒を含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部はくびれる。内面は縦方向 の鈍磨き。	頸部には簾状文、これを切っ て楕描波状文がある。	
1529 154	弥生土器 壺	口縁部破片 高 3.0cm残	埋没土中	①白色・黒色鉍物 粒を含む。 ②普通。 ③灰黄2.5Y6/2	口縁端部は二段の折り返しであ る。内面は横方向の器面調整。	折り返し口縁には棒状工具に よる刻み目がある。	

153号住居出土遺物観察表《石器》 図319

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S633 154	勾玉	1.52・0.6 0.3	滑石 0.71	床面直上	不定形な勾玉であり、薄く丸みも少ない。穿孔は両方向からと考えられる。	
S627	磨製石籬未 製品	3.6・0.7 0.25	珪質準片岩 1.00		施溝折断技法で折断された資料で、左縁表面に溝の痕跡が認められる。	
S532 154	スクレーパー	3.05・3.7 8.5	珪質頁岩 6.90	埋没土中	不定形剥片素材。礫面残存。両側縁に僅かに加工痕と使用痕を残す。	
S533 154	敲石	13.8・7.0 4.45	角閃石安山岩 705	貯蔵穴内 底面上6cm内	両端に顕著な敲打痕を残す。	
S531 154	敲石	16.1・6.15 4.1	砂岩 661	南東壁際 床面直上	明瞭な敲打痕は認められない。	
S530 154	スクレーパー	5.6・8.0 1.1	黒色頁岩 44.08	南東部 床面上4cm	横長剥片素材。礫面残存。礫面打面。端縁に使用痕を残す。	

153号住居出土遺物観察表《石器》 図319

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S528 154	スクレーパー	14.2・8.2 4.2	輝緑岩 498	北西部 床面上 8 cm	横長剥片素材。礫面打面。礫面残存。一側縁に加工痕が認められる。	
S529 154	砥石	16.1・2.6 3.05	頁岩 130	南東壁際 床面上 7 cm	四面を研ぎ面としており、線状痕を多数残す。	

154号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図321

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1533 154	弥生土器 高杯	口縁部～底部 ほぼ完形 口 19.7cm 底 14.0cm 高 19.9cm	南東部 床面直上	①砂粒・砂質土を 含む。 ②良好。 ③灰褐5YR5/2	脚部は直線状であり、杯部はわずかに内湾する。口縁部は平坦で刻み目が入る。内外面とも器面荒れしている。外面は縦の寛磨き。内面は横方向の器面調整。脚部内面以外は塗彩が行われているが磨耗がはげしい。		塗彩。
1534 155	弥生土器 壺	口縁部～胴部 口 16.8cm 高 14.6cm残	南東壁際 床面直上	①白色鉾物粒・石 英砂・夾雑鉾物粒 を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐 5YR4/3	胴部上位は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部はわずかに外反し、折り返し口縁である。内外面とも器面荒れしている。	口縁部は櫛描波状文。頸部は2連止簾状文、その下位を3段の櫛描波状文。頸部～胴部上位、文様帯を除く表面と内面頸部から口縁部にかけては塗彩されている。	
1544 155	弥生土器 甕	頸部1/3残存 高 8.2cm残	南東壁際 床面直上	①砂質土であり、 白色・黒色鉾物粒 を含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/4	頸部はくびれる。内外面とも器面荒れがはげしい。	頸部は2連止簾状文が右回りで施文。	
1545	弥生土器 甕	頸部～体部下 位1/4弱 高 5.2cm残	南東壁際 床面直上	①白色鉾物粒を多 量に含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR 6/3	丸みをもつ。内外面とも器面荒れしている。割れ目は輪積痕に沿っている。	肩部には円形刺突文を多く穿つ。ボタン状貼付文が施文され、頸部は簾状文が一部認められる。	最大幅 41.6cm。
1547	弥生土器 鉢	口縁部破片 口 (32.0cm) 高 5.0cm残	南東壁際 床面直上	①白色・黒色鉾物 粒を多量に含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/4	体部から口縁部にかけて丸みをもつ。口縁部は平坦にし端部に刻み目をもつ。内外面とも器面荒れがはげしい。		
1586 155	弥生土器 甕	体部下位～底 部 底 7.7cm 高 3.6cm残	南壁際 床面直上	①微細砂であり、 白色鉾物粒・雲母 を含む。 ②良好。 ③灰7.5Y5/1	胴部に向かい広がり始める。外面は縦方向の寛磨き、内面は横方向の器面調整。		
1535 155	弥生土器 台付甕	脚部欠損 口 13.3cm 高 15.0cm残	7ピット内 床面直上	①白色鉾物粒・雲 母を含む。 ②良好。 ③橙5YR7/6	脚部は裾に向かい開きはじめる。脚部から胴部にかけては大きく張る。頸部はくびれる。口縁部は外反する。口縁部外面は横なで。胴部～脚部にかけては縦方向の寛磨き。内面は横方向の器面調整。	口縁部と頸部、胴部にかけて櫛描波状文が施文される。	

154号住居出土遺物観察表《弥生土器》

図321・322

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1537 155	弥生土器 小形甕	口縁部～底部 3/4残存 口 8.7cm 底 4.7cm 高 10.9cm	6ピット内 床面上13.0cm	①白色鉾物粒・砂 粒を含む。 ②良好。 ③赤7.5R4/8	胴部は中位で大きく張る。頸部 はくびれる。口縁部はわずかに 外反。	外面と内面口縁部は塗彩され ている。胴部に刻み目がある。	
1539 155	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/2残存 口 (13.5cm) 高 6.0cm残	10ピット内 床面上18.0cm	①砂質土であり雲 母を少量含む。 ②やや緩い。 ③赤褐10R4/3	胴部上位は大きく張る。頸部は 大きくくびれる。器形は外反す る。内外面とも器面荒れしてい るが横方向の器面調整痕が残る。	口縁部と胴部上半には櫛描波 状文、頸部は2連止簾状文 (10条1単位)が右回りに施 文。	
1540 154	弥生土器 高杯	脚部2/3残存 底 9.2cm 高 5.3cm残	7ピット内 床面上21.0cm	①砂質土であり、 白色鉾物粒・石英 砂を含む。 ②普通。 ③赤褐5YR4/6	脚部は裾に向かい広がる。端部 は平坦。器面は器面荒れしてい るが、外面は縦、内面は横方向 の器面調整。		
1532 155	弥生土器 甕	口縁部～体部 ほぼ完形 口 19.6cm 底 11.0cm 高 36.0cm残	9ピット内 床面上30.0cm	①白色鉾物粒・雲 母を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は丸みをもち僅か に歪む。外面は縦、内面は横方 向の器面調整で器面荒れがあり 文様を読みとれない場所がある。	口縁部は2～3段、胴部上位 頸部までの間に4～5段の櫛 描波状文がある。頸部最下位 にボタン状貼付文がある。頸 部に右回りの簾状文2連止が 施文される。	
1548	弥生土器 甕	口縁部1/4残 存 口 (11.5cm) 高 5.0cm残	3ピット内 床面上62.0cm	①夾雑物・白色鉾 物粒と白色小礫を 含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部はくびれる。口縁部は外反 する。外面口縁部と内面は横方 向の器面調整。内面の一部に輪 積痕が残る。外面頸部から胴部 にかけては縦方向の器面調整。		
1536 155	弥生土器 台付甕	脚・口縁の一 部欠損 口 (11.5cm) 高 13.0cm残	南東部 床面上2.0cm	①砂粒であり夾雑 鉾物粒を含む。 ②普通。 ③暗赤褐7.5R3/3	脚部は裾に向かい開きはじめる。 脚部から胴部にかけては大きく 張る。頸部はくびれる。口縁部 は外反する。口縁部外面は横な で。胴部～脚部にかけては縦方 向の磨き。内面は横方向の器 面調整。		
1538 154	弥生土器 壺	杯上半欠損 底 7.4cm 高 (5.5cm)	南東部 床面上2.0cm	①夾雑鉾物粒を多 量に含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/4	脚部は直線状ののび、端部は平 坦になる。杯部はわずかに内湾 する。		杯部内面は 塗彩。
1531 155	弥生土器 壺	口縁部～頸部 2/3残存 口 (12.3cm) 高 17.5cm残	南東部 床面上3.0cm	①砂質土であり、 白色鉾物粒を少量 含む。 ②良好。 ③橙7.5YR6/6	脚部は大きくくびれ、口縁部は 大きく外反する。折り返し口縁 である。外面は縦方向の磨き、 内面は横方向の器面調整。		
1541 155	弥生土器 壺	頸部～体部 高 22.8cm残	北東部 床面上3.0cm	①砂質土であり、 白色・黒色鉾物粒 を多量に含む。 ②良好。 ③明オリーブ灰 2.5GY7/1	胴部は大きく張る。頸部は大き くくびれる。口縁部は大きく外 反する。外面は斜方向、内面は 横方向の器面調整。	頸部は2連止簾状文右回り、 1単位11条。肩部は5段の簾 状文。	
1546	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (22.4cm) 高 13.0cm残	北東部 床面上3.0cm	①白色鉾物粒・雲 母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 6/4	口縁部は大きく外反する。折り 返し口縁である。外面は縦・内 面は横方向の器面調整である。	折り返し口縁部は櫛描波状文 の上に棒状付文がある。	
1543 154	弥生土器 高杯	脚部3/4残存 底 10.4cm 高 9.2cm残	北西部 床面上7.0cm	①白色鉾物粒を多 量に含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/4	脚部は直線状。脚端部は平坦。 杯部はわずかに残る。外面は縦 方向の磨き。内面は横方向の 器面調整と縦方向の磨き。		

154号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図321・322

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1551	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (27.8cm) 高 15.2cm残	北東部 床面上7.0cm	①砂質土であり、 白色・夾雑鉱物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。折り 返し口縁は端部に刻み目をもつ。 外面口縁と内面は横方向の器面 調整。外面口縁部～頸部につ けては斜方向の刷毛目。	頸部は右回りの2連止簾状 文。	
1549	弥生土器 小形甕	上半破片 口 (4.6cm) 高 4.0cm残	南西部 床面上8.0cm	①白色鉱物粒と雲 母を少量含む。 ②普通。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は外反する。器面 荒れているが、内面は横なで 痕を残す。	頸部は右回りの簾状文があ る。	
1542 155	弥生土器 壺	口縁部1/5残 存 口 (29.0cm) 高 14.0cm残	南東部 床面上14.0cm	①白色鉱物粒・微 細砂を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	頸部は大きくくびれる。頸部～ 口縁部は大きく外反し、折り返 し口縁である。	頸部は右回りの2連止簾状 文。	
1557 155	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・石英砂・輝石 を含む。 ②良好。 ③灰褐5YR6/2	口縁部はわずかに外反し、端部 付近でわずかに内湾。内外面は 横なで。		
1558 155	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 6/3	胴部はわずかに丸みをもち、頸 部に向かいくびれる。内外面と も横なで。内面には輪積痕があ る。	8条1単位の櫛状工具による 櫛描波状文が4段確認でき る。	
1550 155	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ②やや緩い。 ③淡赤橙2.5YR	口縁部は大きく外反する。口縁 部は2段の折り返しを呈してい る。内面は横なで。	上位折り返し口縁部には刻み 目を入れる。	
1554	弥生土器 甕	底部破片 底 (4.2cm)	埋没土中	①微細砂であり、 白色・黒色鉱物粒 を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	胴部に向かい開く。内外面とも 塗彩、器面荒れがはげしい。		
1555 155	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5YR8/2	口縁部は大きく外反する。口縁 部端部に刻み目。		内面に塗彩。
1556 155	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒を含む。 ②緩い。 ③橙5YR6/6	肩部はわずかに丸みをもつ。内 面は横なで。内外面とも器面荒 れ。	ほんのわずかに櫛描波状文が 確認できる。20個の細かい円 形刺突文をもつボタン状貼付 文がある。	
1696 155	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し。折り返し口縁と 内面は横なで。外面は斜方向の 器面調整。	折り返し口縁部には、口縁端 部側と頸部側交互に刻み目を入 れる。	内外面とも 塗彩。
1553 155	弥生土器 壺	口縁部破片	南東部 床面上3.0cm	①砂質土であり、 石英砂・小礫をも 含む。 ②やや緩い。 ③赤橙10R6/6	口縁部は外反する。内面は横な で。外面は器面荒れ。	頸部は右回りの簾状文。口唇 部は櫛描波状文。口縁端部に 円形刺突文をもつボタン状貼 付文がある。	
1552 155	弥生土器 高杯	口縁部破片	北東周溝内 床面上10.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	杯部は外方へ立ち上がりながら わずかに内湾。口縁部は外反 する。口唇部は刻み目。内面と 外面口縁部は横なで、外面体部 は縦方向の篋磨き。		内外面とも 塗彩。

154号住居出土遺物観察表《石器》 図323

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S534 156	台石	10.8・15.6 5.2	粗粒安山岩 789	南東部 床面直上	大部分が欠損している。	
S536 155	スクレーパー	3.2・4.8 0.75	黒色頁岩 12.26	埋没土中	横長剥片素材。礫面残存。一側縁及び端縁に加工痕が認められる。	
S535 155	石錘	5.05・4.2 0.9	雲母石英片岩 26.30	南西部 床面上17cm	一端が欠損している。一端に打ち欠きによるくびれが認められる。	
S537 155	スクレーパー	7.1・6.4 1.3	黒色頁岩 60.89	埋没土中	縦長剥片素材。礫面打面。礫面残存。両側縁及び端縁に加工痕が認められる。	

169号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図326

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1663 156	弥生土器 甕	口縁部～頸部 口 13.6cm 高 6.9cm残	北西部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい7.5YR 6/4	口縁は外反する。内面は横方向 の鈍磨き、内面口縁は横なで。	10条1単位の櫛状工具により、 頸部には右回りの簾状文、頸 部から口縁にかけて3段の櫛 描波状文。	
2170 156	弥生土器 高杯	脚部残存 底 8.4cm 高 7.6cm残	北東部 床面直上	①白色鉱物粒・小 礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	裾部に向かい大きく開く。裾端 部は平坦、裾外面は縦方向の鈍 磨き、内面は横方向の器面調整。 口唇部内面底部多方向に器面調 整。		
1671	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (11.2cm) 高 4.3cm残	2号炉南脇 床面上2.0cm	①白色鉱物粒を含 む。 ②やや緩い。 ③褐灰7.5YR5/1	肩部は丸みをもつ。口縁部はわ ずかに外反する。口縁部は横な で、内面は斜方向の器面調整。	頸部は2連止右回り簾状文。 口縁部、胴部に櫛描波状文。	
1670	弥生土器 甕	口縁部～体部 口 (13.2cm) 高 9.8cm残	中央部 床面上3.0cm	①夾雑鉱物粒・小 礫・輝石を含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部に最大幅をもち、頸部はわ ずかにくびれる。口縁部はわず かに外反、口縁部から胴部上半 にかけて外面には輪積痕を残す。 内面は横なで。	輪積痕の上には縄文がある。	
1669	弥生土器 小形甕	口縁～体部 口 (6.1cm) 高 6.3cm	南西部 床面上3.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・輝石を含む。 ②良好 ③灰黄褐10YR5/2	肩部は丸みをもつ、口縁部はわ ずかに外反する。口縁部は横な で、内面は斜方向の器面調整。	頸部は8条1単位の2連止右 回りの簾状文、口縁部と胴部 に櫛描波状文。	
1673	弥生土器 高杯	脚部～杯部に かけての破片 高 6.3cm残	北壁際 床面上4.0cm	①白色・黒色鉱物 粒・輝石を含む。 ②良好。 ③赤10R5/6	杯部は大きく開く、内面は横方 向の器面調整、外面は縦方向の 鈍磨き。脚部内面は多方向に器 面調整。杯部内外面と脚部外面 は塗彩。		
1661 156	弥生土器 甕	口縁部～体部 破片 口 (17.2cm) 高 17.2cm残	11ピット北脇 床面上9.0cm	①白色鉱物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③褐灰7.5YR4/1	肩部は丸みをもつ、口縁部はわ ずかに外反、外面頸部は縦方向 の器面調整、胴部は多方向に器 面調整。内面は横方向の器面調 整。	口縁部と肩部には10条1単位 の櫛描波状文。頸部は10条1 単位の2連止右回りの簾状文。	
1662 156	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/4 口 (14.0cm) 高 9.0cm残	北東部 床面上12.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③褐灰10YR5/1	胴部は丸みをもつ、口縁部は外 反する。外面頸部中位から底部 にかけては斜方向の鈍磨き。内 面は横方向の器面調整。	口縁部から胴部中位まで5条 1単位の櫛状工具による櫛描 波状文が4段ある。	
1664	弥生土器 小形甕	口縁部破片 口 13.0cm 高 5.8cm残	南西部 床面上5.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②普通。 ③黒褐10YR3/1	肩部は丸みをもつ、口縁部はわ ずかに外反する。口縁部は横な で、内面は斜方向の器面調整。	頸部は6条1単位の棒状工具 による2連止右回りの簾状文 と口縁部に1単位と肩部には 2単位の櫛描波状文。	
1666 156	弥生土器 高杯	脚部1/2残存 底 (6.6cm) 高 5.7cm残	10ピット西脇 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③赤褐10R5/3	脚部は裾方向に大きく開く、裾 端部は平坦、内外面とも器面荒 れをおこし縦方向の鈍磨き。		

169号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図326・327

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1667 156	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/4 口 (26.0cm) 高 13.1cm残	14ピット南脇 床面上7.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・雲母を 含む。 ②良好。 ③浅黄橙7.5YR 8/4	頸部は大きくくびれる。口縁部 は大きく外反する。口縁部は折 り返しである。内外面とも口縁 部は横なで、内面は多方向に器 面調整。	折り塗り口縁部は刻み目、頸 部は2連止右回りの簾状文。	
1668 156	弥生土器 甕	頸部1/4 高 10.2cm残	4ピット内 底面上50.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は大きく張る。外面は斜方 向の器面調整、内面は横方向の 器面調整。	頸部には9条1単位の櫛状工 具により2連止右回りの簾状 文、肩部には、3段の櫛描波 状文があり、最下部文様帯に はボタン状貼付文がある。ボ タン状貼付文には円形刺突文 を9～11穿っている。	
1660 156	弥生土器 甕	口縁部～底部 1/2 口 15.0cm 底 7.0cm 高 21.7cm残	3ピット内 底面上63cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③灰褐5YR5/2	胴部は中央付近で丸みをもつ、 頸部はくびれる。口縁部は外反 する。頸部から口縁部にかけて 外面に輪積痕を残し外面は器面 荒れ、内面は横方向の器面調整。	肩部から口縁にかけて縄文を 施文、口縁端部刻み目。	
1665 156	弥生土器 小形甕	上半付近1/4 頸 (8.4cm) 胴 10.0cm 高 7.6cm	南西部 床面上3.0cm	①砂質土であり輝 石を含む。 ②普通。 ③にぶい赤褐5YR 6/4	胴部上位に最大幅をもち、口縁 部はわずかに外反する。内外面 とも器面荒れ。	胴部最大幅部に、ボタン状貼 付文がある。頸部上位に沈線 による横線文がある。	
1672	弥生土器 甕	底部付近 底 5.7cm 高 3.1cm残	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②緩い。 ③橙7.5YR6/6	内外面とも器面荒れ、胴部の輪 積痕、最下部状況は明瞭であり 底面は平坦、紐端部は斜めにし て薄く重ねている。		
1815	弥生土器 高杯	杯部の破片 口 (11.0cm) 高 6.4cm残	北東隅ピット	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫・輝石を 含む。 ②普通。 ③赤7.5R4/8	杯部は大きく口縁部に向かい開 き、口唇部は大きく外反する。 内面は横方向の鈍磨き、外面は 縦方向の鈍磨きを主とし、口縁 付近は横なで。		内外面とも 塗彩。
1692	弥生土器 高杯?	杯部の一部 口 (4.7cm) 高 2.2cm残	埋没土中	①白色鉱物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③黒褐5YR3/1	杯部は小さく内湾する。内外面 は横方向の器面調整。内外面と も塗彩されていたが内面と外面 の一部に煤付着。		外面塗彩。
1695 156	弥生土器 土製円盤	完形 径 2.4cm 厚 0.6cm	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR4/2	土器を転用したものである。周 辺を打ち割り円にしている。		
1764 156	弥生土器 紡錘車	完形 径 5.2cm 厚 1.5cm	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	中心に円形で径0.8cmの穴を穿 つ。表裏面に器面調整痕がつく。		
2308	弥生土器 紡錘車	1/4 径 5.8cm	埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	一面は凹面、他面は凸面をもつ。 中心部には、円形の穴を穿つ。 端部は薄くなる。		
1814 156	弥生土器 土製円盤	完形 径 3.2cm 厚 0.6cm	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰N4	土器を転用したものである。周 辺部を打ち割った形状である。		
1675 156	弥生土器 壺	頸部破片	北西部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②普通。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。外面 縦方向の器面調整、内面は横方 向の器面調整、内面口縁部付近 に塗彩が残る。	頸部には2連止右回りの簾状 文。	

169号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図326・327

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1674 156	弥生土器 甕	体部破片	南西部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③浅黄橙7.5YR 8/4	胴部上半は丸みをもつ、内外面 は斜方向の刷毛目。	篋状工具により鋸歯文の中に 斜向沈線文を施す。	
1678 156	弥生土器 壺	口縁部破片	貯蔵穴 埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも横方 向の器面調整。外面の一部に縦 方向の器面調整。	折り返し口縁は刻み目をもつ。	
1679 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・輝 石・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも横方 向の器面調整。	折り返し口縁は刻み目をもつ。 内面は塗彩。	
1684 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①砂質土・輝石・ 白色鉱物粒・小礫 を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内面は横方向の 器面調整。外面は器面荒れして いる。	折り返し口縁部と端部には刻 み目。	
1686 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/4	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、外面は斜方向の 器面調整。内面は横方向の器面 調整。	折り返し口縁には刻み目。	
1683 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも横方 向の器面調整。	折り返し口縁の端部刻み目。	
1676 156	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	東壁際 床面上2.0cm	①白色・黒色鉱物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	頸部はくびれる。内外面とも横 なで。	頸部には11条1単位の多連止 右回りの簾状文。体部は櫛描 波状文が5単位分確認できる。	
1694 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は外反する。内外面とも 器面荒れしている。	口縁部の端部刻み目。頸部は 櫛描波状文。	
1682 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも横方 向の器面調整。	折り返し口縁部は櫛描波状文。	
1685 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・輝石を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも器面 荒れしている。	折り返し口縁部には櫛描波状 文施文後棒状貼付文がある。	
1691 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反、口縁部は 折り返し、外面折り返し。口縁 部と内面は横なで、外面頸部は 縦方向の器面調整。	頸部には櫛描波状文。	
1680 156	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面口縁部は 横なで、折り返しの下位には斜 方向の器面調整。	口縁部は9条1単位の櫛描波 状文。	

169号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図326・327

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1688 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉾物粒と白色の小礫がある。 ②良好。 ③灰白2.5YR7/1	口縁部は外反する。内面は横方向の器面調整。	頸部には9条1単位の櫛描波状文を2段施文、口唇部付近にボタン状貼付文がある。	
1681 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉾物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	頸部はくびれる。外面口縁部と内面は横方向の器面調整。	頸部には8条1単位の2連止右回りの簾状文。この上下に櫛描波状文。	
1677 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③浅黄2.5Y8/3	胴部は丸みをもつ、口縁部は外反する。口縁部は横なで。	頸部は12条1単位の2連止右回りの簾状文、口縁部と胴部には櫛描波状文、簾状文下位櫛描波状文との境にボタン状貼付文があり横線文1本が施文される。	
1687 156	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉾物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR6/3	口縁部は外反する。内面は横なで。	口縁部には櫛描波状文。頸部は2連止右回りの簾状文。	
1689 156	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄2.5Y6/3	頸部はくびれる。外面は縦方向の器面調整、内面は横方向の器面調整。	頸部は左廻り2連止簾状文、肩部は櫛描波状文。	
1690 156	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	頸部はくびれる。外面は縦方向の器面調整、内面は横方向の器面調整。	頸部には2連止簾状文がある。	
1693 156	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色鉾物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/2	肩部付近は丸みをもつ。頸部はくびれる。内面は器面荒れしている。	頸部は櫛描横線文を篋で縦切る十字文があり、下位には櫛描波状文がある。	

169号住居出土遺物観察表《石器》 図330

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S584 156	スクレーパー	3.8・1.6 6.3	珪質頁岩 4.18	埋没土中	不定形剥片素材。両端折断。一側縁に加工痕が認められる。	
S582 156	磨製石鏃未製品	2.25・1.35 0.2	珪質準片岩 1.34	埋没土中	分割工程の資料である。	
S583 156	磨製石鏃未製品	2.7・1.6 0.3	珪質準片岩 2.55	埋没土中	分割工程の資料である。	
S579 157	敲石	10.05・4.6 1.3	雲母石英片岩 76.01	埋没土中	一端を欠損している。一端及び表面に敲打痕を残す。	
S581 157	砥石	6.75・5.4 1.25	砂岩 52.31	埋没土中	三面を研ぎ面としている。一端を欠損している。	
S578 157	凹み石	11.1・9.9 6.4	粗粒安山岩 775	南壁際 床面下32cm	表裏両面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	
S580 157	くさび?	5.9・3.35 1.4	黒色頁岩 41.52	埋没土中	一端を欠損する。一端及び両側縁に敲打による剥離面を残す。	

155号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図333

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1562 157	土師器 小形甕	口縁部～体部下 位 口 10.0cm 高 5.4cm残	南西部 床面直上	①雲母・小礫を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/4	頸部はわずかにくびれる。口縁部は外反する。内面口縁部は斜方向の器面調整。	

155号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図333

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1563 157	土師器 ミニチュ ア	口縁部一部欠損 口 3.8cm 底 2.6cm 高 5.1cm	貯蔵穴脇区画 床面直上	①多くの微細砂・砂粒 を含む。 ②軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	筒形の手捏土器。口縁部は薄くすぼめてつくっている。 外面は上半などで調整。下半指押え。内面には輪積痕が 残る。雑なで調整。	
1564 157	土師器 ミニチュ ア	ほぼ完形 口 2.9cm 底 2.1cm 高 2.2cm	貯蔵穴脇区画 床面直上	①少量の砂粒を含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y8/2	指頭による押えて整形している。	
1566	土師器 甕	口縁部破片 口 (15.8cm) 高 5.8cm残	北西部 床面直上	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	短頸の小形甕の口縁部破片である。体部外面縦・斜方 向匏けずり。口縁部内面横刷毛目が残る。	
1575 157	土師器 壺	頸部～体部下位 1/2残存 高 16.2cm残	貯蔵穴西脇 床面直上	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	球形胴部の壺。体部外面上半斜方向刷毛目。下半縦方 向匏けずり。部分的横なで。斜方向匏磨き。内面匏な で。肩部内面指頭圧痕。	胴最大幅 20.0cm。
1572	土師器 壺	頸部破片 高 4.5cm残	ピット 埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	頸部に断面四角形の突帯が付された壺形土器。突帯に は匏状工具による刺突文がつけられている。肩部内面 には指頭痕が残る。口縁部内外面などで調整。	
1559 157	土師器 広口甕	口縁部～体部 1/4残存 口 (26.8cm) 高 19.7cm残	南西部 床面上4.0cm	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	広口の大型甕。叩きのような巾広の刷毛目 (3本/ 1cm) 整形。体部外面横、斜め刷毛目。口縁部内面横 刷毛目。口縁部外面横なで。	
1560	土師器 広口壺	口縁部1/4残存 口 (30.4cm) 高 15.7cm	南東部 床面上2.0cm	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②硬質。 ③浅黄橙10YR8/3	広口の壺。口縁部外面には、面取りがされている。 体部外面は刷毛目の後、横・斜匏けずり。頸部には刷 毛目が残る。内面頸部指押え。体部横匏けずり。口縁 部は横方向刷毛目の後などで調整。	
1561	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (18.6cm) 高 2.9cm残	4ピット西脇 床面上4.0cm	①微細砂を多く含む。 雲母細片を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐10YR5/3	頸部内面は丸くつくられている。体部外面、斜方向刷 毛目 (4本/1cm)。	
1565 157	土師器 小形器台	脚部上半1/2残 存 高 5.0cm残	北西隅 床面上10.0cm	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	脚部には3孔が穿たれている。外面縦匏磨き。器受部 内面横匏磨き。	

155号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図333

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1567 157	弥生土器 甕	口縁部破片	炉南脇 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	口縁部は外反。外面は斜方向の 器面調整。内面は横方向の器面 調整。	文様は櫛描波状文。頸部は右 回りの簾状文。	
1568 157	弥生土器 甕	頸部破片	北東部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	頸部は外反。内面は横方向の器 面調整	櫛描波状文を施文。	

155号住居出土遺物観察表《石器》 図333

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S538 157	凹み石	15.7・10.5 6.6	砂岩 1190	貯蔵区内脇 床面直上	表面にくぼみ痕が認められる。	
S551 157	スクレーパー	2.75・4.8 1.0	黒色頁岩 10.23	埋没土中	横長剥片素材。端縁に使用痕を残す。	

156号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図334

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1570 157	土師器 高杯	杯部1/2残存 口 (18.3cm) 高 4.2cm残	北西部 床面上6.0cm	①微細砂・雲母片を含む。 ②硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部がやや内湾する高杯の杯部。内外面丁寧なで調整。口縁部横なで。内面縦磨き。外面磨き。杯部底部は接合痕を残す。	
1569 158	土師器 小形広口 甕	口縁部～底部残存 体部下半に欠損孔 口 14.1cm 底 5.4cm 高 15.0cm	北西部 床面上8.0cm	①細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③灰黄褐10YR5/2	広口の頸部に、短い口縁部がついている。体部外面上半、縦・斜刷毛目(8本/1cm)。中位横方向磨き。下位縦磨き。内面刷毛目整形後、横方向磨き。底部には刷毛目残る。頸部下位指頭圧痕。口縁部内外面横なで。	
1571 158	土師器 広口甕	口縁部～体部 口 14.0cm 高 9.2cm残	北西隅 床面上8.0cm	①小礫・微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰褐7.5YR4/2	広口の頸部に短い口縁部がつく。口縁部内外面横なで。外面縦・斜刷毛目(5本/1cm)・(7本/1cm)。内面指なで、外面の刷毛目は2種が使われている。	
1576	土師器 高杯	口縁部破片 口 (21.4cm) 高 5.7cm残	北西部 床面上13.0cm	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は内湾する。高杯の杯部。口縁部内面にかすかな面取りがある。外面は、刷毛目(4本/1cm)の後、縦方向の磨き。内面は、なで調整後、斜磨き。	
1574 157	土師器 S字台付 甕	胴部残存 底 8.5cm 高 5.8cm残	1ピット西脇 床面上17.0cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	小形のS字甕の脚部。外面なで調整後、斜方向刷毛目(5本/1cm)。内面指頭圧痕が残る。	

156号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図334

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1573 157	弥生土器 甕	底部～体部下 位 底 7.0cm 高 5.8cm残	北上隅 床面直上	①白色鈹物粒・雲母を含む。 ②普通。 ③褐7.5YR4/3	胴部に向かい大きく張り出す。内外面とも斜方向の器面調整しているが、器面荒れている。また内外面に炭素付着。		

156号住居出土遺物観察表《木器》 図334

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	出土位置	木 樹 取 り 種	遺存状態	加土形状の特徴	備考
W824(1) 158	礎板	12.4×4.8×3.5		角材	完形	両端部を斜に切り落とす。断面は四角形である。	柱穴の底面に礎板状に使用されていた。
W824(2) 158	礎板	19.2×4.0×4.2		角材	完形	同上。	並んで出土していたが、湧水のため1本しか実測できなかった。
W824(3) 158	礎板	15.4×3.8×3.8		角材 (ブナ科)	完形	同上。	

157住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図339

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1577 158	土師器 S字甕	体部下位～底部 底 10.0cm 高 17.6cm残	西壁際 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰褐5YR5/2	体部外面、縦方向刷毛目(7本/1cm)整形。内面下半横方向磨き。上半指押え。脚部外面斜方向刷毛目後、すり消すようになで。内面指なで。	
1582 158	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底 8.5cm 高 7.1cm残	西壁際 床面直上	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7/4	S字甕の規則に沿った台部。脚部外面は刷毛目(7本/1cm)の後、なですり消している。体部縦刷毛目。体部内面は磨き。脚部内面は指頭圧痕が残る。	
1583	土師器 高杯	脚部破片 底 (19.0cm) 高 4.1cm残	南西部 床面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面縦刷毛目(5本/1cm)の後なで調整。裾部には磨きを施す。内面横磨き。2段に円孔があいている。	
1580 158	土師器 高杯	杯部4/5残存 口 12.6cm 高 4.1cm残	北西部 床面上3.0cm	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③明赤褐5YR5/6	二次焼成を受けているのか、器面の磨耗が著しい。椀形の杯部で口縁端部の内面に巾3mmほどの面取りがされている。内・外面とも横方向の整形単位が看取できる。	

157号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図339

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1579 158	土師器 高杯	ほぼ完形 口 12.2cm 底 10.8cm 高 8.2cm	北西部 床面上4.0cm	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	椀形の杯部に、直線的に開く短い脚部がついている高杯。脚部には3個の円孔がある。杯部口縁部は内湾するが端部の面取りはない。杯部内外面・脚部外面は丁寧になでられ、磨きが施されている。脚部内面は横方向縦まで。	
1581 158	土師器 壺	口縁部破片 口 (15.2cm) 高 3.5cm残	埋没土中	①砂粒・小礫を多く含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/4	外方へくの字に開く口縁部の破片。外面端部には、巾4.5mmの面取りがされその両端は、鋭角的に整形されている。内面端部は小さく内湾する。体部外面斜方向刷毛目(5本/1cm)。口縁部内外面横まで。	
1584	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (20.5cm) 高 2.6cm残	埋没土中	①細砂・粗砂を含む。 ②軟質。 ③明赤褐5YR5/6	やや外方へ広く、S字状の口縁部。	刷毛目(6本/1cm)。

157号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図339

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1578 158	弥生土器 蓋	2/3残存 摘 5.2cm 裾 17.0cm 高 6.1cm	西壁際 床面直上	①砂質土であり、石英砂・雲母・輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐5YR5/3	蓋と考えられ摘み部、くびれに向かい大きくくびれる。摘み部分は大きく開き、上面は平坦、摘み部には円形の穴を穿つ。外面は縦、内面は斜方向の器面調整。		

157号住居出土遺物観察表《石器》 図339

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S545 158	敲石	14.0・6.4 6.5	粗粒安山岩 1173	東壁際 床面直上	一端に僅かに敲打痕を残す。	
S541 158	敲石	19.25・7.1 5.3	砂岩 1050	南西部 床面直上	一端に僅かに敲打痕を残す。	
S542 158	打製石斧	4.5・3.9 1.4	細粒安山岩 33.75	床下	両端を欠損しているが、揆形。礫面残存。	
S628	磨製石鏃未製品	3.2・1.55 0.12	珪質準片岩 0.97	西壁際 床面直上	研磨工程の初期段階である。	
S540 158	石核	8.1・7.7 4.5	黒色頁岩 290	北東部 床面上11cm	分割礫素材。礫面残存。周縁から両面への求心的な剥片剥離を施し、円盤状を呈する。	
S18 159	敲石	17.4・7.8 4.4		94号溝	両端と両側縁に敲打痕を顕著に残す。	
S238 158	勾玉	3.9・1.7 1.7		掘り方埋没土中		

165号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図340

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1617	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (15.5cm) 高 4.0cm残	北東部 床面上3.0cm	①白色鉾物粒・石英砂・雲母を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	口縁部は大きく外反する。口縁部は横まで。	頸部は左回りの等間隔止簾状文を施文。	
1620 159	弥生土器 甕	底部一体部破片 底 (6.6cm) 高 2.7cm残	北壁際 床面上4.0cm	①白色鉾物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR4/1	底部から胴部に向かい立ち上がる外面は縦方向の磨き、内面は横方向の器面調整。		
1618 159	弥生土器 甕	体部破片	14ピット内 床面上2.0cm	①白色・夾雑鉾物粒を含む。 ②緩い。 ③明褐灰7.5YR7/2	口縁部は折り返し、内面は横まで、外面は器面荒れである。	折り返し口縁部部分には棒状工具による刻みがあり、ボタン状貼付文に円形刺突文が施文されている。下位に櫛描波状文がある。	
1619 159	弥生土器 壺	口縁部破片	8ピット北脇 床面上3.0cm	①微細砂であり黒色鉾物粒を含む。 ②良好。 ③淡赤橙2.5YR7/4	口縁部は受け口状を呈す。内外面とも横まで。	口縁部には櫛描波状文。	
1621 159	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③淡赤橙2.5YR7/4	口縁部は折り返しである。内面は横まで。	折り返し口縁部とその下位は櫛描波状文。	

165号住居出土遺物観察表《石器》 図340

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S567 159	スクレーパー	5.7・6.7 1.6	珪質頁岩 69.21	ピット10西脇	不定形剥片素材。礫面残存。一側縁に加工痕が認められる。	

158号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図343・344

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1347 159	弥生土器 甕	4/5残存 口 20.0cm 底 6.6cm 高 26.2cm	南東部 床面直上	①砂質土・白色・ 夾雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部上位に丸みをもつ。口縁部は大きく外反する。端部は押捺状を呈す。器面荒れは内外面ではげしい。	頸部は6条1単位の左回りの等間隔止簾状文を施文。胴部は羽状文。	
1345	弥生土器 甕	口縁部1/4残存 (12.0cm) 口 4.5cm残 高 4.5cm残	3ピット内 床面上6.5cm	①白色鉾物粒を多量に含む。 ②良好。 ③灰褐5YR4/2	頸部はくびれる。口縁部は受け口状を呈す。口縁端部は平坦。内外面とも横方向の器面調整。		
1344	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/5残存 口 (18.8cm) 高 13.0cm残	貯蔵穴内 床面上11.0cm	①砂質土であり夾雑鉾物粒・雲母を含む。 ②普通 ③灰褐5YR5/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は受け口状を呈す。内外面とも器面荒れしている。口縁部は横なで。外面胴部は縦方向の鈍磨き。	口縁部と頸部には櫛描波状文。頸部には左回りの等間隔止簾状文。	
1346 159	弥生土器 高杯	脚部 底 8.0cm 高 7.6cm残	2号炉内 床面上13.0cm	①白色鉾物粒と小礫を含む。 ②緩い。 ③橙5YR6/4	脚部は大きく開く。杯との接合部には突帯状に一段高まりがある。外面は縦方向の鈍磨き。裾は横なで。内面は横なで。		外面は赤色塗彩。
1343 159	弥生土器 甕	口縁部～体部 口 (17.6cm) 高 12.8cm残	8ピット南脇 床面上7.0cm	①白色鉾物粒・雲母を含む。 ②普通。 ③黄褐10YR5/6	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は受け口状を呈す。端部に刻み目。	口縁部と胴部は櫛描波状文。頸部は等間隔止簾状文。	
1349 159	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (15.2cm) 高 8.2cm残	南東部 床面上2.0cm	①白色・黒色・夾雑鉾物粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。口縁部は外反する。口縁端部は押捺状を呈す。口縁部内外面は横なで。	頸部には7条1単位櫛状工具により等間隔止簾状文が右回りに施文。胴部には羽状文。	
1348 159	弥生土器 甕	体部～底部 底 (7.4cm) 高 14.0cm残	貯蔵穴 床面上41.0cm	①砂質土で白色・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR5/2	胴部はわずかに丸みをもつ。内外面とも器面荒れが見られる。外面は縦、内面は横方向の器面調整。	胴部には櫛状工具による羽状文が認められる。	
1341	弥生土器 壺	口縁部～頸部 1/4残存 口 (20.2cm) 高 11.0cm残	北東部 床面上6.0cm	①砂質土であり、白色・黒色鉾物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	頸部は大きくくびれる。口縁部は立つ。内面は横方向の器面調整。外面は横方向の刷毛目。	口縁部には7条1単位の櫛描波状文がある。	
1342	弥生土器 甕	口縁部1/5 口 (26.0cm) 高 6.0cm残	南東部 床面上6.0cm	①白色・黒色・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰5YR7/2	頸部は大きくくびれる。口縁部は立つ。内面は横方向の器面調整。外面は横方向の刷毛目。	口縁部には7条1単位の櫛描波状文がある。頸部は右回りの2連止簾状文を施文。	
1340 159	弥生土器 甕	口縁部～体部 口 5.9cm 高 14.3cm残	南東部 床面上7.0cm	①白色・黒色鉾物粒・雲母を含む。 ②普通。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。外面胴部は縦方向の鈍磨き。外面口縁部と内面は横方向の器面調整。外面は器面が剥がれている。	肩部には櫛状工具による太目の櫛描波状文が施文され、頸部は5条1単位の簾状文が施文されていて櫛描波状文を切っている。	
1325 159	弥生土器 高杯	口縁部破片	南東部 床面上6.0cm	①小礫・雲母・輝石を含む。 ②普通。 ③灰白10YR8/2	口縁部は大きく外反する。口唇部は鶏冠状。内外面とも横なで。		内面は塗彩。

158号住居出土遺物観察表《弥生土器》

図344

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1321 159	弥生土器 甕	体部破片	貯蔵穴西 床面上9.0cm	①小礫を多量に含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	胴部上位は外反する。外面は縦 方向の篋磨き。内面は器面荒れ している。	上位より篋状工具により羽状 文。直下に棒状工具による横 線文と篋状工具による鋸歯文 の中を斜向沈線文で充填する。	
1322 159	弥生土器 壺	頸部破片	7ピット南脇 床面直上	①微細砂の中に砂 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白7.5YR8/2	外面は横方向の器面調整。内面 は縦方向の器面調整。	頸部に篋状文が一部確認でき る。直下に篋状工具による鋸 歯文に斜向沈線文を充填させ る。	
1323 159	弥生土器 甕	肩部破片	1号炉内 床面直上	①砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5Y 7/3	内面は横方向の器面調整。	頸部付近には櫛描波状文の下 位に横方向の器面調整による 横線文を入れ、篋状工具によ る斜向沈線文があり、鋸歯文 の中に充填される破片と考え られる。	
1324 159	弥生土器 甕	頸部破片	1号炉北脇 床面直上	①砂質土であり、 白色・黒色鉍物 粒・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③橙2.5YR6/6	外面は斜方向の器面調整。	棒状工具により鋸歯文を施文 後内に斜向沈線文を充填させ る。	
1326 159	弥生土器 壺	体部破片	南東壁際 床面直上	①白色鉍物粒を多 量に含む。 ②緩い。 ③浅黄橙7.5YR 8/3	胴部の最大幅部分と考えられ大 きく張る。内外面とも器面荒れ している。	棒状工具により沈線の直弧文 が入る。	わずかに塗 彩がある。
1327 159	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂であり、 わずかに夾雑鉍物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR5/2	頸部はくびれる。口縁部は外反 する。外面口縁部は横なで。内 面は器面荒れしている。	口唇部は棒状工具による刻み 目。頸部は右回りの等間隔止 篋状文。肩部に櫛描波状文。	
1328 159	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉍物 粒を含む。 ②普通。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部はわずかに受け口状を呈 し、横なで。	頸部は左回りの8条1単位の 等間隔止篋状文。	
1329 159	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①微細砂に白色鉍 物粒を僅かに含む。 ②良好。 ③橙5YR6/6	横方向の器面調整。	篋状工具による横線文を基線 とした鋸歯文がある。	
1330 159	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①砂粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白7.5YR8/2	口縁部は受け口状を呈す。	口縁部には8条1単位の櫛描 波状文。	
1331 159	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色鉍物粒を含 む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR6/1	内面に斜方向の器面調整。	沈線による横線文間に列点文 を施し、下位に縄文がある。	
1332 159	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉍物粒・石 英砂・輝石を含む。 ②普通 ③にぶい橙5YR 6/6	胴部は大きく張る。内面は横な で。	肩部には櫛描波状文、胴部上 位には羽状文がある。	
1333 159	弥生土器 甕	肩部破片	埋没土中	①砂粒・輝石・小 石を少量含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5Y R6/4	内面は横方向の器面調整。	8条1単位の櫛描波状文の上 に、ボタン状貼付文を施文。	
1334 159	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉍物 粒・輝石を少量含 む。 ②良好。 ③褐灰10YR6/1	口縁部は外反し、横なでされて いる。	口唇部と口縁部付近には縄文。 頸部は左回りの等間隔止篋状 文。	

158号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図344

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1335 159	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①石英砂と小石を含む。 ②普通。 ③灰赤2.5YR4/2	頸部はくびれる。口縁部は内外面とも横なで。	頸部は左回りの5条1単位の等間隔止簾状文。肩部は櫛描波状文。	
1336 159	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR5/2	頸部はくびれる。内面は横方向の器面調整。	頸部には5条1単位の等間隔止簾状文があり上下位には櫛描波状文。	
1337 159	弥生土器 土製円盤	半欠	埋没土中	①白色鉱物粒を多量に含む。 ②普通。 ③灰白10YR8/2	甕胴部の破片による土製円盤の破片と考えられる。		
1338 159	弥生土器 土製品	半欠	埋没土中	①夾雑鉱物粒・砂粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR7/3	甕胴部の破片である。	沈線が1本残る。	
1339 159	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①小石・石英砂・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙7.5YR8/3	胴部の下半部の破片と考えられる。外面は斜方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。	甕状工具による縦方向の沈線文。	

158号住居出土遺物観察表《石器》 図344・345

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S552 159	スクレーパー	2.85・5.4 1.05	珪質頁岩 16.87	埋没土中	横長剥片素材。打面縁部及び端縁に加工痕が認められる。	
S629 159	磨製石鏃	2.5・1.25 0.2	珪質準片岩 0.80	床面上7cm	凹基無茎。表裏両面の周縁部分に稜がある。基部の穿孔は1孔で両袂であるが、表面に失敗した穿孔が認められる。先端を僅か、基部の一部を欠損。	
S553 160	有茎石鏃	3.1・2.1 6.5	黒色頁岩 3.73	埋没土中	有茎で基部は挿入せずに茎部に続く。茎部を欠損している。	
S554 159	スクレーパー	3.6・2.15 4.5	ホルンフェルス 4.65	埋没土中	縦長剥片素材。表裏両面の両側縁に加工痕が認められる。	
S558 160	敲石	8.7・5.75 1.5	砂岩 133.13	貯蔵穴脇 床面上3cm	長方体の形状で、四角に敲打による剥離面を残す。	
S550 159	石核	4.55・4.3 1.7	黒色頁岩 37.00	埋没土中	剥片素材。礫面残存。周縁から両面への求心的な剥片剥離を施す。	
S547 159	石核	6.6・5.7 3.1	黒色頁岩 120.13	南西部 床面直上	剥片素材。礫面残存。周縁から両面への求心的な剥片剥離を施す。	
S548 159	スクレーパー	4.25・7.1 1.1	黒色頁岩 24.27	貯蔵穴脇 床面上13cm	縦長剥片素材。礫面残存。両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S546 159	スクレーパー	7.5・3.9 1.3	黒色頁岩 60.18	床面上5cm	横長剥片素材。表裏両面の端縁及び両側縁に加工痕が認められる。	
S557 160	砥石?	15.3・11.8 5.1	粗粒安山岩 1275	ビット5東脇 床面上11cm	一面に剥離面を残す。ほぼ全面に煤が付着している。	
S539 160	敲・磨石	8.65・10.75 8.2	変質安山岩 1063	南東部	表面に磨り面及び僅かな敲打痕を残す。	
S556 160	敲石	20.7・20.6 5.1	粗粒安山岩 3363	南東部 床面上13cm	周縁に僅かに敲打痕を残す。	

159号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図348

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1588	弥生土器 壺	底部 底 6.0cm 高 2.9cm残	12ビット脇 床面直上	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや軟質。 ③赤10R5/8	外面底部以外は塗彩。		

159号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図348

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1593 160	弥生土器 甕	体部破片	12ピット脇 床面直上	①雲母・輝石を含む。 ②普通。 ③黒褐5YR3/1	肩部は丸みをもつ。外面は横方向の胴部が残り、内面は縦方向の寛磨きと斜方向の寛磨き。	外面頸部は深く、胴部は浅い櫛描波状文。	
1587 160	弥生土器 壺	口縁部～頸部 口 (19.5cm) 高 5.2cm残	12ピット内 床面上3.0cm	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②普通。 ③にぶい橙5YR7/3	頸部は大きくくびれる。口縁部は外反しながら、わずかに立ち上がる。口縁部は横なで。頸部は櫛状工具により器面調整。		
1589	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (18.3cm) 高 6.4cm残	西周溝付近 床面上6.0cm	①白色鉱物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	口縁部は外反。内外面とも横方向の器面調整。	縄文。	
1585 160	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/4残存 口 (12.0cm) 高 7.5cm残	南東部 床面上21.0cm	①白色鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰7.5YR4/1	胴部はわずかに内湾し、頸部はややくびれる。口縁部は器面荒れしている。内面と外面口縁部は横方向の器面調整。	頸部～胴部にかけて、4～5条1単位の櫛描波状文と櫛状工具で垂下文を施文する。口縁部は縄文。	
1591 160	弥生土器 壺	体部破片	南東部 床面上8.0cm	①白色鉱物粒を多量に含む。 ②緩い。 ③褐灰5YR4/1	胴部は丸みをもつ。内面は横方向の器面調整。	胴部には棒状工具による平行沈線文が4本確認できる。このうち1つの平行沈線文の間に縄文がある。	
1590 160	弥生土器 壺	頸部破片	9ピット脇 床面上9.0cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/1	頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。外面は斜方向の器面調整。	頸部は凸帯状文様帯に縄文を施文。	
1592 160	弥生土器 壺	破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR7/1	胴部最大幅部分の破片であり丸みをもつ。内面は横方向のなで。	胴部には棒状工具による連弧文の間に縄文を施文。	

160号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図351

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1596 160	土師器 小形器台	器台器受部 口 6.6cm 高 1.9cm残	南西部 床面上3.0cm	①細砂を含む。赤色土粒子が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部が丸く内湾する小形の器受部。中央に直径1cmの円孔があいている。内面は丁寧な磨き。外面はなで。	
1594 160	土師器 器台	脚部のみ残存 底 7.2cm 高 5.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。白色土粒子・赤色土粒子を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外方へ開く短い脚部。直径2cmの円孔が脚部上位にあく。外面縦方向なで器受部につづく。くびれ部は横方向になでられている。内面はなで調整。内面端部は粘土痕が残る。内孔内面は寛げずり。	
1595 160	土師器 壺	体部破片	北西隅 床面上16.0cm	①微細砂・砂粒を含む。白色鉱物細粒が目立つ。 ②硬質。 ③赤橙10R6/6	浅井分類E類のバレススタイルの壺の破片。斜方向の刷毛目を施した後、細かい櫛状工具による山形文と、やや太い櫛状工具による列点文が1条施されている。山形文帯と列点文帯の間は、器面調整の同一工具で、直線文帯が形成されている。列点文帯より下位は赤色塗彩。内面寛なで。	

160号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図351

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2256	弥生土器 注口土器	底部 底 3.3cm 高 2.7cm残	2ピット東脇 床面上29.0cm	①白色・黒色鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/3	平坦な底部から胴部に向かい立ちあがる。注口部分は底部からわずかな所で付けられており、注口径部までの高さは約1.5cmである。注口は円形であり外面から穿孔している。内外面とも多方向に器面調整。		注口径0.5cm。

160号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図351

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1598 160	弥生土器 甕	口縁部破片	北東部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 6/3	頸部から口縁部にかけて大きく 外反する。口縁部付近は立ち あがる。外面頸部は縦方向の鏡 磨き。内面は横方向の器面調整。	口縁部は櫛描波状文。	
1599 160	弥生土器 壺	頸部破片	7ピット南 床面直上	①砂質土であり、 白色鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 6/3	頸部はくびれる。口縁部に向か い大きく外反する。外面は縦方 向の鏡磨き。内面は横方向の器 面調整。	頸部には右回りの2連止簾状 文。	
1597 160	弥生土器 高杯	口縁部破片	北西部 床面上4.0cm	①白色の小石・砂 粒・輝石を含む。 ②良好。 ③赤10R6/6	口縁部は内湾しながら立ち上が る。外面は斜方向の器面調整。 内面は横方向の器面調整。		内外面とも 塗彩。

160号住居出土遺物観察表《石器》 図351

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S562 160	敲石	8.2・3.3 1.1	黒色片岩 50.34	南東部 床面上12cm	両端に敲打による剥離面を残す。	

161号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図352

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1600	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (12.3cm) 高 1.6cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰褐5YR4/2	口縁部内外面横まで。刷毛目(7本/1cm)。	
1601	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (12.0cm) 高 1.8cm残	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	内外面横まで。	

161号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図352

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1602 160	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①黒色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部にわずかに丸みをもつ。	櫛描波状文。	

162号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図354

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1603	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (8.2cm) 底 7.3cm残	北西部 床面上9.0cm	①微細砂であり、 白色と夾雑鉱物粒 を少量含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	わずかに外へ開きながら立ち上 がり、口縁部付近で僅かに内湾 する。口縁付近と内面は横まで、 外面体部は縦方向の鏡磨き。		
1607 160	弥生土器 甕	頸部破片	北東部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒と白色の小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	頸部はわずかにくびれる。内外 面とも器面荒れている。	頸部は簾状文。下位に櫛描波 状文。	
1604 160	弥生土器 甕	頸部破片	2ピット内 床面上4.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	頸部はわずかにくびれる。外面 は縦、内面は横方向の器面調整。	7条1単位の櫛描波状文。	

162号住居出土遺物観察表〈弥生土器〉 図354

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1605 160	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①砂質土であり、 石英砂・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部はわずかに外反する。口 縁部は折り返しである。外面は 斜、内面は横方向の器面調整。	折り返し口縁部には刻み目が 入る。	
1606 160	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①夾雑鉱物粒・砂 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。	口唇部は端部に刻み目。	

162号住居出土遺物観察表〈石器〉 図354

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S563 161	石核	5.4 ・ 4.85 1.7	黒色頁岩 71.41	北西部 床面上2cm	剥片素材。礫面残存。周縁から両面への求心的な剥片剥離を施す。	

163号住居出土遺物観察表〈弥生土器〉 図355

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1608 161	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (18.0cm) 高 10.0cm残	北東隅 床面直上	①白色鉱物粒・雲 母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 6/3	頸部は大きくくびれ、口縁部は 大きく外反する。外面は縦方向 に刷毛目調整や艶磨き。内面は 横方向の器面調整。	頸部には8条1単位の等間隔 止簾状文が右回りに施文され ている。	
1609	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (20.2cm) 高 8.5cm残	北東隅 床面直上	①石英砂や夾雑鉱 物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	頸部はくびれる。口縁部は大き く外反する。内外面とも器面荒 れがはげしいが横方向の器面調 整。	頸部は6条1単位の等間隔止 簾状文。	
1610	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (15.0cm) 高 7.0cm残	北西部 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	口縁部に向かい大きく外反する。 端部付近で立ち上がる。内外面 とも刷毛目調整。		
1611 160	弥生土器 高杯	口縁部破片	北東隅 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③褐灰10YR6/1	口縁部は鶏冠状を呈し、内外面 とも横なで。		
1613 160	弥生土器 壺	頸部破片	北西部 床面直上	①微細砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	頸部は大きくくびれ、口縁部に 向かい大きく外反する。内外面 とも器面荒れしている。	頸部には右回りの簾状文。	
1612 160	弥生土器 甕	体部破片	北東隅 床面上4.0cm	①白色鉱物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③褐灰7.5YR4/1	胴部はわずかに丸みをもつ。内 面は横方向の器面調整。	胴部に櫛描波状文。	

164号住居出土遺物観察表〈弥生土器〉 図356

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1614 161	弥生土器 甕	体部破片	北東部 床面上20.0cm	①石英砂・小礫を 含む。 ②普通。 ③灰白10YR8/2	胴部はわずかに丸みもち内外 面とも横方向の器面調整。	4条1単位の櫛描波状文。	
1615 161	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・石 英砂を含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部は外反し、内外面とも横 なで、口縁端部に刻み目。		

164号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図356

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1616 161	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色鉾物粒を多量に含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	胴部はわずかに丸みを持ち、口縁部は外反する。外面は器面荒れ、内面は横方向の器面調整。	頸部は8条1単位の左回りの等間隔止簾状文。肩部から胴部には櫛描波状文。	

164号住居出土遺物観察表《石器》 図356

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S564 161	スクレーパー	4.5・6.0 0.9	砂岩 29.73	床面直上	不定形剥片素材。礫面残存。礫面打面。両側縁に加工痕が認められる。	
S565 161	スクレーパー	7.9・5.7 2.1	黒色頁岩 75.64	北西部 床面上4cm	横長剥片素材。両側縁の一部及び端縁に加工痕が認められる。	
S566 161	敲石	8.3・4.35 1.9	砂岩 83.43	埋没土中	一端に敲打による剝離面を残す。表面のはほぼ中央に敲打痕を残す。	

166号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図361・362

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1625	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (12.2cm) 高 4.6cm残	北東部 床面直上	①小石・夾雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	頸部はくびれる。口縁部は外反。内面は横方向の器面調整。	口縁部から胴部にかけて櫛描波状文。口唇部はボタン状貼付文を施し、円形刺突文がある。	
1626	弥生土器 甕	口縁部一部 残存 口 (11.2cm) 高 6.7cm残	南東壁際 床面直上	①白色鉾物粒・石英砂・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR6/2	頸部はくびれる。口縁部は外反。外面口縁部は横なで。内面は横方向の器面調整。	頸部は2連止右回り簾状文、下位に櫛描波状文。	
1623 161	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 (7.6cm) 高 8.3cm残	南壁際 床面上7cm	①砂粒である。 ②やや緩い。 ③赤7.5R4/6	杯部は直線的でわずかに開く、外面は縦方向の磨き。内面は横方向の器面調整。杯部内面、脚部外面には塗彩。脚部内面には塗彩がわずかに付着。		
1807	弥生土器 甕	底部一部 残存 底 4.5cm 高 6.5cm残	埋没土中	①白色の小礫と夾雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/6	底部は肥厚。穴は下から穿つ。外面は斜方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。器面荒れがはげしい。		
1622 161	弥生土器 甕	口縁部一部 残存 口 (10.0cm) 高 6.7cm残	埋没土中	①白色鉾物粒・小礫を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面上半部は4段の輪積みを残す。内面は横なでが行われ器面調整が行われている。	口唇部は刻み目、輪積み部には櫛描波状文。	
1630	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (9.8cm) 高 3.4残	埋没土中	①白色鉾物粒・雲母を少量含む。 ②良好。 ③橙5YR6/4	頸部はくびれる。口縁部は外反し横なで。	頸部は8条1単位の2連止右回り簾状文。	
1624	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (14.0cm) 高 3.8残	埋没土中	①白色・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③暗灰黄2.5Y5/2	口縁部は外反。内面は横なで。器面荒れがはげしい。	口縁部の一部に櫛描波状文が残り頸部は簾状文。	
1813 161	土製品 勾玉	完形 高 3.4cm 巾 1.5cm 厚 2.2cm	北西部 床面直上	①白色鉾物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③黄灰2.5YR5/1	孔は大きく、やや外部にずれる。器面荒れしている。		
1763 161	土製品 紡錘車	1/3残存 径 4.2cm 厚 2.1cm	埋没土中	①石英砂・黒色鉾物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/3	一面は平坦で他面はわずかに丸みをもつ、中心部に円形孔を穿つ。	両面に細い刺突文がある。	

166号住居出土遺物観察表《弥生土器》

図362

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1811 161	弥生土器 甕	体部破片	炉西脇 床面直上	①砂粒・白色・夾 雑鉍物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	胴部はわずかに丸みをもち、外 面は斜方向の器面調整と縦方向 の磨き。	櫛描波状文が数段みられる。	
1627 161	弥生土器 甕	頸部破片	北西部 床面上2.0cm	①砂粒の中に小石 を少量含む。 ②普通。 ③浅黄橙10YR8/3	頸部はくびれる。内面は横方向 の器面調整。	頸部は2連し右回りの簾状文。 肩部には7条1単位の櫛描波 状文が充填される。	
1629 161	弥生土器 甕	体部破片	南西壁際 床面上1.5cm	①砂粒であり、石 英砂を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	胴部はわずかに丸みをもち、外 面胴部中位は斜方向の刷毛目、 下部は縦、内面は横方向の器面 調整。	胴上半には櫛描波状文があり 下位にボタン状貼付文。	
1628 161	弥生土器 甕	体部破片	北西部 床面上2.0cm	①砂粒であり白色 鉍物粒を多量に含 む。 ②普通。 ③褐灰10YR6/1	頸部はわずかにくびれる。内面 は横方向の器面調整。	頸部は2連しによる右回りの 簾状文、下位に櫛描波状文。	
1812 161	弥生土器 甕	体部上半破片	北西部 床面上11.0cm	①白色・夾雑鉍物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	わずかに内湾、内外面とも斜方 向の器面調整。	頸部に右回りの簾状文。	
1631 161	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉍物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部は折り返し、口唇部は棒 状工具による刻み目。内面は横 方向の器面調整、全体に器面荒 れしている。	下位は沈線による鋸歯文内に 斜向沈線文により充填する。	

166号住居出土遺物観察表《石器》

図362

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S571 160	石錘	5.5・4.0 0.8	雲母石英片岩 31.57	埋没土中	一端を欠損する。	
S631 160	打製石鏃	2.45・1.5 0.5	チャート 1.34	南東部 床面上13cm	無茎で基部の抉入が浅い。	
S630 160	打製石鏃	2.05・1.5 0.4	流紋岩 0.79	埋没土中	有茎で基部に抉入がある。基部を欠損している。	
S570 161	敲石	9.7・4.6 3.8	砂岩 240	南西部 床面上8cm	一端に敲打痕、両側縁の相対する部分にくびれを作り出すように敲 打による剝離痕が認められる。	

167号住居出土遺物観察表《弥生土器》

図365

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1635	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (14.2cm) 高 10.3cm残	北西部 床面直上	①砂質土であり、 白色・夾雑鉍物 粒・輝石を含む。 ②普通。 ③灰褐5YR5/2	胴部は丸みをもつ、頸部はくび れる、口縁部は外反する。内外 面は横方向の器面調整。	口唇部は端部に刻み目。頸部 には6条1単位の左回り等間 隔止簾状文。肩部に1単位の 櫛描波状文、肩部から胴部 には櫛状工具による羽状文。	
1636 161	弥生土器 甕	口縁部1/4 口 (12.4cm) 高 3.5cm残	中央部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鉍物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	頸部はくびれる。口縁部は外反 する。内面は横なで。	口縁部には2段の櫛描波状文、 頸部は2連し右回りの簾状文 が施文されている。	

167号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図365・366

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1637	弥生土器 壺	口縁部破片 口 14.6cm 高 5.4cm残	北西部 床面直上	①砂質土であり、 黒色・夾雑鈳物粒 を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。外面 口縁部と内面は横なで。外面頸 部から口縁部にかけては斜方向 の器面調整。		
1638	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (19.0cm) 高 4.4cm残	北西部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③橙2.5YR6/6	口縁部は外反し、端部付近でわ ずかに受け口状になる。内外面 とも横なで。	頸部の右回りの等間隔止簾状 文。	
1808	弥生土器 台付甕	脚一部残 高 3.0cm残	南西部 床面直上	①白色鈳物粒と小 礫を多量に含む。 ②良好。 ③橙2.5YR6/8	脚部と甕の接合部分であり、く びれる。外面は刷毛目が縦方向 につく、甕部内面は篋状工具に より横方向の器面調整。		
1634 161	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/2残存 口 11.7cm 高 8.0cm	南西部 床面上8.0cm	①白色・夾雑鈳物 粒・輝石を含む。 ②普通。 ③灰黄褐10YR5/2	胴部は丸みをもつ、頸部はくび れる。口縁部は外反する、内外 面は横方向の器面調整が主であ る。外面に炭素付着がある。	頸部は左回り7条1単位の等 間隔止簾状文。	
1810	弥生土器 壺	頸部破片 高 4.8cm残	南西部 床面上8.0cm	①白色・夾雑鈳物 粒と石英を少量含 む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄褐 10YR5/3	頸部は大きくくびれ、口縁部に 向かい大きく外反する。内外面 は横なで。	平行沈線文が3条あり、最下 位の沈線文より上位に細縄文 がある。	
1633 161	弥生土器 甕	口縁部～体部 上位1/3残存 口 (18.0cm) 高 10.5cm残	南西壁際 床面上12.0cm	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	胴部はわずかに丸みをもち、頸 部はくびれる、口縁は外反する。 外面胴部と内面は横方向の器面 調整。外面口縁部は斜方向の器 面調整、口唇部は横なで。	頸部は6条1単位の左回り等 間隔止簾状文、上下に1単位 づつ櫛描波状文。	
1809	弥生土器 甕	底部のみ 底 7.4cm 高 3.2cm残	北東部 床面上30.0cm	①砂質土であり白 色・黒色・夾雑鈳 物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部に向かい立ち上がる。外面、 底面付近は縦方向の篋磨き。内 面は器面荒れしている。		
1646 161	土製 紡錘車	1/2 径 5.2cm 厚 0.8cm	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	円盤状の形状を呈す。表面には 調整痕が残る。中央孔の状況は 残存状況からみて円形と推定さ れる。		
1640 162	弥生土器 甕	体部破片	北西部 床面上3.0cm	①白色鈳物粒・石 英砂を含む。 ②普通。 ③灰白2.5YR8/2	胴部上位はわずかに丸みをもち 外面は多方向に器面調整。内面 は横方向の篋磨き。	外面は櫛描波状文。	
1641 162	弥生土器 甕	頸部破片	南西部 床面上5.0cm	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/2	頸部は大きくくびれる。外面は 斜、内面は横方向の器面調整。	頸部は右回り等間隔止簾状文。	
1639 162	弥生土器 甕	頸部破片	南西壁際 床面上46.0cm	①白色・夾雑鈳物 粒を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	頸部はわずかに外反する。内面 は横なで。	11条1単位の右回りの等間隔 止簾状文が2段施文。下位に 縄文が認められる。	
1643 162	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	口縁部は折り返しである。内外 面とも横なで。	折り返し口縁は刻み目が入る。	

167号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図366

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1644 162	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色鉾物 粒・石英砂・小礫 を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁は大きく外反する。外面は 斜方向の器面調整、内面は横方 向の器面調整。	口縁部は櫛描波状文。	
1642 162	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部はくびれる。内面は横なで。	頸部は櫛描波状文、直下に棒 状工具による鋸歯文を描き、 内に櫛状工具による斜向沈線 文を充填する。	
1647 162	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉾物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部上半はわずかに外反をはじ める。	頸部よりは櫛描波状文、直下 に棒状工具による横線文を入 れ下位に鋸歯文を描き、中に 斜向沈線を充填する。	
1645 162	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰色7.5Y8/1	頸部はくびれる。外面は斜方向 の器面調整。	頸部は右回り簾状文、直下に 棒状工具による鋸歯文を描き、 斜向沈線を充填する。	

167号住居出土遺物観察表《石器》 図366

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S572 162	打製石斧	5.15・4.4 1.8	細粒安山岩 52.50	埋没土中	刃部を欠損している。礫面残存。形状は短冊形か楕形。	
S575 162	砥石	5.4・3.8 1.55	砂岩 38.44	埋没土中	一面を研ぎ面としたのか、線状痕を残す。一端を欠損している。	
S632	磨製石礫未 製品	2.4・2.1 1.5	珪質準片岩 1.09	床面上5.5cm	粗割の段階であるが、すでに形状を意識している。	
S574	磨製石礫未 製品	3.8・1.65 3.5	珪質準片岩 3.01	埋没土中	粗割の段階であるが、すでに形状を意識している。	
S573 162	敲石	7.8・6.65 3.6	粗粒安山岩 265	埋没土中	一端に敲打痕と敲打による一枚の剝離面を残す。半分欠損している。	

168号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図368

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1649 162	弥生土器 高杯	脚部2/3残存 底 6.3cm 高 6.1cm残	ピット東 埋没土中	①白色・夾雑鉾物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③明褐7.5YR5/6	脚部は直線状に裾に向かい開く。 裾端部は平坦、外部は縦方向の 器面調整。脚部は器面荒れがは げしい。杯部内面底部は鈍磨き。		
1650 162	弥生土器 小形甕	口縁部破片	床面直上	①白色・夾雑鉾物 粒を少量含む。 ②良好。 ③橙2.5YR7/6	口縁部はわずかに内湾する。内 面は横なで。	口縁部は櫛描波状文。	
1656 162	弥生土器 甕	口縁部～頸部 破片	北西部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒を少量含 む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部はわずかにくびれる。口縁 に向かい外反し、端部付近で立 つ、外面は縦方向の器面調整。 内面は器面荒れしている。	口縁部と頸部は櫛描波状文。	
1658 162	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	南西部 床面直上	①白色・夾雑鉾物 粒・雲母を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/1	肩部はわずかに丸みをもつ。内 面は横方向の器面調整。	頸部は2連し右回りの簾状文。 肩部は3段の櫛描波状文がみ られる。	

168号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図368

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1653 162	弥生土器 甕	口縁部破片	7ピット内 底面上43.0cm	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は折り返しである。内外 面とも横なで。	折り返し部分は櫛状工具によ る刻み目。	
1652 162	弥生土器 甕	体部破片	ピット東 埋没土中	①白色小石・夾雑 鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ。胴部下半部 は縦方向の器面調整。内面は横 方向の器面調整。	胴部は櫛描波状文。	
1651 162	弥生土器 壺	頸部破片	8ピット 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	頸部はくびれる。頸部から口縁 部にかけては、縦方向の器面調 整。	頸部は2連止による右回りの 簾状文。	
1659 162	弥生土器 甕	頸部破片	南東壁際 床面上17.0cm	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	頸部はわずかにくびれる。内面 は横なで。	胴部上位には2段の櫛描波状 文を確認。	
1655 162	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂であり白 色鈳物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐 5YR5/3	口縁部は折り返しである。内外 面とも横なで。	口縁部刻み目。	
1657 162	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鈳物粒・石 英砂を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/3	口縁部は折り返しである。口縁 部内面は横なで。	口縁部は端部に刻み目。	内面に塗彩。
1654 162	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙7.5YR 8/3	口縁部は2段の折り返しである。 内面は横なで。	口縁部の折り返し部分は棒状 工具による刻み目。	

168号住居出土遺物観察表《石器》 図368

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S577 162	磨製石鏃未 製品	2.6・1.95 0.55	珪質準片岩 2.98	埋没土中	分割工程の資料である。	
S576 162	砥石	5.2・5.7 1.3	砂岩 42.14	ピット1西脇	四面を研ぎ面としている。一端を欠損している。	

171A号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図372

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1716 162	弥生土器 高杯	脚部 底 4.4cm 高 4.2cm残	南西部 床面上2.0cm	①白色・黒色鈳物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③橙5YR6/6	脚部は直線状に開き、裾部で開 きが大きくなる。内外面とも縦 方向の器面調整。		
1714 163	弥生土器 甕	体部 高 6.8cm残	北西壁際 床面直上	①夾雑鈳物粒・小 礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい赤褐5YR 4/6	胴部は丸みをもつ、頸部はくび れる。口縁部は外反する。頸部 から口縁部にかけては縦方向の 器面調整、内面は横と斜方向 磨き。	頸部には2連止右回りの簾状 文、肩部には2段の櫛描波状 文。	
1707 163	弥生土器 甕	底部残存 底 8.4cm 高 6.4cm残	南東部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい赤褐5YR 5/4	胴部に向かいわずかに丸みをも ち立ち上がる。外面は縦方向の 器面調整、内面は縦方向の器面 調整。		内面黒7.5 YR2/1

171A号住居出土遺物観察表〈弥生土器〉 図372・373

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1710 163	弥生土器 壺	体部下位1/2 底 15.7cm 高 25.5cm残	東壁際 床面直上	①砂質土である。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	大形壺であり、底部から胴部にかけて大きく張る。外面は縦方向の器面調整。	内面は器面荒れしている。	
1706 163	弥生土器 高杯	脚部 底 (16.2cm) 高 15.6cm残	北西部 床面直上	①黒色・夾雑鉱物 粒・小礫・骨片を 含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	くびれ部から裾に向かい直線状に広がる。脚部端部は平坦、外面は縦方向の磨き、内面横方向の器面調整。		外面塗彩。
1705 163	弥生土器 甕	体部上位～底部 底 8.4cm 高 21.5cm	南東部 床面上2.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③褐灰5YR5/1	胴部は大きく張る。外面は縦方向の器面調整が主であるが、胴部最大幅部に横方向の器面調整、縦方向の器面調整は輪積線に沿って割れている。		
1735 1736 163	弥生土器 甕	体部～底部 4/5 口 15.8cm 底 6.2cm 高 21.6cm?	南東部 床面上5.0cm *1736は 171B号住居 南東部床面上 3cmで出土し た。	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は外反する。内外面とも横方向の器面調整が認められるが器面荒れしている。内面には輪積痕がある。	頸部には2連止右回りの簾状文、胴部と口縁部には櫛描波状文。	体部中央付近が欠損しており上下がつながらないが同一個体と考えられるので図上復元した。
1704 162	弥生土器 甕	体部～底部 底 7.0cm 高 10.5cm	南東隅 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③褐7.5YR4/3	胴部は丸みをもつ、外面は縦方向の器面調整、内面は横方向の器面調整。		
1708 162	弥生土器 甕	体部～底部 底 11.8cm 高 26.9cm残	南東隅 床面上5.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③明赤褐5YR5/6	胴部は大きく張る。外面胴部最大幅より上位と内面は横方向の器面調整、外面胴部最大幅下位は縦方向の器面調整。	胴部上半部に櫛描波状文。	
1703 162	弥生土器 甕	口縁部～頸部 口 14.3cm 高 11.0cm残	南東部 床面上3.0cm	①白色・黒色鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③明赤褐5YR5/6	胴部に最大径があり丸みをもつ。頸部はくびれる、口縁部は外反する。内外面とも器面荒れ、外面には一部横方向の器面調整がみられる。	頸部には2連止による右回りの簾状文、下位に2段の櫛描波状文がある。この文様間を簾状文止部に斜向沈線文2本を施したボタン状貼付文がある。また口縁部にボタン状貼付文がある。	
1709	弥生土器 甕	体部破片 高 14.2cm残	南東隅 床面上8.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③橙5YR6/6	胴部は大きく張る。	胴部上半部に7条1単位の櫛描波状文が4段確認できる。	
1711 163	弥生土器 高杯	脚部 底 (8.3cm) 高 6.0cm残	南西部 床面上10.0cm	①白色・黒色鉱物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③橙 2.5YR6/6 塗 彩に赤7.5R4/8	脚部は裾に向かい大きく開く、杯部は内湾しながら外方へ立ちあがる。脚部外面は縦方向の磨き、内面は横方向の器面調整 脚部内面を除き塗彩。		赤色塗彩。
1715 162	弥生土器 高杯	脚部 底 5.0cm 高 4.2cm残	南西部 床面上9.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙2.5YR7/6	脚部は直線状に開く、裾端部は平坦、外面は縦方向の磨き、内面は横方向の器面調整。		
1717	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (16.0cm) 高 3.3cm残	北東部 床面直上	①白色鉱物粒・砂 質土を含む。 ②良好。 ③橙5YR6/8	口縁部はわずかに外反、外面に輪積痕を残す。内外面とも横なで。	口唇部は縄文を施文。	

171 A 号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図373

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1712 163	弥生土器 甕	肩部破片	北東部 床面直上	①白色鉾物粒・石 英砂・小礫を含む。 ②良好。 ③浅黄橙7.5YR 8/3	胴部から頸部に向かい くびれる。内外面とも横 方向の器面調整。	頸部には2連止右回りの 簾状文。肩部には4段の 櫛描波状文。	
1719 163	弥生土器 壺	頸部破片	南東部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/1	頸部は大きくくびれる。 外面は斜方向の器面調 整、内面は横方向の器 面調整。	頸部には櫛描丁字文。	
1720 163	弥生土器 壺	口縁部破片	南東部 床面上6.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙5YR 7/4	口縁部は外反し、口縁 部付近でわずかに受け 口状になる。内外面とも 横なで。	口縁部は櫛描波状文。	
1713 163	弥生土器 壺	口縁部破片	南西部 床面上8.0cm	①白色・黒色鉾物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙2.5YR6/6	口縁部は大きく外反す る。外面は縦方向の器 面調整、内面は横方向 の器面調整。	頸部には櫛描丁字文。	
1718 163	弥生土器 甕	頸部～胴部 にかけて破片	北西壁際 床面直上	①白色・黒色鉾物 粒・輝石・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	頸部は丸みをもつ。口 縁部は外反する。外面 胴部と内面は横方向の 器面調整。外面頸部は 斜方向の器面調整。	頸部から胴部に1単位 8条の櫛描波状文が4 段ある。	

171 A 号住居出土遺物観察表《石器》 図373

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S587 163	敲石	13.5・10.2 5.0	粗粒安山岩 950	南西部 床面上3cm	両端と表裏両面に敲打 痕を顕著に残す。	
S591 163	敲石	11.4・5.6 3.4	粗粒安山岩 325	南西部 床面上4cm	一端を欠損している。 一端に敲打による剥離 面が認められる。裏面 に煤が付着している。	
S588 163	敲石	13.7・11.4 6.0	粗粒安山岩 805	南西部 床面上9cm	一面に敲打痕を残す。	
S586 163	敲石	12.0・3.1 1.55	黒色片岩 0.83	東壁際 床面上8cm	左半分を欠損している。 一側縁に敲打による剥 離面が認められる。	

171 A 号住居出土遺物観察表《木器》 図370

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ (cm)	出土位置	木 取 り 樹 種	遺存状態	加工形状の特徴	備 考
W813 162	柱 材	12.0×14.5×7.0	P.4内	板状? オニグルミ	基部のみが残存	厚板材の可能性があり、 基部は斜に切りおとさ れている。他端と周囲 は腐食がはげしく、欠 損部分が多い。	
W1096 162	柱 材	20.7+α×18.0×15.0	P.3内	芯 持 ク リ	基部のみが残存	基部は平坦に切られて いる。他端は腐食し欠 損している。	

171 B 号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図377

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1739	弥生土器 高杯	杯部破片 口 (18.4cm) 高 4.8cm残	1号炉内 使用面直上	①白色・黒色・夾 雑鉾物粒・小礫を 含む。 ②緩い。 ③外面暗赤7.5R 3/6 内面にぶい 橙7.5YR7/4	口縁部に向かい開き、 口縁端部は大きく外反 する。端部平坦、内面 は器面荒れ、外面は横 なで、内外面とも塗彩 であるが、内面はほと んど残っていない。		

171B号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図377

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1741 1742 164	弥生土器 壺	体部 高 9.5cm残	南西部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	胴部は丸みをもつ。外面は縦方 向の器面調整、内面は斜方向の 器面調整。		1741と1742 は図上復元。
1721	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (15.5cm) 高 3.7cm残	2号炉南脇 床面上2cm	①白色・夾雑鈳物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。端部 平坦。内外面とも横なで。	口縁部は櫛描波状文。頸部は 右回り等間隔止簾状文。	
1738 163	弥生土器 高杯	脚部 底 11.5cm 高 6.2cm残	南周溝外 床面上2cm	①雲母、黒色・夾 雑鈳物粒・小礫・ 輝石を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙10YR 7/2	脚部は大きく開く端部平坦、外 面は横方向の器面調整と縦方向 の匏磨きがある。内面は横方向 の匏磨き、杯部の内面底部は器 面荒れ、外面と杯部内面は塗彩、 脚部内面は僅かに塗彩。		赤色塗彩。
1737 164	弥生土器 高杯	脚部 底 (8.6cm) 高 7.3cm残	南西周溝外 床面上3cm	①白色・夾雑鈳物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 6/4	脚部は裾に向かい大きく開く、 端部平坦、外面は器面荒れして いるが、縦方向の匏磨きがみら れる。内面は横方向の器面調整、 杯部内面底部は光沢がある。		
1740	弥生土器 小形台付 甕	口縁部～体部 の破片 口 (6.2cm) 高 4.8cm残	南西部 床面上2cm	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒・輝石を 含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2 外面暗赤褐2.5YR 3/3	胴部は上位に最大幅をもち、頸 部は大きくくびれる。口縁部は 外反する。口縁部と内面は横方 向の器面調整、外面胴部下位は 縦方向の匏磨き、最大幅部は横 方向の器面調整。	口縁部と頸部から胴部につけ ては櫛描波状文。口縁部と胴 部にボタン状貼付文。	
1743 164	弥生土器 高杯	脚部 底 6.0cm 高 5.2cm残	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②良好。 ③橙2.5YR7/8	脚部は裾に向かい大きく開く、 裾端部平坦。外面は縦方向の器 面調整、内面は横方向の器面調 整。		
1734	弥生土器 土製円盤	歪円形 長 4.4cm 巾 4.2cm 厚 0.7cm	埋没土中	①白色鈳物粒・石 英砂を含む。 ②やや緩い。 ③黄灰2.5YR4/1	土器からの転用であり、わずか に丸みをもち、匏磨きが残る。		
1722 164	弥生土器 甕	口縁部破片	3ビット 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒・石英砂 を含む。 ②やや緩い。 ③橙5YR6/6	口縁部は外反し、端部は折り返 し、折り返し口縁部と内面は横 なで。外面は縦方向の器面調整、 内外面とも器面荒れしている。		
1724 164	弥生土器 甕	口縁部破片	3ビット 埋没土中	①白色・夾雑鈳物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部は外反する。内外面とも 横方向の器面調整。	口縁部から頸部にかけて櫛描 波状文。	
1725 164	弥生土器 甕	体部破片	2ビット 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鈳物粒を含む。 ②普通。 ③灰白10YR7/1	胴部は丸みをもつ。内面は炭素 付着。	横方向に棒状工具平行沈線文 があり中間に2段の櫛描波状 文。	
1723 164	弥生土器 甕	体部破片	8ビット 埋没土中	①黒色・夾雑鈳物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	肩部付近わずかに丸みをもち、 外面は斜方向の器面調整、内面 は器面荒れしている。	棒状工具による横線文の上位 に櫛描波状文。	
1744 164	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	北西部 床上4cm	①白色・夾雑鈳物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部はくびれる。外面は器面荒 れ。内面は横方向の器面調整。	頸部は左回りの等間隔止簾状 文、下位には櫛描簾状文。	

171 B号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図377

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1745 164	弥生土器 甕	頸部破片	北東部 床面上3.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙5YR6/6	頸部は大きくくびれ、内面は横 なで。	頸部には櫛描横線文に沈線に よる丁字文が入る。	
1731 164	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①黒色鉱物粒・砂 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	口縁端部付近は受け口状を呈す。 内外面とも横なで。	口縁部には櫛描波状文がある。	
1727 164	弥生土器 小形甕	口縁部～頸部 破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③橙5YR7/6	頸部はくびれる。外面口縁部と 内面はなで。	頸部は9条1単位の櫛状工具 による2連止、右回りの簾状 文、口縁部と肩部に櫛描波状 文。	
1733 164	弥生土器 小形甕	口縁部～体部 の破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5YR8/2	口縁部は外反する。	頸部は右回りの等間隔止簾状 文。肩部は櫛描波状文、い ずれも工具は、1単位4条の櫛 条工具である。	
1730 164	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②普通。 ③灰黄褐10YR4/2	胴部は丸みをもつ、頸部はわず かにくびれる。	頸部は7条1単位左回りの等 間隔止簾状文、上位に逆の簾 状文の一部がある。	
1729 164	弥生土器 甕	頸部～胴部破 片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部はわずかに丸みもち、頸 部はわずかにくびれる。内外面 とも横方向の器面調整であるが、 器面荒れしている。	頸部は右回りの簾状文、肩部 は9条1単位の櫛描波状文を 3段施文。	
1732 164	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。 ②普通。 ③褐灰7.5YR4/1	胴部は丸みをもつ、内面は横な で。	頸部には右回りの簾状文。胴 部には櫛描波状文。	
1728 164	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰白7.5Y7/1	肥厚である。内外面とも器面荒 れしている。	7条1単位の櫛状工具による 波状文を2段確認。	
1726 164	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙7.5YR7/6	頸部は大きくくびれ、内外面器 面荒れしている。	頸部には櫛描横線文に沈線に よる丁字文が入る。丁字文下 位には篋状工具による斜格子 目文が鋸歯文を描く。	

171 B号住居出土遺物観察表《石器》 図378

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S634 164	磨製石鏃	1.5・1.0 0.18	珪質準片岩 0.31	床面直上	凹基無莖。表裏両面の周縁部分に稜がある。基部の穿孔は1孔で両 袂である。基部に欠損している。	
S640 164	磨製石 鏃	1.9・1.3 0.1	珪質準片岩 0.29	東周溝脇 床面直上	基部を欠損している。凹基無莖と考えられる。	
S635 164	磨製石鏃	1.6・1.6 0.17	珪質準片岩 0.50	床面直上	凹基無莖。表裏両面の周縁部分に稜がある。先端と基部の一部を僅 かに欠損している。	
S637 164	磨製石鏃	1.9・1.6 0.15	0.58	埋没土中	凹基無莖。表裏両面の周縁部分に稜がある。基部の穿孔は1孔で両 袂である。	
S636 164	磨製石鏃未 製品	3.4・3.1 0.3	4.69	北東周溝内 床面上6cm	凹基無莖。表面の周縁部分に稜がある。基部の穿孔は1孔で両袂で ある。	
S600 164	スクレーパー	3.4・3.0 0.9	黒色頁岩 10.11	ピット	一側縁に僅かに加工痕が認められる。	
S590 164	くさび	11.2・3.2 1.2	緑色片岩 73.50	床面上1.5cm	両端及び両側縁に敲打による剥離面を残す。形状から磨製石斧の可 能性もある。	
S602 164	スクレーパー	2.25・3.5 0.3	頁岩 2.95	ピット	横長剥片素材。折断。打面縁部及び端縁に加工痕が認められる。	
S601 164	砥石	4.85・3.8 1.1	砂岩 23.43	ピット	三面を研ぎ面としている。	

171B号住居出土遺物観察表《石器》 図378

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S592 165	敲石	15.9・4.7 3.8	変質玄武岩 490	南周溝外 床面上8cm	一端に敲打痕を残す。	
S599 164	磨製石鏃未 製品	9.25・2.2 0.5	珪質準片岩 9.78	ビット	粗割の段階であるが、すでに形状を意識している。	
S598	磨製石鏃未 製品	2.9・0.75 0.15	珪質準片岩 0.38	埋没土中	折断された資料である。	
S595 164	磨製石鏃未 製品	5.7・2.75 0.25	珪質準片岩 4.52	埋没土中	粗割の段階で、表面に2〜3本の溝が施されている。	
S597 164	磨製石 鏃未製品	1.8・1.9 0.25	珪質準片岩 1.34	埋没土中	分割工程の資料であるが、表裏両面に線状痕が認められる。	
S596 164	磨製石鏃未 製品	3.45・2.1 0.3	珪質準片岩 3.34	埋没土中	分割技法の資料である。	
S594 164	砥石	6.3・3.2 1.05	砂岩 28.07	埋没土中	二面を研ぎ面としており、一部に煤が付着している。	
S603 164	スクレーパー	3.0・5.25 1.2	黒色頁岩 16.80	ビット	横長剥片素材。礫面残存。一側縁に僅かに加工痕と使用痕、一側縁に微細な使用痕を残す。	
S593 164	スクレーパー	3.7・6.9 1.1	頁岩 36.40	埋没土中	縦長剥片素材。礫面残存。礫面打面。一側縁に加工痕が認められる。	
S589 164	敲石	13.6・4.8 3.1	黒色頁岩 387	南周溝内 床面直上	一端に敲打痕を残す。	

172号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図383

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1755 165	弥生土器 甕	肩部から頸部 底 5.8cm 高 13.4cm残	炉東脇 床面上5cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③オリーブ黒5Y 3/1 灰黄2.5Y 6/2混	胴部は丸みをもつ、頸部はくび れる。外面は縦、内面は横方向 の器面調整。	頸部は9条1単位の2連止右 回りの簾状文。頸部上半は、 3単位の櫛描波状文。	
1752 165	弥生土器 甕	胴下半部1/3 底 6.7cm 高 12.0cm残	北西壁付近 床面直上	①白・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②良好。 ③外面灰黄褐 10YR5/2 内面黒 褐10YR3/1	胴部は丸みをもつ、外面は縦方 向の鈍磨き。内面は多方向に器 面調整。		
1746 165	弥生土器 甕	体部下位から 底部 底 9.5cm 高 12.8cm残	北西部 床面上2cm	①砂質土であり、 黒色鉱物粒と小礫 を含む。 ②良好。 ③にぶい赤褐5YR 5/3	胴部は大きく張る。外面は多方 向に器面調整、内面は横方向の 器面調整。		
1753 165	弥生土器 高杯	脚部上位 高 7.2cm残	南西部 床面上4cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	脚部は裾に向かい開く、外面は 器面荒れ、脚部内面は横方向の 器面調整。外面と杯部内面は塗 彩。		
1749 165	弥生土器 甕	口縁部～体部 1/3残存 口 13.7cm 高 12.0cm残	南東部 床面上4cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部はわずかにくびれる。外面 は器面荒れ。内面は横方向の器 面調整。	頸部は右回りの簾状文。口縁 部と胴部には櫛描波状文が各 2段ある。	

172号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図383

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1751 165	弥生土器 台付甕	口縁部～体部 1/2残存 口 (13.0cm) 高 9.2cm残	南東隅 床面上5cm	①砂質土であり、 夾雑鉱物粒・雲 母・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部に最大幅があり丸みをもつ。 頸部はくびれる。口縁はわずかに 外反する。外面は器面荒れが はげしく、頸部付近で横方向の 鏡磨きがみられる。内面は横方 向の器面調整。胴部下部に斜と 縦方向の器面調整。	頸部は10条1単位の2連止右 回りの簾状文。口縁部と胴部 には櫛描簾状文、口唇部と胴 部最大幅部分に、円形刺突文 のあるボタン状貼付文がある。	
1750	弥生土器 高杯	脚部 底 15.0cm 高 6.6cm残	南西部 床面上7cm	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母・小礫を 含む。 ②良好。 ③赤7.5R4/6	脚部は裾部に向かい開く、端部 平坦、全体に肥厚。外面は、縦 方向の鏡磨きと裾部は横なで、 内面は横方向の器面調整。外面 は塗彩。		
1747 165	弥生土器 甕	口縁部～体部 口 18.2cm 高 18.4cm残	1ピット脇 床面直上	①白色・黒色鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	胴部上半は縦方向の鏡磨き、頸 部はわずかにくびれ、口縁部は 外反する。口唇部は外斜する。 内面は縦横方向の器面調整。	頸部は17条1単位の細かい目 の2連止簾状文が左回りで施 文。口唇部と胴部上半に3段 分の櫛描波状文。	
1748 165	弥生土器 壺	口縁部～体部 1/2残 口 (18.0cm) 高 19.0cm残	6ピット北脇 床上5cm	①白色鉱物粒・砂 粒を含む。 ②良好。 ③黒2.5Y2/1	胴部は丸みをもつ、頸部は大き くくびれ、口縁は外反する。外 面は縦および斜方向の器面調整。 内面は横方向の器面調整。	頸部には2連止右回りの簾状 文。肩部には2～3段の櫛描 波状文。	
1754 165	弥生土器 器台・高 杯?	高台部 高 6.0cm残	17ピット東脇 床面上12cm	①微細砂であり少 量の小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	脚部は大きく開く、外面は縦方 向の鏡磨き、内面は横方向の器 面調整。杯部、底部は平坦、脚 部には3ヶ所円形の透しを入れ る。		
1756 165	弥生土器 台付甕	台部 台 4.0cm 高 4.5cm残	12ピット北脇 床面上13cm	①砂質土であり、 夾雑鉱物粒と小礫 を含む。 ②良好。 ③淡赤橙2.5YR 7/3	円柱状やや上部が外反をはじめ る。外面は縦方向の鏡磨き。		外面塗彩。
1758	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (25.8cm) 高 4.5cm残	12ピット北脇 床面上15cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②緩い。 ③淡橙5YR8/3	口縁はわずかに外反する。端部 に刻み目、内外面とも横方向の 器面調整、内外面とも器面荒れ している。		
1757	弥生土器 壺?	口縁部破片 口 (15.0cm)	埋没土中	①白色・黒色鉱物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙5YR 7/3	口縁部は内湾する。内外面とも 横方向の器面調整。口縁部付近 には焼成後の2つの穴がある。 (補修孔?)		
2127	弥生土器 高杯	口縁部破片 口 (21.0cm)	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③赤10R5/8	口縁部は大きく外反する。内外 面とも横方向の器面調整であり 塗彩されている。		内外面赤色 塗彩。
1760 165	弥生土器 小形甕	口縁部～体部 破片	北西部 床面上14.0cm	①白色・石英砂・ 輝石を含む。 ②良好。 ③赤褐10R5/4	胴部は丸みをもつ、頸部はくび れる。口縁部はわずかに外反す る。内外面とも丸みをもつ。	口縁部・頸部には櫛描波状文 がある。	
1759 165	弥生土器 壺	頸部破片	6ピット南脇 床面上7.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部は大きくくびれ、外面は縦、 内面は横方向の器面調整。	頸部は12条1単位の2連止右 回りの簾状文があり、下位に 櫛描波状文がある。	
1762 165	弥生土器 甕	体部破片	6ピット南脇 床面上7.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。微細砂土。 ②やや緩い。 ③淡橙5YR8/3	胴部上半部分であり、外面は多 方向に器面調整、内面は横方向 に器面調整。	胴部上半部分は横方向に棒状 工具による沈線文があり、上 位に櫛描波状文がある。	

172号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図383

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1761 165	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鈳物粒を含む。 ②普通。 ③淡橙5YR8/4	口縁部は大きく外反する。口縁部は折り返しである。内外面とも器面荒れている。	折り返し口縁部は刻み目を入れる。	

172号住居出土遺物観察表《石器》 図384

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S606 165	敲石	15.25・6.8 4.0	粗粒安山岩 664	ピット7北脇 床面上3cm	一端に敲打痕を残す。	
S605 165	敲石	9.25・7.65 3.15	粗粒安山岩 350	南東部 床面上10cm	一端を欠損している。表裏両面及び一端に顕著な敲打痕を残す。	
S604 165	砥石	6.2・5.3 3.25	硬質泥岩 145	北西部 床面上2cm	4面を研ぎ面としており、表裏両面に擦切り痕が認められる。一部に敲打による剝離面が認められる。一端を欠損している。	
S607 165	スクレーパー	4.65・6.3 1.6	黒色頁岩 53.54	埋没土中	縦長剥片素材。礫面残存。一側縁を中心に端縁及び一側縁の一部に加工痕が認められる。	

173A号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図385

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1362 166	弥生土器 甕	完形 口 8.5cm 底 4.5cm 高 9.5cm	南東部 床面直上	①白色・夾雑鈳物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③黒褐10YR3/2	胴部は丸みをもつ、頸部はくびれる。口縁部はわずかに外反、内外面は多方向に器面調整。	頸部には2~4連止右回りの簾状文があり、胴部上半と口縁部には2~3段の櫛描波状文がある。	
1366	弥生土器 甕	口縁部1/4 口 (20.0cm) 高 5.0cm残	2ピット東脇 床面直上	①白色鈳物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR5/2	口縁部はわずかに外反し、折り返す。外面は縦、内面は横方向の器面調整。	折り返し口縁部は櫛描波状文。	
1367	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (22.8cm) 高 5.8cm残	9ピット西脇 床面上6cm	①黒色鈳物粒・雲母・輝石を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/1	口縁部は大きく外反し、折り返す。内外面とも横方向器面調整。	折り返し口縁部には棒状付文がある。	
1363 166	弥生土器 小形甕	口縁部から底部1/5 口 (7.0cm) 底 (3.5cm) 高 8.0cm残	東壁際 床面上13cm	①白色・黒色・夾雑鈳物粒を含む。 ②緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	胴部は丸みをもつ、頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。つくりは手捏ねであり、器面は歪む。口縁部は横なで。		
1377	弥生土器 甕	口縁部から頸部破片 口 (17.0cm) 高 10.0cm残	北東隅 床面上13cm	①白色・黒色・夾雑鈳物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部は大きく外反し、折り返す。内外面とも器面荒れ、内面は横方向の器面調整が残る。	頸部付近に5段の櫛描波状文がみられる。	
1382	弥生土器 甕	口縁部1/3 口 (17.4cm) 高 5.5cm残	4ピット	①白色・黒色・夾雑鈳物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部は僅かに外反、内外面口縁部横なで、外面は斜方向の器面調整。	頸部には簾状文の一部が残る。	
1376 166	弥生土器 甕	頸部破片	2ピット南脇 床面上3.0cm	①白色鈳物粒・石英砂を多量に含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	口縁部は大きく外反する。内面は横方向の器面調整。	9条1単位の櫛状工具による3段文の櫛描波状文がある。	
1372 166	弥生土器 甕	口縁部破片	南西壁際 床面直上	①白色・黒色鈳物粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/2	口縁部外反し、折り返す。内外面とも横方向の器面調整。	折り返し口縁部は櫛描波状文がある。	

173A号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図385

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1371 166	弥生土器 壺	口縁部破片	東部 床面上2.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、内外面とも横方 向の器面調整。	折り返し口縁部は地文に櫛描 波状文を施文後刻み目を入れ る。	
1373 166	弥生土器 甕	口縁部破片	6ピット西脇 床面上4.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部はわずかに外反、内外面 とも器面荒れしている。	口縁部には櫛描波状文を施文 後円形刺突文をもつボタン状 貼付文がある。	
1374 166	弥生土器 甕	口縁部破片	南西壁際 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部はわずかに外反、内外面 とも器面荒れしている。	口縁部には櫛描波状文がある。	
1368 166	弥生土器 甕	口縁部破片	東壁際 床面上8.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③橙2.5YR6/6	頸部はくびれる。口縁部は外反 し端部付近でわずかに立つ、内 面は横なで。	頸部は右回りの簾状文、口縁 部は2単位櫛描波状文がある。	
1375 166	弥生土器 壺	口縁部破片	東部 床面上2cm	①白色・黒色・夾 雑物粒・輝石が含ま れている。 ②緩い。 ③橙5YR7/6	口縁部は大きく外反し、折り返 す。内外面とも器面荒れしてい る。	折り返し口縁部端部は篋押さ え状の刻み目がある。	

173A号住居出土遺物観察表《石器》 図385

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S613 166	敲石	10.65・4.9 2.5	砂岩 213	南東壁際 床面直上	両端に敲打痕を残す。	

173B号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図388

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1365 166	弥生土器 甕	体部下位から 底部 底 7.0cm 高 7.0cm残	南西部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	胴部に向かい開く、外面は縦、 内面は横方向の器面調整		
1380	弥生土器 高杯	杯部脚部接合 部 高 3.0cm残	北東部 床面直上	①微細砂・夾雑鉱 物粒を含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	杯部と脚部の接合部であり、外 面と杯部内面は篋磨き、脚部内 面は横方向の器面調整。	外面および杯部内面は塗彩。	
1364	弥生土器 鉢	口縁部から体 部1/4 口 (17.4cm) 高 7.5cm残	2ピット西脇 床面上6cm	①白色・黒色・夾 雑物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/2	口縁は大きく開く、外面は縦、 内面は横方向の器面調整、外面 口縁部は横なで。		
1369 166	弥生土器 甕	口縁部破片	北東部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	口縁部はわずかに外反、内面は 横なで。	口縁部は櫛描波状文が2段分 ある。	
1381 166	弥生土器 甕	体部破片	南東部 床面直上	①白色・黒色・夾 雑物粒・石 英砂を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR3/2	胴部中位はわずかに丸みをもつ。 外面は斜、内面は横方向の器面 調整。	胴部には櫛描波状文がある。	

173B号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図388

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1378 166	弥生土器 壺	体部破片	7ピット南脇 床面上10.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	胴部は丸みをもつ。内外面は横 方向の器面調整。	胴部上半に櫛描波状文。	
1370 166	弥生土器 甕	口縁部破片	北東壁際 床面上14.0cm	①白色鉱物粒・輝 石・小礫を含む。 ②普通。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部上半は丸みをもつ、頸部は くびれる。口縁部は大きく外反 する。内面は横方向の器面調整。	頸部は右回りの簾状文、胴部 と口縁部は櫛描波状文。	
1379 166	弥生土器 甕	体部破片	2ピット内 床面上68.0cm	①石英砂・黒色・ 夾雑鉱物粒・小礫 を含む。②普通 ③赤橙10R6/6	外面は縦、内面は横方向の器面 調整で肥厚、外面の一部に塗彩。	沈線区画の中に、平行沈線文 がある。	

173B号住居出土遺物観察表《石器》 図389

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S612 166	敲石	16.8・5.3 3.4	頁岩 495	埋没土中	一端に敲打痕、一側縁に敲打による剥離痕を残す。	
S614 166	敲石	13.35・9.3 8.2	粗粒安山岩 1450	南東壁際 床面上4cm	一端に顕著な敲打痕、一端に敲打による剥離痕を残す。	
S611 166	敲石	13.4・4.95 3.2	粗粒安山岩 290	2ピット北西 床面上9cm	一端に敲打痕、一側縁に敲打による剥離痕を残す。	
S609	石錘	5.55・3.9 1.2	雲母石英片岩 34.93	埋没土中	一端を欠損する。一端及び一側縁に打ち欠きによるくびれが認められる。	
S610 166	打製石斧	2.2・2.3 0.6	黒色頁岩 3.25	埋没土中	打製石斧の頭部の部分と考えられる。頭部に礫面残存。	
S638 166	打製石鏃	1.55・1.3 0.35	黒曜石 0.49	北東壁際 床面上8cm	三角鏃。先端部分を僅かに欠損している。	

173B号住居出土遺物観察表《木器》 図389

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ (cm)	出土位置	木 取 り 種	遺存状態	加土形状の特徴	備 考
W811(1) 166	礎 板	17.5+α×6.0×2.8		角 材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端欠損	一端部は斜に切りおとす。 断面は四角形である。	P7の底面に2 本並んで出土、 角材を礎板がわ りにしたもので ある。
W811(2)	礎 板	18.6+α×4.0×3.5		角 材	一端欠損	〃	

174号住居出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図391

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1400 166	土師器 埴	下半1/2欠損 口 (12.6cm) 高 20.0cm残	貯蔵穴内 底面上33cm	①細砂・砂粒を含む。 白色・赤色鉱物粒を含 む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	大形の埴形土器。口縁部は直立きみ。体部外面斜刷 毛目 (6本/1cm) 後などで調整。体部内面横方向で 調整。輪積痕残る。口縁部内外面丁寧などで調整。	
1401	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (13.6cm) 高 6.0cm残	ピット7内 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③灰白2.5YR8/2	体部外面刷毛目 (6本/1cm) 内面縦方向指などで。口 縁部内外面横などで。	

174号住居出土遺物観察表《石器》 図391

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S616 166	敲石	12.8・5.9 5.8	石英閃緑岩 715	南東部 床面直上	一端に敲打痕を残す。	

174号住居出土遺物観察表《石器》 図391

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S615 166	台石	14.0・16.8 3.5	輝緑岩 1378	北東壁際 床面上4cm	一部欠損している。一部に剝離面が認められる。	

175号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図394

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1403	弥生土器 ミニチュ ア	体部～底部 底 2.9cm 高 2.8cm残	6ビット東脇 床面直上	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②普通。 ③灰白5Y7/1	胴部は上位に向かい広がる。器 肉は薄い。外面は縦、内面は横 方向の器面調整。		
1412 166	弥生土器 高杯	脚部1/2残 底 (8.3cm) 高 6.9cm残	南西部 床面上5cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5Y R6/4	脚部は裾に向かい大きく開く。 裾端部平坦、外面は縦方向の鈍 磨き、内面は横なで。内外面と も器面荒れしている。		
1410	弥生土器 鉢	口縁部破片 口 (19.2cm) 高 6.9cm残	32ビット南脇 床面上5cm	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③外面灰黄褐 10YR5/2 内面黒 5Y2/1	内外面とも横方向の器面調整。		
1402 166	弥生土器 蓋	完形 摘 3.7cm 裾 9.0cm 高 5.0cm	南西部 床面上5cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	形状は市女笠状を呈す。つまみ 部分は、円形の穴が十字に穿た れている。外面は縦方向の器面 調整、内外面とも器面荒れして いる。		つまみ径 3.7cm、 つまみ部に 4孔。
1413 167	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (20.4cm) 高 10.4cm残	IV面-Y-59 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は外反する。内面 は横なで、内外面とも器面荒れ している。	頸部には右回りの簾状文、胴 部と口縁部は櫛描波状文。	
1411 167	弥生土器 壺	底部破片 底 4.7cm 高 3.8cm残	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙5YR 7/4	胴部は丸みをもつ。外面は縦方 向の器面調整、外面の底部を除 き塗彩。		内外面赤色 塗彩。
1414 167	土製品 土錘	完形 長 4.0cm 幅 2.6cm	埋没土中上層	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・雲母を 含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	棗状を呈す。長軸中心には直径 4mmの穴を穿つ。一部に指頭痕 を残す。		
1405 167	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	南西部 床面直上	①白色・黒色 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。	頸部には2連止右回りの簾状 文、胴部上半には7から8条 1単位の棒状工具による櫛描 波状文を4段施文。	
1408 167	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	8ビット 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部上位はくびれる。頸部はく びれる。	頸部には2連止右回りの簾状 文、胴部上半には櫛描波状文 が3段確認できる。	
1406 167	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	北東部 床面上3.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・砂質・小礫を 含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。内面は横方向の器面調整。	頸部には2連止右回りの簾状 文、胴部上半には9条1単位 の棒状工具による櫛描波状文を 3段施文。	

175号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図394

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1404 167	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	南東部 床面上7.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂・小礫 を含む。 ②やや緩い。 ③橙2.5YR6/6	頸部はくびれる。内外面とも横 なで。	頸部には右回りの簾状文、直 下に櫛描波状文を施文。	
1407 167	弥生土器 甕	頸部～体部破 片	南東部 床面上7.0cm	①黒色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ。内外面とも 器面荒れている。	頸部は2連止による右回りの 簾状文、直下に3段の細かい 櫛描波状文と1段の大きな櫛 描波状文がある。この下位胴 部を塗彩。	塗彩土器
1409 167	弥生土器 小形甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	頸部はくびれる。胴部は丸みをも つ。内面は横なで、内外面と も器面荒れている。	頸部には2連止右回りの簾状 文。口縁部は櫛描波状文。	

175号住居出土遺物観察表《石器》 図394

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S621 167	石核	4.6・4.0 1.8	珪質頁岩 34.91	ピット	剥片素材。周縁から両面への求心的な剥片剥離を施す。	
S620 167	磨製石鏃未 製品	4.85・1.4 0.4	珪質準片岩 3.27	埋没土中	形制剥片である。	
S617 167	投石?	4.05・3.55 2.8	粗粒安山岩 45.54	南西部 床面直上	一端に敲打痕を残す。	
S618 167	敲石	13.1・4.2 2.2	緑色片岩 198	南東部 床面上6cm	一側縁に敲打による剥離痕を残す。	

176号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図397

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1765	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (19.8cm) 高 7.2cm 残	南西部 床面上10cm	①砂質土であり、 夾雑鉱物粒・小礫 を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部は大きく外反する。口縁 部は折り返し、外面は縦方向の 器面調整と横なで、内面には塗 彩。	折り返し口縁部の端部に刻み 目。	
1766 167	弥生土器 甕	底部破片 底 (5.2cm) 高 2.6cm 残	埋没土中	①石英砂・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/4	胴部に向かい広がる。内外面と も横方向の器面調整。孔径 1.2cm。		
1767	粘土塊?	縦 6.0cm 横 5.0cm 高 5.8cm	埋没土中	①砂粒・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙7.5YR 8/3	形状、不定形。		
1769 167	弥生土器 壺	頸部破片	3ピット	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・雲母・ 輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部は丸みをもつ。胴部は上半 は縦方向の器面調整。内面は器 面荒れている。	頸部は櫛描波状文に沈線文に よる丁(てい)字文を付してい る。	
1768 167	弥生土器 甕	頸部破片	南西壁際 床面上3.0cm	①石英砂・白色鉱 物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	頸部はくびれる。内面横なで。	頸部は左回りの簾状文、肩部 は櫛描波状文。	

176号住居出土遺物観察表《石器》 図397

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S729 167	砥石	5.9・5.0 1.2	凝灰岩質砂岩 44.67	西壁際 床面近く	5面を研ぎ面としており、大きいものを含めて多数の線状痕を残す。	
S622 167	磨製石鏃 未製品	4.2・1.8 0.75	珪質準片岩 7.30	埋没土中	形割剥片である。	

177号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図399・400

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1773	弥生土器 壺	体部下位一底部 底 (10.6cm) 高 9.2cm残	南東部 床面直上	①砂質であり、夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れしている。		
1772 167	弥生土器 壺	口縁部一頸部 破片 口 (13.3cm)	北西部 床面直上	①黒色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部は大きくくびれる。口縁部は大きく外反する。内面は横、外面は縦方向の器面調整。	頸部には3条の平行沈線文がある。中・下線間には地文に縄文を施文後波状文。口唇部は縄文。	
1776 1777 167	弥生土器 甕	胴部下 底 (6.8cm) 高 2.6cm残	2ピット南脇 床面直上	①微細砂・少量の夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰白10Y7/1	底部から胴部中位に向かい開く。外面は縦、内面は横方向の器面調整。		
1770 167	弥生土器 甕	上半1/4残 高 18.5cm残	東壁際 床面上3.0cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は外反。口縁部は横なで。	頸部から胴部にかけて櫛状工具により羽状文を施文。	
1771 167	弥生土器 鉢	口縁部一部欠損 口 19.2cm 底 6.8cm 高 8.0cm	南壁際 床面上5.0cm	①砂質。 ②普通。 ③灰オリーブ 7.5Y4/2	底部から口縁部に向かいほぼ直線状に開く。口縁部付近でわずかに内湾する。口縁端部は平坦。口縁部付近に2孔貫通している直径3mm。	内外面とも丁寧な横方向の器面調整。外面底部を除き塗彩。	
1774 167	弥生土器 甕	1/2弱 口 (11.0cm) 底 5.2cm 高 8.5cm	7ピット東脇 床面上5.0cm	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部はわずかに丸みをもつ。口縁部は大きく外反する。口縁部は横なで。外面胴部下半部文様を施文後縦方向の磨き。	口唇部は縄文が施文されている。胴部上半には5条1単位の櫛状工具により3段の櫛描波状文。	
1775 167	弥生土器 甕	底部破片 底 6.0cm 高 6.8cm残	南西壁際 床面下5.0cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②普通。 ③灰褐7.5YR5/3	胴部はわずかに丸みをもつ。外面は縦方向の磨き。内面胴部は縦方向の磨き。底部付近は横方向の器面調整。		
1778	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (18.6cm)	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	頸部はくびれる。口縁部は外反。口縁部内外面は横なで。内外面とも器面荒れしている。	頸部には右回りの等間融止簾状文を施文。口唇部には縄文がわずかに残る。	
1783 168	弥生土器 壺	口縁部破片	炉内 使用面直上	①白色・夾雑鉱物粒・雲母を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	内面は横方向の器面調整。外面は器面荒れ。	口縁部および口唇部に縄文。口縁部には棒状工具により斜向沈線文がある。	
1786 168	弥生土器 甕	体部破片	床面下	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みをもつ。内面は横方向の器面調整。	胴部には縦・横方向に5条1単位の櫛状工具が施文される。	

177号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図399・400

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1782 168	弥生土器 甕	頸部破片	1ピット西脇 床面上9.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂・小礫 を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/1	胴部は丸みをもつ。頸部はわず かにくびれる。内面胴部は縦方 向の鈍磨き。内面頸部は横方 向の器面調整。外面は器面荒れし ている。	肩部から胴部にかけては羽状 文。	
1779 168	弥生土器 壺	体部破片	南西部 床面上6.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③黒褐7.5YR3/1	胴部最大幅付近の破片と考えら れ丸みをもつ。内外面とも横方 向の器面調整。	棒状工具による連弧文が施文 されている。	
1785 168	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部は頸部から大きく外反す る。口縁端部付近に近づき立ち 上がる。	口縁部には棒状工具による横 線文があり、この上下を斜向 沈線文により充填する。	
1789 168	弥生土器 壺	頸部の破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部はくびれる。内外面とも器 面荒れしている。	頸部は横方向にたて刻目文を 入れる。	
1788 168	弥生土器 壺	頸部	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	内面は器面荒れしている。	平行沈線文と円形刺突文が入 る。	
1787 168	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	頸部はわずかにくびれる。内外 面とも器面荒れ。外面は横方向 の器面調整。	頸部は櫛描横線文（簾状文）。 肩部には棒状工具による斜格 子目文がみられる。	
1790 168	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 6/3	胴部はわずかに丸みをもつ。内 面は横方向の器面調整。	櫛描波状文を施文後、縦方向 に櫛状工具による垂下文を施 文。	
1780 168	弥生土器 壺	体部破片	東壁際 床面上3.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・砂粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	わずかに丸みをもつ。内外面と も器面荒れしている。	棒状工具による平行沈線文と 沈状沈線文が残る。	
1781 168	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・砂粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みをもち大きく張る。 頸部は大きくくびれ口縁部に向 かいわずかに外反をはじめる。 内外面とも器面荒れしている。	頸部付近には棒状工具による 平行沈文が3本ある。	
1857							
1858							

177号住居出土遺物観察表《石器》 図401

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S624 168	砥石	10.4・6.5 4.0	凝灰岩質砂岩 315	南東壁際 床面直上	三面を研ぎ面としており、表面に敲打痕、裏面に線状痕を残す。	

177号住居出土遺物観察表〈石器〉 図401

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S623 168	スクレーパー	6.45・5.6 1.3	黒色頁岩 41.29	北東部 床面上7cm	縦長剥片素材。一側縁に加工痕、一側縁に使用痕が認められる。	

178号住居出土遺物観察表〈弥生土器〉 図404

番号 PL	器種	残 存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1791 168	弥生土器 壺	体部中位1/4 残存 高 14.0cm残	南西部 床面上14.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みもち大きく張る。 内外面とも斜方向の器面調整。 内面は器面荒れがはげしい。	胴部最大幅部分には沈線による3重の連弧文が2段みられる。	
1794	弥生土器 壺	頸部破片 高 6.6cm残	中央部 床面後16.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	頸部はくびれる。内外面器面荒れしている。	頸部には平行沈線文が8条残る。	
1793 168	弥生土器 甌	底部～体部下 底 5.3cm 高 5.8cm残	南西部 床面上17.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②普通。 ③褐灰7.5YR 6/1	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れしている。底部中央に直径0.7cmの円形孔を焼成後に穿つ。外面には塗彩。		
1792 168	弥生土器 匙	柄部分と先の 部分欠損 幅最大5.9cm 長 8.0cm 厚 5～6mm	10ピット南脇 床面上21.0cm	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙 7.5YR7/3 赤7.5R4/8	全体の形状は不明。長軸方向に整形痕が残る。		内外面赤色塗彩。
1795	弥生土器 甌	底部破片 底 (5.0cm) 高 2.0cm残	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	内外面とも器面荒れ。底部に直径1.8cmの穴を穿つ。		割れ口に塗彩。
1796	弥生土器 針	口縁部破片 口 (15.0cm)	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は内向する。内外面とも横方向の器面調整。口縁部付近に円形の穴を2個穿つ。		
1797 168	弥生土器 甕	体部破片	南東部 床面上12.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②普通。 ③褐灰7.5YR6/1	わずかに外反し、外面は斜方向の器面調整後、縦方向に磨き。内面は横方向器面調整。	棒状工具による横線文と列点文が入る。	
1801 168	弥生土器 甕	使部破片	中央部 床面上12.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②普通。 ③明褐灰7.5YR 7/1	外面は横方向の器面調整。内面は器面荒れしている。	棒状工具による横線文、斜向沈線文・列点文がある。	
1798 168	弥生土器 甕	体部破片	南東部 床面上20.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ②緩い。 ③黄灰2.5Y6/2	内外面とも器面荒れしている。	地文の一部に縄文があり、平行沈線文が3本ある。	
1802 168	弥生土器 甕	口縁部～胴部 破片	埋没土中	①白色・黒色 鉱物粒・小礫・輝石 を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は外反する。外面は横立方向の器面調整。	5条1単位の棒状工具により頸部には横線文。胴部は羽状文。	

178号住居出土遺物観察表《弥生土器》 図404

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1805 168	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫・ 輝石を含む。 ②緩い。 ③黄灰2.5Y7/2	胴部はわずかに丸みをもつ。内 外面とも器面荒れしている。	胴部にはコの字重文があり、 中心の地文に縄文がある。	
1799 168	弥生土器 壺	体部破片	南東部 床面上20.0cm	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②普通。 ③黄灰2.5YR5/1	胴部はわずかに丸みをもつ。内 面は横なで。	棒状工具による平行沈線文と 列点文を交互に施文。	
1800 168	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑物粒を含む。 ②普通。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みをもつ。頸部は大き くくびれる。内面は斜方向の器 面調整。	胴部には棒状工具による重三 角文や連弧文と思われる文様 が施文される。重三角文の頂 点に突起がある。	
1803 168	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	わずかに丸みをもつ。内外面と も器面荒れしている。	地文に縄文施文後、沈線文が ある。	
1804 168	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②緩い。 ③灰白2.5Y8/1	口縁部は受け口状を呈す。内外 面とも器面荒れしている。	口縁部外面には棒状工具によ る波状文がある。	
1806 168	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みをもつ。内外面とも 器面荒れしている。	地文に縄文を施文後、沈線に よる連弧文を施文。	

住居出土獣骨一覧表

番号	出土遺構	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
324	147号住居	イノシシ	白歯片							
325	147・148号住居	イノシシ	白歯片							
326	147・148号住居	イノシシ	白歯片							
327	153号住居		細骨片					○		
328	153号住居	骨角器					○		○	骨針
329	154号住居		細骨片					○		
330	154号住居		四肢骨片					○		
331	154号住居		骨片					○		
332	154号住居	ニホンシカ	角片、骨片					○		
333	155号住居		骨片					○		
334	157号住居	ニホンシカ	白歯片					○?		
335	157号住居		四肢骨片					○		
338	158号住居		細骨片					○		
339	158号住居	イノシシ	下顎第三後白歯	左	2.5才	♂		○		
341	165号住居		細骨片					○		
346	166号住居	ニホンシカ?	角片?			♂?				
347	166号住居	ニホンシカ?	角片?			♂?				
348	166号住居	ニホンシカ	下顎骨後白歯3個骨付	右	成					
349	166号住居	ニホンシカ	落角	右	成	♂	○			主幹角後面に切り痕有
351	163号住居		歯片							
352	167号住居	ニホンシカ	角片					○?	○	角先端部
353	169号住居		骨片							
354	169号住居	ニホンシカ	歯片							
355	169号住居		骨片							
356	169号住居		骨片							
357	169号住居		四肢骨片							
358	169号住居		骨片					○		
359	169号住居		四肢骨片					○		
360	169号住居	ニホンシカ	角、骨片、白歯片			♂		○		
361	169号住居		細骨片							
363	153号住居		四肢骨片					○		
364	171号住居	ニホンシカ	白歯片					○?		
365	171号住居		四肢骨片					○		
366	171号住居		骨片					○		
367	172号住居		細骨片					○		
368	173号住居		骨片							
369	173号住居		骨片							
370	174号住居	ニホンシカ	白歯、骨片					○		
371	175号住居	イノシシ	後肢中節骨		成			○		
372	175号住居	ニホンシカ	白歯片							
373	176号住居	ニホンシカ	白歯片							
374	176号住居		細骨片							
375	93号住居	イノシシ	白歯片							

4. 竪穴状遺構

2号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1021	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (16.0cm)	埋没土中	①細砂・赤色鉾物粒を 多量に含む。 ②酸化焰。軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	内外面回転などで調整。	

3号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1246 168	須恵器 耳皿	口縁部一部欠損 高 2.6cm残	南東隅 床面上12cm	①小礫・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。両端を押しつけて、耳皿を形づくっている。底部中央には、内面側から、直径7mmほどの焼成前穿孔がある。	

4号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1247 168	須恵器 高台付椀	体部中位～底部 1/4残存 底 (7.1cm)	北東 床面下3.9cm	①粗砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。体部内外面回転などで調整。	
1248	須恵器 椀	口縁部破片 口 (14.0cm)	埋没土中	①粗砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5YR8/1	内外面回転などで調整。	
1249	支脚か?	10.5×8.5cm	埋没土中	①小礫・粗砂を多量に 含む。 ②軟質。 ③橙	焼けた粘土塊である。表面に直径8mm程の小孔や鋭い擦痕が、焼成前につけられている。	

下り柳地区1号竪穴状遺構出土遺物観察表

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2238	軟質陶器 内耳鍋	口縁部破片 口 (35.2cm)	埋没土中	①礫少量含む。 ②普通、土師質。 ③黒褐2.5Y3/1 灰黄2.5Y6/1	口縁部内湾。内面口縁と体部境の段差なし。	在地製 15世紀
2237	軟質陶器 内耳鍋	底部破片 底 (24.0cm)	埋没土中	①白色鉾物細粒含む。 ②須恵質。 ③灰7.5Y5/1	体部器壁厚い。	在地製 15世紀
2239	軟質陶器 内耳鍋	底部破片 底 (25.4cm)	埋没土中	①白色鉾物粒含む。赤 色粒含む。 ②普通。 ③灰褐7.5YR5/2	外面体部下端ヘラ削り。	在地製 15世紀

新保田中村前遺跡Ⅱ

《遺物観察表編》

一級河川築谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

平成4年3月18日 印刷

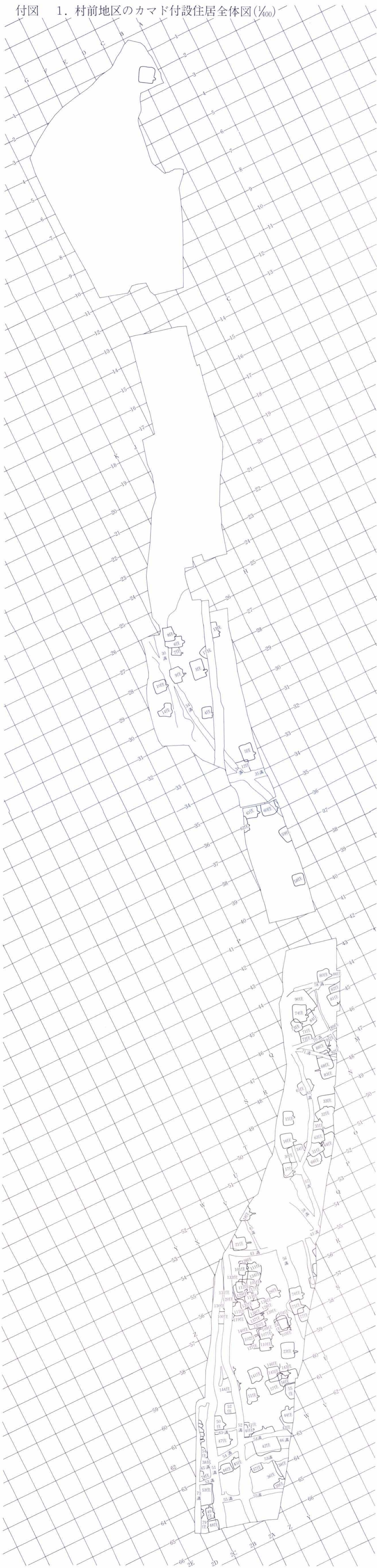
平成4年3月26日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

付図 1. 村前地区のカマド付設住居全体図(1/400)



付図 2. 村前地区の炉付設住居全体図(1/400)

